第１章　東アジア・東南アジア（１）

中国

世界最大の人口14億人を有する大国。GNIはアメリカ合衆国に次ぐ世界２位であり，１人当たりGNIも約9500ドルの高さ。工業生産も，鉄鋼や自動車，綿織物やPCなど，多くの部門で世界１位。貿易額および外貨準備高も世界最大であり，現代世界の経済の中心である。ただし，一次エネルギー消費(供給)量も世界最大で，とくに石炭の消費が多いため，二酸化炭素や硫黄酸化物の排出量も莫大なものとなり，環境対策が喫緊の課題となる。

＜東北区＞

東北(トンペイ)平原を中心とする地域。冬季はシベリア高気圧の影響を強く受け，内陸部から吹き出す乾燥した風に支配されるため，１月の平均気温は－10℃を下回る極寒の地となる。しかし，高温の夏を中心に農業はさかんで，春小麦や大豆，さらには品種改良による米の栽培も一部では行われている。

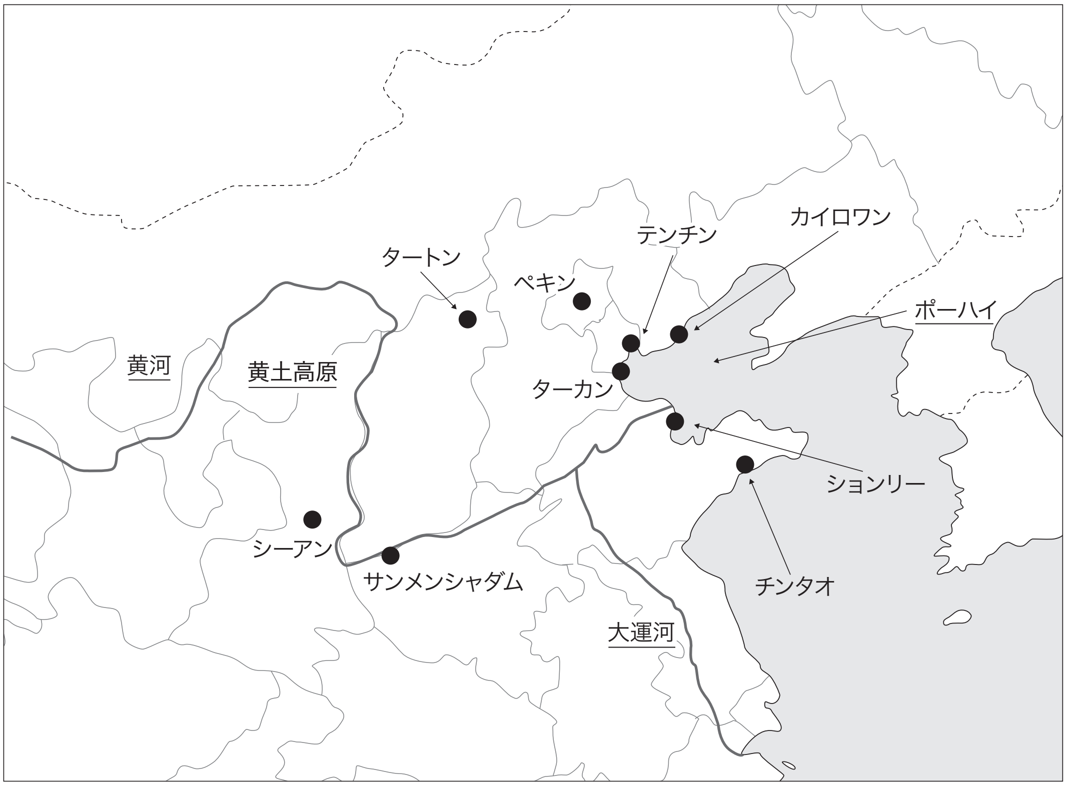
ヘイロンチャン(黒竜江)省・・・中国最北の省。
アムール川・・・ロシアとの国境河川。黒竜江ともいう。
ウスリー川・・・アムール川の支流で，同じくロシアとの国境となっている。

（1　　　　　　　　　）・・・トンペイ平原中央部に存在する巨大油田。パイプラインが南方に発している。
ハルビン(哈爾浜)・・・ヘイロンチャン(黒竜江)省の省都。
チーリン(吉林)省・・・東北区中央部に位置する省。
チャンチュン(長春)・・・チーリン省の省都。自動車工業がさかん。
ヤールー川(鴨緑江・アムノック川)・・・中国と北朝鮮の国境河川。
リャオニン(遼寧)省・・・東北区南部の省。
シェンヤン(瀋陽)・・・リャオニン(遼寧)省の省都にして東北区最大の都市。機械工業などが発達。
フーシュン・・・アンシャン鉄山の東に位置する炭田。
フーシン・・・アンシャン鉄山の西に位置する炭田。
（2　　　　　　　　　）・・・リャオトン(遼東)半島の北部に位置する中国最大規模の鉄山。鉄山立地型鉄鋼業の発達する都市の名称でもある。
リャオトン(遼東)半島・・・準平原地形がみられる。歴史的には，日清戦争後に日本が領有したものの，欧州の列強によって返還を迫られた(三国干渉)こともある戦略上の要衝。
ターリエン(大連)・・・リャオトン(遼東)半島の先端に位置する港湾都市。経済技術開発区の一つでもある。軍港として造船業が発達する他，内陸部ターチン(大慶)からパイプラインが通じ石油化学工業も立地する。

＜華北＞

主に黄河流域。上流の黄土高原から運ばれる黄土(レス)が堆積し，肥沃な農業地帯となっている。冬小麦がさかんに栽培される他，内陸部では綿花，やや温暖な地域ではトウモロコシの栽培も。

（3　　　　　　　　　）・・・中国北部を代表する河川。流長では長江に劣るものの，歴史的な重要性では長江をしのぐ。世界四大古代文明の一つ，黄河文明の発祥地として有名流域に乾燥地域(ステップ気候・BS)を含むため，しばしば河川が干上がってしまう「断流」が下流側で生じる。上流の黄土高原から黄土(レス)を運ぶので，流れは常に濁流となっている。下流は広大な平野で，河口は三角州となっている。
黄土高原・・・やや乾燥した気候であり，肥沃な風積土壌レス(ヨーロッパのレスとは異なり，中国のレスは大陸氷河とは関係ない)が堆積している。
大(ター)運河・・・黄河から長江まで，中国主要部を縦断する内陸水運の要。隋の時代に建設された歴史ある運河である。
（4　　　　　　　　　）・・・首都。中央直轄市でもある。天安門広場などが有名。内陸部に位置し，黄河の本流からもやや離れている。人口規模はシャンハイ(上海)に及ばない。綿工業・鉄鋼業など。
（5　　　　　　　　　）・・・中央直轄市。首都の外港として発展。機械工業や繊維工業が発達。
ターカン(大港)・・・テンチン(天津)近郊に位置する油田。
ションリー(勝利)・・・黄河河口付近に位置する油田。
ポーハイ(渤海)・・・黄河が注ぎ込む海域。
カイロワン(開灤)・・・ペキンやテンチンの東に位置する炭田。
タートン(大同)・・・ペキンの西方(ペキンとパオトウのほぼ中間地点)に位置する炭田。国内最大規模で，省別の石炭産出量でもこのタートン炭田を含むシャンシー(山西)省は上位である。
チンタオ(青島)・・・シャントン(山東)半島南部の港湾都市。経済技術開発区にもなっている。ビール工業に特色がある。なお，ビール工業で世界的に有名な都市には他にミュンヘン(ドイツ)とミルウォーキー(アメリカ合衆国)がある。
サンメンシャ(三門峡)ダム・・・黄河中流のダム。
（6　　　　　　　　　）・・・かつて長安とよばれていた古都。碁盤目状街路と市街地を囲む城壁で知られた。内陸部で位置がわかりにくいので地図でしっかり確認しておくこと(黄河本流からはやや離れている)。

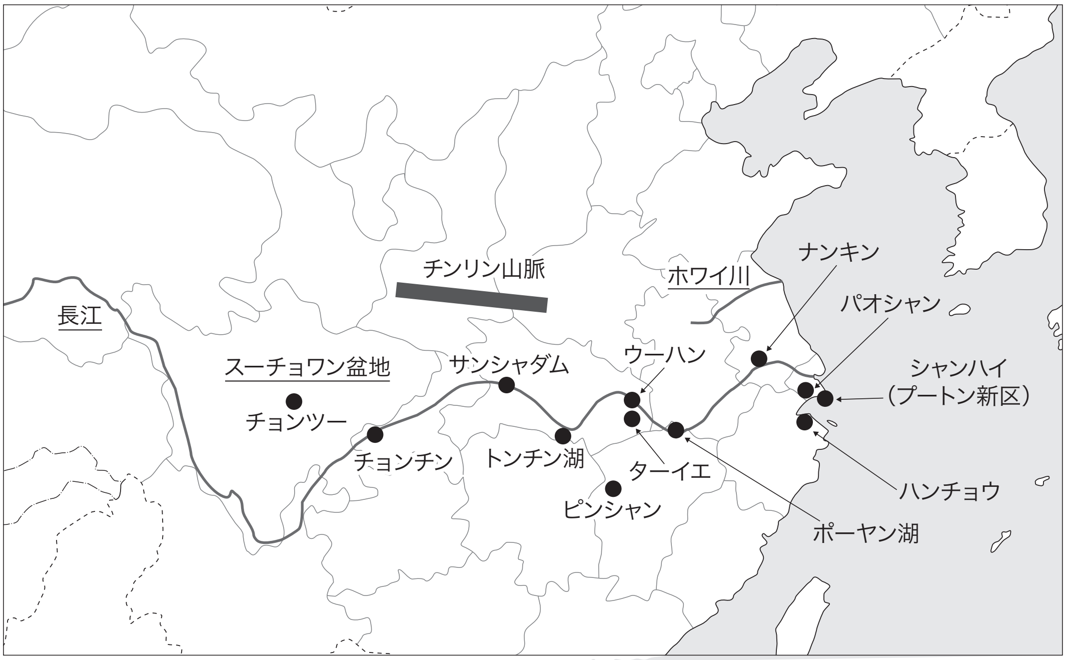


＜華中＞

長江流域。下流には広大な沖積平野が形成され，降水量が多いこの地域は豊かな水田地帯になっている。沿岸部の丘陵では茶の栽培も。中上流部に広がるスーチョワン盆地は米や冬小麦の栽培がみられる農業地域。

ホワイ川・チンリン（秦嶺）山脈・・・この２つを結んだ線が，ほぼ年間降水量1000mm（古い資料では750mmあるいは800mmとされている場合もある）の等値線と一致し，中国における畑作地域と米作地域とを分ける境界ともなっている。また，１月の平均気温０℃の等温線ともほぼ重なっており，寒冷な華北と温暖な華中とが区分されている。
（７　　　　　　　　）・・・チベット高原に水源を発する中国最大の河川。中流に巨大な盆地が位置し，下流には沖積平野が広がる。河口三角州は水田地帯。流量が多く，しばしば洪水に見舞われ，近年巨大なダムが建設された。内陸水運も発達し，多くの船舶が航行している。華北へと水路がつくられ，生活用水や工業用水が供給されている（南水北調）。
（８　　　　　　　　　）・・・中央直轄市。長江の河口近くに位置する。都市域人口は首都ペキンより大きく，工業生産は４つの中央直轄市中最大である。証券取引所も置かれ，世界金融の中心地の一つに成長している。世界有数のコンテナ取扱量を誇る港湾を有する。
プートン（浦東）新区・・・シャンハイ市内の一地区。輸出加工区となっている。
パオシャン（宝山）・・・シャンハイ郊外。日本の資本技術協力によって巨大な製鉄所が建設され，中国鉄鋼業の中心となっている。
ナンキン（南京）・・・長江下流の都市。
ハンチョウ（杭州）・・・運河が発達する水運の町。

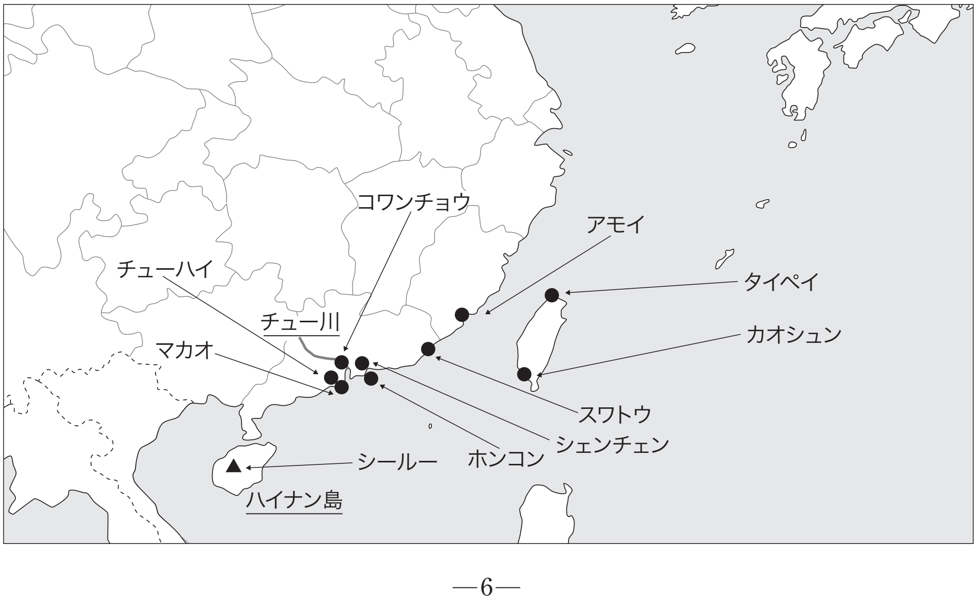
ウーハン(武漢)・・・長江とハン川(漢水)の合流点に位置する。三大鉄鋼基地の一つとして鉄鋼業が発達。
ターイエ(大冶)・・・ウーハン近郊の鉄山。かつては日本の八幡製鉄所へとさかんに鉄鉱石を輸出していた。
ピンシャン(萍郷)・・・ウーハン南方の炭田。
(9　　　　　　　　)ダム・・・ウーハンとスーチョワン盆地のほぼ中間に建設されたダムで世界最大規模。長江の増水による洪水を防ぎ，水力発電量も莫大。ただし，環境や生態系への影響も大きいと懸念されている。
ポーヤン(鄱陽)湖・トンチン(洞庭)湖・・・長江の中流にある湖。河川本流の増水期には面積が拡大し，下流域の水害を防ぐ作用(遊水池機能)がある。
(10　　　　　　　　)盆地・・・長江上流の巨大な盆地。山地の丘陵斜面を利用して，米や冬小麦の栽培が行われる。夏季に高温となり，発汗作用を高め，腐敗を防ぐ香辛料を多用した料理が有名(麻婆豆腐など)。インド・オーストラリアプレートとユーラシアプレートの境界に当たり，巨大地震(内陸直下型)の発生も。
(11　　　　　　　　)・・・以前はスーチョワン(四川)省の一都市であったが，現在は中央直轄市に昇格している。市域(たいへん広い)全体の人口は2500万人近くに達する。
スーチョワン(四川)省・・・スーチョワン(四川)盆地の大部分を占める。人口規模も8000万人を超え，内陸部としては大きい。チョンチン市を合わせ，スーチョワン盆地全体の人口は1億人に達する。
チョンツー(成都)・・・スーチョワン(四川)省都。



＜華南＞

１月の平均気温が10℃を上回り，米の二期作が行われている。亜熱帯性気候のもと，茶やサトウキビ，パイナップルの栽培。複雑な海岸線を利用して，多くの港湾都市が発達している。かつて多くの移民を海外に送り出した貧困な地方であったが，近年は急激な経済成長をみせる商工業地区として内陸部から多くの出稼ぎ労働者を迎え入れている。

フーチエン(福建)省・・・華南地方東部の省。方言の一つであるフーチエン(福建)語が話される。丘陵部は茶の名産地。
アモイ(厦門)・・・フーチエン省。経済特区の一つ。台湾海峡に面する。
コワントン(広東)省・・・華南地方中部の省。方言の一つであるコワントン(広東)語が話される。省都コワンチョウ(広州)。酢豚など広東料理で有名。
スワトウ(汕頭)・・・コワントン省東部。経済特区の一つ。
(12　　　　　　　)・・・コワントン省。ホンコンに隣接する経済特区で，とくに発展が著しい。内陸部からの出稼ぎ者により，人口急増。
チューハイ(珠海)・・・コワントン省。マカオに隣接する経済特区。
コワンチョウ(広州)・・・コワントン省の省都。チュー川デルタに位置している。綿工業や機械工業がさかん。酢豚など広東料理で知られる。温帯冬季少雨気候(Cw)。
チュー川(珠江)・・・華南を代表する河川。デルタにコワンチョウが位置する。
ハイナン(海南)省・・・華南地方南部の省。以前はコワントン省の一部であったが，やがて独立した省に昇格した。リゾート開発も進められている。
ハイナン(海南)島・・・他の４つよりやや遅れて経済特区に指定された。
シールー(石碌)・・・ハイナン島にある鉄山。
(13　　　　　　　)・・・特別行政区。1997年にイギリスから返還された。
(14　　　　　　　)・・・特別行政区。1999年にポルトガルから返還された。
(15　　　　　　　)自治区・・・少数民族としては最大の人口規模を持つチョワン族による自治区。仏教徒が多。
ユンナン(雲南)省・・・ユンコイ(雲貴)高原に位置。内陸部であるが比較的降水が多く，茶や米の原産地であるといわれている。省都はクンミン(昆明)。



＜内陸部＞

中国の西側の地域で，ほとんどの場所で年降水量が300mmに達しない。北部（モンゴル方面）や北西部（中央アジア方面）で砂漠気候がみられ，その周辺でステップ気候。南西部（チベット高原）で高山気候。遊牧やオアシス農業が営まれている。エネルギー資源の開発がさかんで「西気東輸」（西部で採掘された天然ガスを東部へ輸送する）や「西電東送」（西部で発電された電力を東部へ輸送する）など。

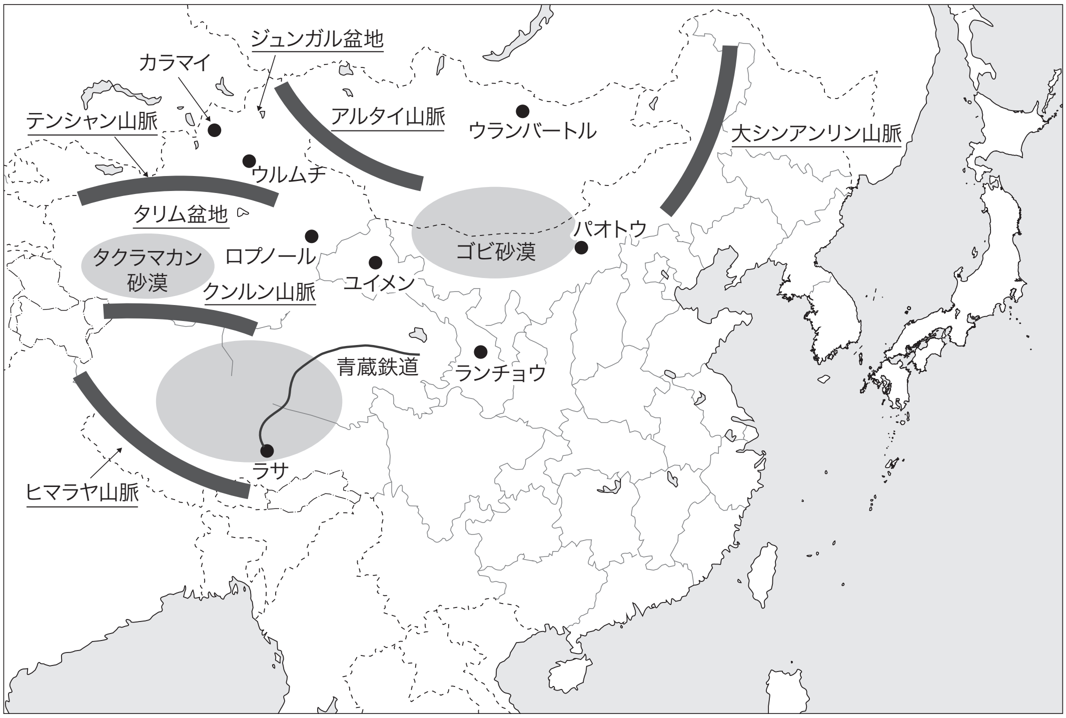
(16　　　　　　　　)自治区・・・モンゴル民族が居住。
大シンアンリン（興安嶺）山脈・・・内モンゴル自治区を縦断する巨大な山脈。
パオトウ（包頭）・・・三大鉄鋼基地の一つ（残る２つはアンシャンとウーハン）。
(17　　　　　　　　)砂漠・・・中国とモンゴル国境付近の砂漠。高緯度に位置する砂漠の代表例であるが，海からの距離が遠く，ここまで水分が達しないことによって生じた乾燥地域（隔海度が高い，という）。
ニンシヤホイ族自治区・・・黄河上流の自治区。イスラム教徒のホイ（回）族が居住。
ランチョウ（蘭州）･･･カンスー（甘粛）省。ユイメンからパイプラインが通じ，製油業が立地。
ユイメン（玉門）・・・カンスー省の油田。
(18　　　　　　　　)自治区・・・ウイグル族が居住。トルコ系の民族でイスラム教を信仰する。羊やラクダの遊牧や，綿花の栽培などが行われている。
ウルムチ（烏魯木斉）・・・シンチヤンウイグル自治区の区都。
カラマイ・・・シンチヤンウイグル自治区の北西にある油田。
アルタイ山脈・・・モンゴル方面にある山脈。古期造山帯。
ジュンガル盆地・・・アルタイ山脈とテンシャン山脈の間の盆地。シルクロードのテンシャン北路が通る。
(19　　　　　　　)山脈・・・地質年代は古生代（古期造山帯）であるが，その後の断層活動により大きく持ち上げられた地塁山脈（断層山脈）。古期造山帯でありながら標高がかなり高い（7000mを超える）のは断層による地形であることが原因。山頂に降った雨や雪がふもとで湧出し，多くのオアシスを形成している。テンシャン山脈の北側と南側には点在するオアシスをつないだ通商路が発達。
タリム盆地・・・テンシャン山脈とクンルン山脈の間の盆地。
(20　　　　　　　　)砂漠・・・タリム盆地に位置する砂漠。代表的な砂砂漠である。隔海度が高いうえ，海からの水分が山岳などによって到達できないために形成された乾燥地域。
タリム川・・・タリム盆地を流れる川。乾燥地域を流れる外来河川であり，同時に海へと流出しない内陸河川でもある。
ロプノール（ロプ湖）・・・シンチヤンウイグル自治区東部にある湖。「さまよえる湖」。風などによる地形の改変や，降水の変化などによって，その位置と形を変える。
クンルン（崑崙）山脈・・・チベット高原の北に沿う。古期造山帯。
(21　　　　　　　　)高原・・・新期造山帯の高原。塩湖が多く分布。降水量が少なくヤクなどの遊牧が行われている。
チベット（西蔵）自治区・・・チベット人が居住。ラマ教（チベット仏教）が信仰されている。
(22　　　　　　　　)・・・ラマ教の総本山であるポタラ宮殿がある宗教都市。標高は3700m。
青蔵鉄道・・・チンハイ省とチベット自治区を結ぶ鉄道。

(23　　　　　　　　　　)山脈・・・チベット高原の南に沿う巨大な褶曲山脈。インド・オーストラリアプレートがユーラシアプレートに衝突することで生じた。世界最高峰のエヴェレスト山(チョモランマ)を擁する。インドやネパールなどとの国境山脈でもある。

＜台湾＞

公式には中国の一部とされているが，実質的には独立国。共産党政府が支配する中国本土に対し，ここでは国民党が実権を握り，正式名称も「中華民国」である。政治的には対立するも，経済的には中国本土との結びつきは強い。半導体など電子部品の生産が多く，中国へも多く輸出されている。

(24　　　　　　　　　　)・・・台湾の首都的な役割を果たす都市。
カオシュン(高雄)・・・台湾南部の港湾都市。輸出加工区が置かれている。

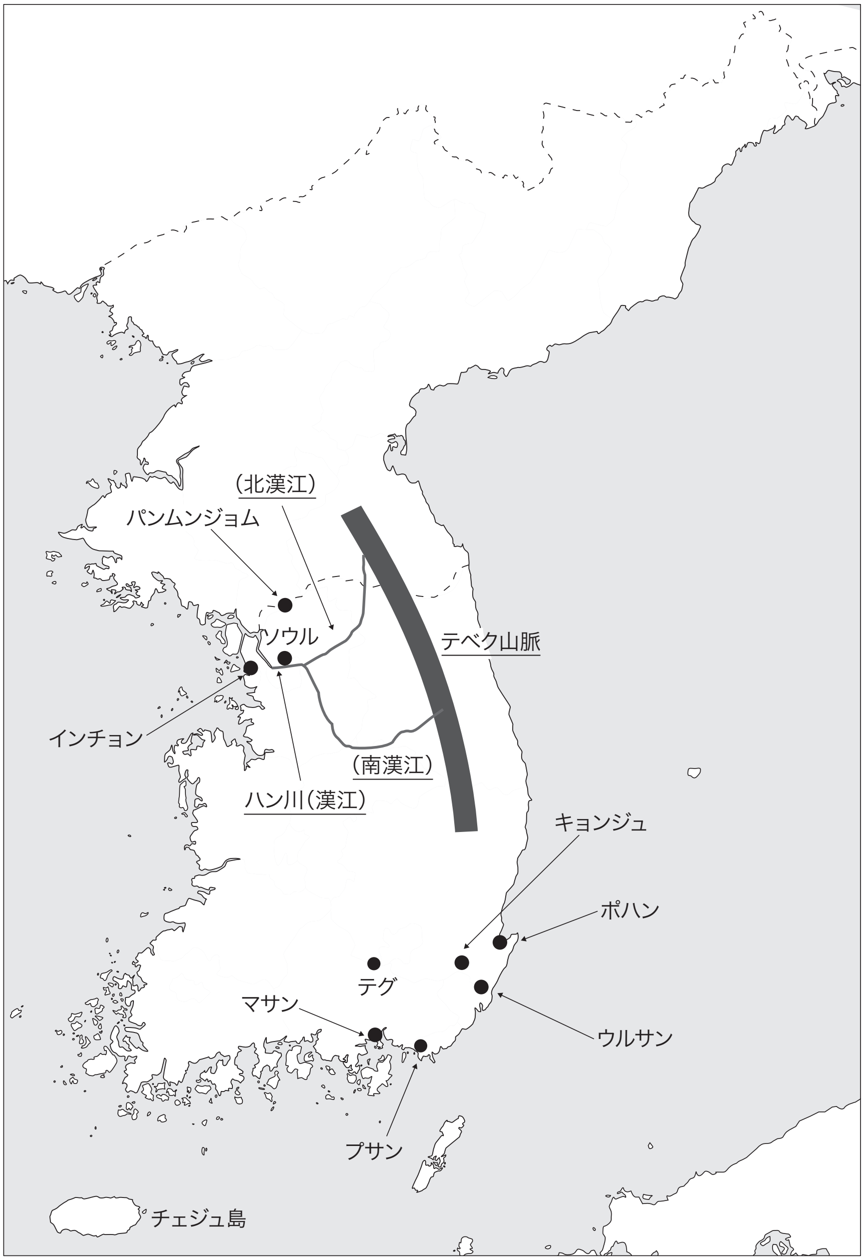


第2章　東アジア・東南アジア（2）

韓国

1960年代後半から1980年代にかけて高度経済成長を経験し，世界的な工業国へと躍進を遂げた。人口の５分の１が集中するソウルの地位が高いが，日本からの距離が近い半島南東部にポハンやウルサンなどの工業都市が並んでいることも特徴的。1970年代にはセマウル運動。新農村運動と訳されるもので，農業の合理化が進み，生産性が向上した。ただし，1980年代以降は都市へと人口が集中する傾向が顕著となり，農村と都市との格差は拡大している。

（1　　　　　　　　　）・・・首都。人口約1000万人。国内総人口の５分の１が集中。
ハン川（漢江）・・・朝鮮半島中央部を流れる河川。中流にソウル，河口にインチョン。韓国の高度経済成長のことを「漢江の奇跡」という。
（2　　　　　　　　　）・・・ソウルの外港都市。国内人口３位。ハン川の河口に位置。潮汐差（満潮時と干潮時の海面水位の差）が極大。近年大規模な空港が建設され，アジアにおける航空交通の中心となっている。
（3　　　　　　　　　）・・・韓国と北朝鮮の軍事境界線に設けられた場所で，南北の代表による会談が行われる。
（4　　　　　　　　　）山脈・・・朝鮮半島東部を縦断する山脈。標高はあまり高くない（朝鮮半島は安定陸塊である）。
テグ（大邱）・・・国内人口４位の都市。
キョンジュ（慶州）・・・古都。新羅の都だった。
（5　　　　　　　　　）・・・臨海型の製鉄所がある鉄鋼都市。日本海に面する。韓国は鉄鉱石，石炭ともに世界有数の輸入国である。
ウルサン（蔚山）・・・財閥が拠点を置き，企業城下町として発展。造船業，自動車工業の中心地。
（6　　　　　　　　　）・・・国内人口２位の都市であり，世界的な港湾を有する。首都ソウルとの間に鉄道（京釜線）や高速道路が通じている。日本との航路も設けられており，福岡市や下関市との間には定期船が就航している。
マサン（馬山）・・・輸出加工区として80年代を中心に外国からの企業進出がさかんになされた。
（7　　　　　　　　　）島・・・韓国最高峰がある火山島。リゾート開発も進む。



東南アジア（大陸部）

いずれも国際河川メコン川の流域に含まれる。大メコン圏として国際協力が進む。インドシナ半島を縦断そして横断する道路も整備されている。
第二次世界大戦まで東部はフランス植民地，西部はイギリス植民地だった。タイは緩衝国として独立を維持。

<ベトナム>

社会主義国。かつて南北に分裂していたが，ベトナム戦争によって北ベトナムが勝利し，統一。1980年代後半にドイモイ政策により市場経済化が進められ，1990年代のASEAN加盟なども相まって，21世紀に入り，急激な経済成長を遂げる。

（8　　　　　　　　）・・・首都。北部に位置する。温帯冬季少雨気候（Cw）。
ホン川・・・中国からベトナムへと流れ，トンキン湾に注ぐ河川。下流にハノイ，ハイフォンなど。
ハイフォン・・・ホン川河口に位置するハノイの外港都市。輸出加工区ともなっている。
ホンゲイ炭田・・・ベトナム北部の炭田。
フエ・・・中部の都市。ベトナム戦争の激戦地の一つ。
（9　　　　　　　　）・・・南部に位置する国内人口最大都市であり，商工業の中心。メコンデルタに位置する。サバナ気候（Aw）。旧名はサイゴンであり南ベトナムの首都であったが，ベトナム戦争によって北ベトナムに支配されると，北ベトナムの（つまり統一ベトナムの）指導者であるホーチミン氏の名前が冠せられた。
（10　　　　　　　　）川・・・東南アジア最大の河川。中国に水源を発し，インドシナ半島の国々を流下する国際河川である。ラオス・ミャンマー，ラオス・タイそれぞれの国境をなしている。河口は巨大な三角州を形成し，ホーチミンが位置する。
アンナン山脈・・・ベトナムとラオスの間の国境山脈。

＜ラオス＞

メコン川流域の内陸国。人口規模は小さい。メコン川が国境河川となっている。

(11　　　　　　　　　)・・・ラオスの首都。メコン川に沿う。
ナムグムダム・・・メコン川支流に建設されたダム。

＜カンボジア＞

1970～80年代にさまざまな勢力の入り乱れる内戦が勃発。重要な遺跡であるアンコールワットは，国旗にも描かれている。

プノンペン・・・カンボジアの首都。
(12　　　　　　　　　)湖・・・メコン川の遊水池機能を持つ湖。この湖とメコン川本流とを結ぶトンレサップ川は，雨季の増水期に逆流することで，メコン川の氾濫を防いでいる。雨季と乾季とで湖面の面積は３倍に変化する。
(13　　　　　　　　　)・・・トンレサップ湖のほとりにあるヒンドゥー教(一部に仏教様式もみられる)寺院。世界遺産に指定されており，カンボジアの国旗にも描かれている。

＜ミャンマー＞

旧名ビルマ。軍事政権による支配の下，1989年に現在の国名に改められる。現在は民主化が進み，資源開発なども積極的に行われている。ただし，近年は西部の少数民族であるロヒンギャ族の弾圧が国際的非難を浴びている。

ヤンゴン・・・ミャンマーの旧首都。旧ビルマ時代の名称はラングーン。熱帯モンスーン気候(Am)。夏季にはインド洋からのモンスーンの影響で極めて多雨となる。
ネーピードー・・・首都。
(14　　　　　　　　　)川・・・国土中央を流れる河川。流域の沖積平野では米作がさかん。
パトカイ山脈・・・ミャンマーとインドの国境山脈。東南アジアと南アジアの境界であると同時に，黄色人種(ミャンマー)と白色人種(南アジア)の分布界でもある。

＜タイ＞

人口7000万人程度の中規模国。１人当たりGNIは，東南アジアではシンガポール，ブルネイ，マレーシアに次ぐ高さ。1990年代より電気機械工場の立地がみられ，とくに近年は日本との間に自動車部品について自由貿易協定が結ばれたため，地域最大の自動車工業の中心地として躍進している。
米の商業的栽培がみられ，輸出量も多い。土地生産性は低く，一部に伝統的な浮稲の栽培も残される。

(15　　　　　　　　　)・・・首都。国内の１割以上の人口が集まるプライメートシティ。別名クルンテプ。市の中央をチャオプラヤ川が貫き，運河が発達している。この街中に張り巡

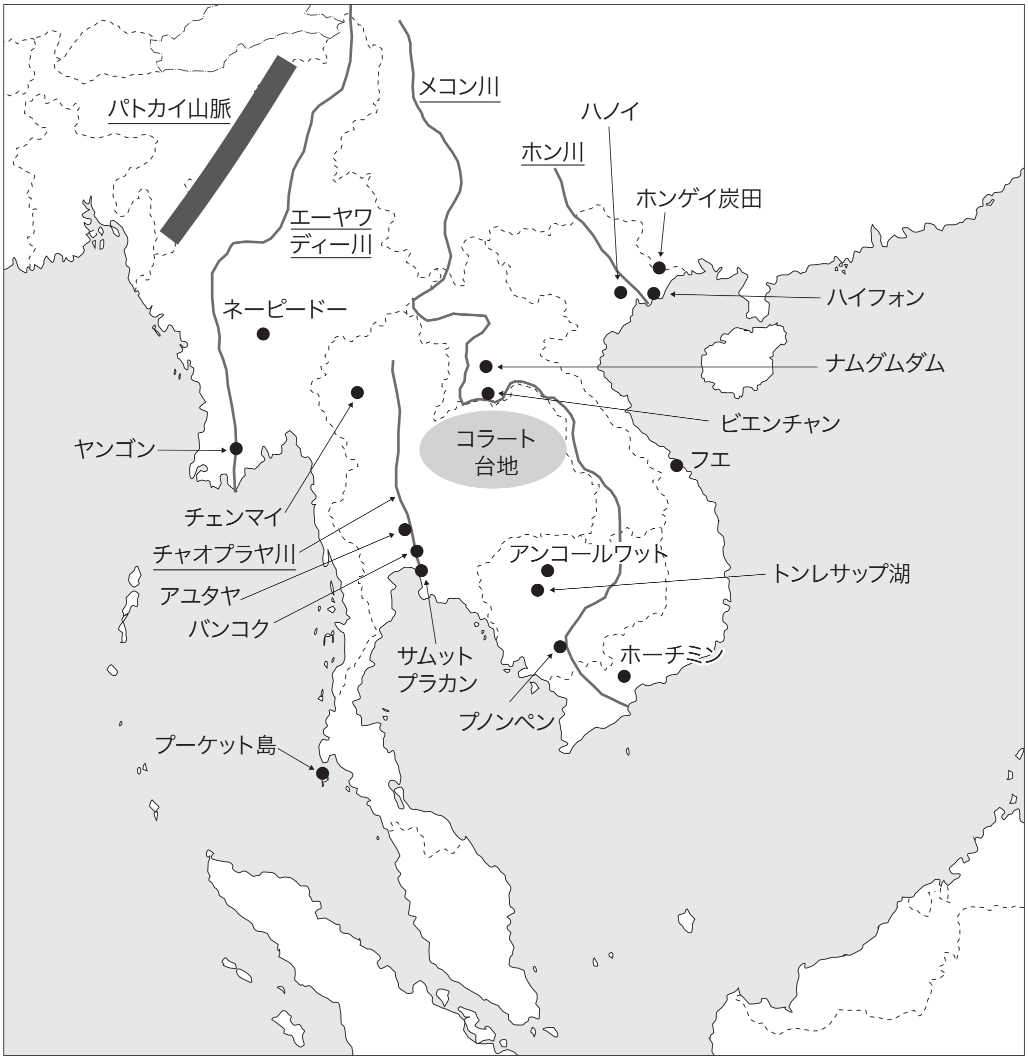
らされた運河が，雨季には少しずつ増水し，チャオプラヤ川の遊水池のはたらきをする。サバナ気候(Aw)。日系企業が多く進出し，近年とくに自動車関連の工場の立地が顕著。
(16　　　　　　　　　)川・・・タイを流れる河川。下流域では伝統的な浮稲の栽培もみられる。
コラート台地・・・タイ北東部の台地。
チェンマイ・・・古都。スコタイ王朝の都だった。チーク材の集散地。
アユタヤ・・・バンコクの北に位置する古都。仏教遺跡で名高い。
サムットプラカン・・・バンコクの南に隣接。近年工業地域としての開発も進む。
プーケット島・・・南部のリゾート地。すず鉱の産出もみられる。

(参考)東南アジア各国の旧宗主国・宗教およびASEAN加盟状況

2002年に東ティモールが独立し，東南アジアは11か国となった。各国の主な宗教と旧宗主国は確実に知っておくべき。国際機関としてはASEAN(東南アジア諸国連合)がある。現在東ティモールを除く10か国が加盟している。

<table>
<tr><th></th><th>旧宗主国</th><th>宗教</th><th>ASEAN</th></tr>
<tr><td>フィリピン</td><td>スペイン→アメリカ合衆国</td><td>カトリック</td><td>原加盟国</td></tr>
<tr><td>ベトナム</td><td rowspan="3">フランス</td><td>大乗仏教</td><td>1995年加盟</td></tr>
<tr><td>ラオス</td><td rowspan="4">上座仏教</td><td>1997年加盟</td></tr>
<tr><td>カンボジア</td><td>1999年加盟</td></tr>
<tr><td>タイ</td><td>独立を維持</td><td>原加盟国</td></tr>
<tr><td>ミャンマー</td><td>イギリス</td><td>1997年加盟</td></tr>
<tr><td>シンガポール</td><td>イギリス
(注1)</td><td>(注２)</td><td>原加盟国</td></tr>
<tr><td>マレーシア</td><td rowspan="2">イギリス</td><td rowspan="3">イスラム教</td><td>原加盟国</td></tr>
<tr><td>ブルネイ</td><td>1984年加盟
(独立と同時に)</td></tr>
<tr><td>インドネシア</td><td>オランダ</td><td>原加盟国</td></tr>
<tr><td>東ティモール</td><td>ポルトガル
(注３)</td><td>カトリック</td><td>未加盟</td></tr>
</table>

(注1)イギリスの植民地支配を脱した後，マレーシアと連邦国家を形成していた。後に分離独立。
(注２)民族ごとに多様な宗教が信仰されている。
(注３)ポルトガルの植民地支配を脱した後，インドネシアに併合されていた。後に独立。


パトカイ山脈
メコン川
ハノイ
ホン川
ホンゲイ炭田
エーヤワディー川
ネーピードー
ハイフォン
ナムグムダム
ビエンチャン
ヤンゴン
コラート台地
フエ
チェンマイ
チャオプラヤ川
アンコールワット
トンレサップ湖
アユタヤ
バンコク
サムットプラカン
ホーチミン
プノンペン
プーケット島

第３章　東アジア・東南アジア（３）

東南アジア（島嶼部）

ASEAN10か国の人口は６億人に達し，EU（５億人強），NAFTA（５億人弱）を上回る。経済的な協力は進むが，経済レベル（１人当たりGNI）には大きな差がある。公用語には当該国の政策が反映される。マレー系住民の優遇が行われるマレーシアではマレー語のみであり，中継貿易港として国際都市を目指すシンガポールでは英語など４種類が公用語となっている。

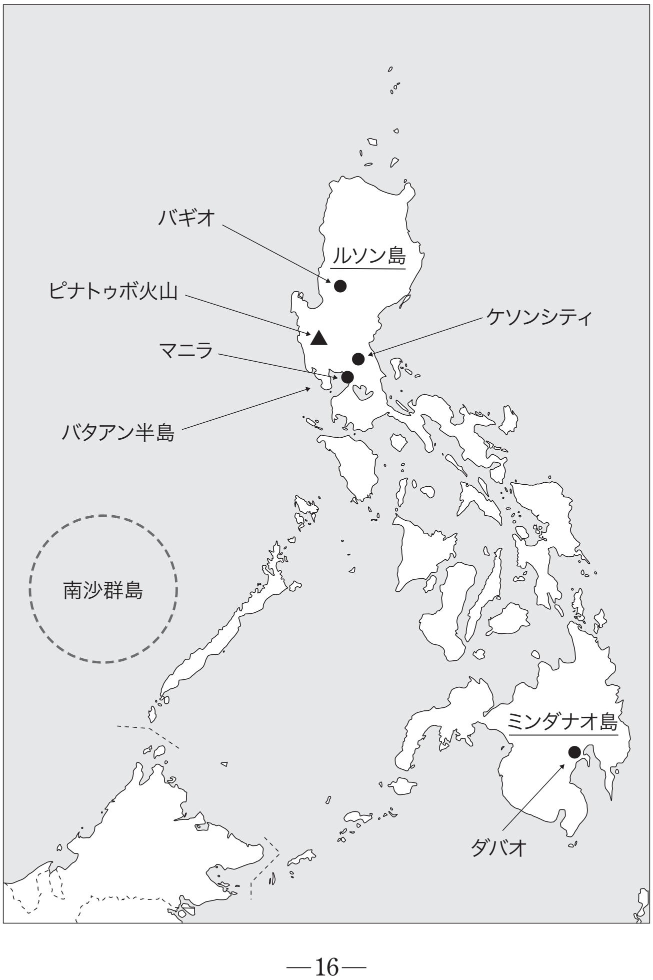
国	人口（概数）	１人当たりGNI（ドル）	公用語
フィリピン	1.1億人	3723	フィリピノ語 英語
ベトナム	1億人	2440	ベトナム語
ラオス	500万人	2408	ラオス語
カンボジア	1500万人	1419	カンボジア（クメール）語
タイ	7000万人	6925	タイ語
ミャンマー	5000万人	1350	ビルマ語
シンガポール	600万人	58462	マレー語 英語 中国語 タミル語
マレーシア	3000万人	10968	マレー語
ブルネイ	50万人	32121	マレー語
インドネシア	2.5億人	3773	インドネシア語
東ティモール	100万人	1862	テトゥン語 ポルトガル語

統計年次は，人口が2020年，１人当たりGNIが2018年。『世界国勢図会』により作成。

<フィリピン>

「英語・カトリック」という希少な国だが，そのことがかえって海外での働きやすさにつながり，出稼ぎが一般化してしまっている。しかし，現在は海外から労働集約型工業の進出も増加し，工業生産力も向上している。

ルソン島・・・北部の主島。首都マニラなどが位置。主な住民はタガログ族でカトリック教徒である。
（1　　　　　　　　）・・・首都。都市圏人口は1000万人を超える。
ケソンシティ・・・旧首都。
バギオ・・・高原保養都市。
バタアン半島・・・輸出加工区。
ピナトゥボ火山・・・1991年に噴火。その火山灰は成層圏に達し，世界の気候に影響を与えた。
（2　　　　　　　　）島・・・南部の主島。イスラム教徒のモロ族が居住し，独立を求める動きも。
ダバオ・・・ミンダナオ島の主要都市。港湾からはバナナの輸出がさかん。
（3　　　　　　　　）群島・・・南シナ海南部に位置する群島。付近に油田が発見されたことにより，周辺国(フィリピン・ベトナム・マレーシア・中国など)の間で領有権を巡る争いが起きている。



<マレーシア・シンガポール・ブルネイ>

マレーシアは人口が約3000万人と比較的少なく，1人当たりGNIは10000ドルを超える高さ。日本から電気機械の組立工場が進出したことから工業化が進み，現在では電子産業の集積地も。
シンガポールはマレーシア連邦の一部として独立したが，マレー系住民中心の社会を志向するマレーシアとの政策の違いによって分離独立。しかし，お互いの貿易はさかんであり，人的交流も活発であり，経済的には密接な関係にある。
ブルネイは天然ガスの産出が特徴的なイスラム国家。

（4　　　　　　　　　）・・・マレーシアの首都。すず鉱の集散地として中国からの移民が建設した集落が起源。
イポー・・・すず鉱の産出。
ペナン島・・・輸出加工区が置かれる他，日本企業によるリゾート開発も進む。
ジョホールバール・・・ジョホール海峡（マレー半島とシンガポールの間）に面する。各種工業が発達。
サラワク・・・カリマンタン島北部の地域。マレーシアの一部分。重要な輸出用の木材産地。
バンダルスリブガワン・・・ブルネイの首都。原油や天然ガスによる収入で，豪華な王宮や近代的な街並みがみられる。
（5　　　　　　　　　）・・・都市国家シンガポールの首都。
（6　　　　　　　　　）・・・工業地区。石油精製業はじめ各種工業が集積している。
（7　　　　　　　　　）海峡・・・マレー半島とスマトラ島の間の狭長な海峡。水深が極めて浅く，海難事故も頻発。西アジアから日本へと達するタンカーの多くはこの海峡を通過する。

（参考）マレーシア・シンガポールの民族・宗教

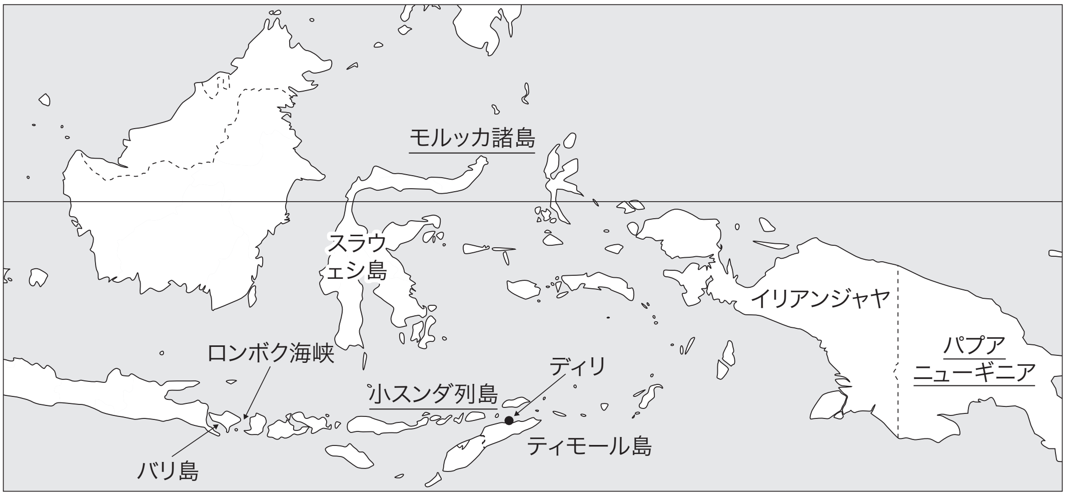
マレーシアは，過半数を超える多数派のマレー系，約20％の中国系，約10％のインド（タミル）系などから構成される多民族国家であるが，公用語はマレー語のみでイスラム教を国教とする。経済的に不利な立場のマレー系を優遇するためのブミプトラ政策が実施され，都市の富裕層を占める中国系住民の一部からは不満の声も上がっている。
シンガポールは，人口約600万人の4分の3が中国系住民。ただし，英語を中心として，マレー語・中国語・タミル語の4つが公用語として採用されている。宗教も，中国系の人々が信仰する道教や儒教の他，仏教やキリスト教，イスラム教，ヒンドゥー教の信者もおり，多様。

＜インドネシア＞

約14000の島からなる島嶼国。首都の位置するジャワ島に多くの人口が集中している。この過密状況を避けるため，ジャワ島から周辺の島々へと移住を勧めるトランスミグラシ政策が行われている。
オランダ領であったがオランダ語は広められず，独立後にマレー語を元にしたインドネシア語を公用語に制定し，全土への普及をはかっている。
アブラヤシの生産が拡大しているが，熱帯林の破壊につながることが懸念されており，アグロフォレストリーなど環境保全を意識した農業が行われている。

（8　　　　　　　　　）島・・・ボルネオ島ともいう。面積世界３位の島。熱帯雨林に覆われ，オランウータンが生息することでも知られる（オランウータンとはマレー語で「森の人」という意味）。
バリクパパン・・・カリマンタン島に位置する油田。
（9　　　　　　　　　）島・・・インドネシア西部，面積世界６位の島。南西岸に山脈が走り，北東岸のマラッカ海峡沿いには低地が広がる。
アチェ州・・・スマトラ島北端。かつて独立運動がさかんだった。スマトラ島沖地震の際の津波で大きな被害を受けた。
アサハン川・・・スマトラ島北部の河川。日本の支援によって開発が進められ，水力発電とアルミニウム工業が成立している。

ミナス・・・スマトラ島中央部に位置するインドネシア最大の油田。
パレンバン・・・スマトラ島南部の都市。油田も近くに位置する。
(10　　　　　　　　　)島・・・棚田を利用した水田耕作が行われる。人口密度が極めて高い。この島から周辺地域への人口移住計画も進められている(トランスミグラシ政策)。
(11　　　　　　　　　)・・・首都。ASEANの本部が置かれている。
バンドン・・・高原保養都市。1955年にはアジア・アフリカ会議が開催された。
スラバヤ・・・ジャワ島東部の主要都市。サバナ気候(Aw)。
(12　　　　　　　　　)島・・・ジャワ島の東に連なる。イスラム教徒の割合が高いインドネシアにおいては例外的にヒンドゥー教徒が多数を占める。多種多様なヒンドゥー寺院，ユニークな音楽(ガムラン，ケチャ)などの観光資源が豊富で，日本やオーストラリアから多くの観光客を集める。
ロンボク海峡・・・バリ島とその東側にあるロンボク島との間の海峡。水深が十分であるため，マラッカ海峡に代わる新しいタンカーの通り道として注目を集める。またこの海峡は，アジア区とオセアニア区の動物分布の境界であるウォーレス線とも一致している。
(13　　　　　　　　　)島・・・シンガポールに隣接する島。ジョホールバールとシンガポールとともに国際分業が成り立ち，工業化。
ビンタン島・・・シンガポールに近い。ボーキサイトを産する。
リンガ島・シンケプ島・バンカ島・ブリトン島・・・スマトラ島東岸に浮かぶ島々であり，いずれもすず鉱を産する。
スラウェシ島・・・環太平洋造山帯とアルプス・ヒマラヤ造山帯のぶつかる箇所に形成された複雑な形状の島。おおよそアルファベットのKの形をしている。
モルッカ諸島・・・別名は香料諸島。オランダの植民地時代には香料の産出地としておおいに注目された。
イリアンジャヤ・・・ニューギニア島の西半分の地域でインドネシア領。銅資源が豊富。
スンダ列島・・・スマトラ島やジャワ島が大スンダ列島，さらに東の小さな島々が小スンダ列島。スンダ海溝やスンダ海峡などもあるので，チェックしておくといい。
(14　　　　　　　　　)島・・・西部はインドネシア，東部は東ティモール。かつては全域をインドネシアが支配していたが，2002年に東ティモールが独立。
ディリ・・・東ティモールの首都。



第4章　南アジア

南アジア

インド約14億人，パキスタン約2.2億人，バングラデシュ約1.6億人と，人口規模が極めて大きい地域である。農業生産は穀物を中心に増加し(インドやパキスタンでは米の輸出)，一部では工業化も進むものの，貧富の差は依然として大きく，女性の社会進出も進まない。多くの国でインド・ヨーロッパ系の民族が多数を占めるが，インド半島南部からスリランカ北部にはドラヴィダ系の人々(タミル人)が居住。

(参考)南アジア諸国について宗教と言語を整理しておこう。なお，旧宗主国は全てイギリス(ネパールとブータンは保護国とされ，独立を維持)。

国(地域)	宗教	言語
インド	ヒンドゥー教 イスラム教 シーク教	ヒンディー語(連邦公用語)など。 英語(準公用語)
パキスタン	イスラム教	ウルドゥー語 英語
バングラデシュ	イスラム教	ベンガル語
スリランカ	上座仏教 ヒンドゥー教	シンハラ語 タミル語
ネパール	ヒンドゥー教	ネパール語
ブータン	チベット仏教	ゾンカ語
モルディブ	イスラム教	ディヴェヒ語
(カシミール地方)	ヒンドゥー教 イスラム教	・・・

＜バングラデシュ＞

人口約1.6億人に対し，面積はわずか約15万 km^2 という人口過密国。国土の多くがガンジス・ブラマプトラ水系の三角州に乗り，広い範囲が水田に利用される（耕地面積は国土の約３分の２）。

（1　　　　　　　　　　）・・・首都。ジュート工業。
チッタゴン・・・夏季の南西モンスーンの風上斜面に当たり，この時期とくに多雨。熱帯モンスーン気候（Am）。
ブラマプトラ川・・・チベット高原に水源を発し，インド・バングラデシュを貫きベンガル湾に注ぐ。河口付近には大規模なデルタ。
ベンガル湾・・・バングラデシュが面する海。サイクロンの発生。

<ヒマラヤ地域>

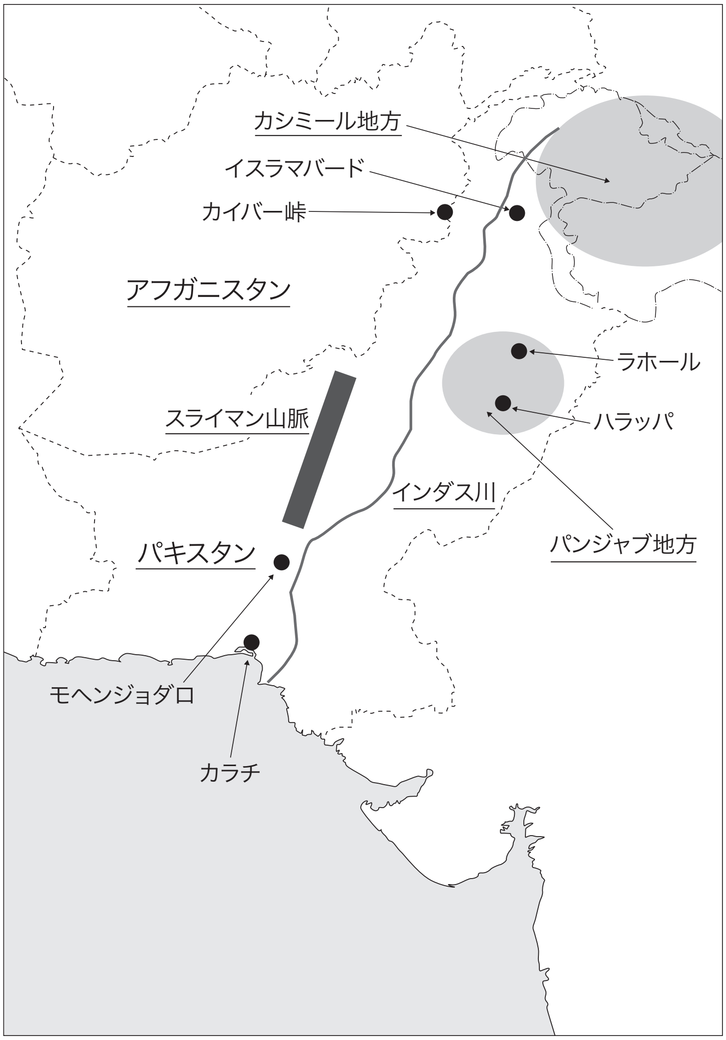
ネパールとブータンの２か国。いずれも斜面に棚田が開かれ豊かな農業地域となっているが，宗教文化が異なる。ヒンドゥー教のネパールは階級区分の意識が強く住民間の格差も大きいが，チベット仏教を背景にもつブータンは「幸福度」の高い国として知られている。

ネパール・・・首都カトマンズ。温帯冬季少雨気候（Cw）。標高が高い。
ブータン・・・首都ティンプー。

<パキスタン>

人口大国としては稀な，国土のほとんどが乾燥気候に覆われる国。インダス川が国土を貫き，古代より文明を支えた。灌漑農業により綿花や小麦の栽培がなされるが，灌漑による米作もさかん。とくに米は重要な輸出品目の一つともなっている。

イスラマバード・・・首都。計画的に建設された政治都市。
（２　　　　　　　　　）川・・・カラコルム山脈に水源を発し，アラビア海に注ぐ外来河川。沿岸は古代文明発祥の地。
（３　　　　　　　　　）地方･･･パキスタン北部からインドにかけての地域。藩王はヒンドゥー教徒，領民はイスラム教徒という複雑な宗教構成を持ち，両国が帰属を巡って争い，何度も紛争が勃発した。なおインドとパキスタンはいずれも核兵器の保有国である。
カイバー峠・・・この峠を通って白色人種のアーリア人が南アジア地域に入り込んだ歴史がある。先住民族のドラヴィダ人はインド半島南部へと移動し，現在はアーリア人がインドを含めた南アジア全体の主要民族となっている。
ラホール・・・ステップ気候（BS）の代表的な都市。
パンジャブ地方・・・灌漑によって小麦や綿花の栽培がとくにさかん。宗教的にはシーク教徒が多い。
ハラッパ・・・インダス文明の遺跡。パキスタン北部。
モヘンジョダロ・・・インダス文明の遺跡。パキスタン中南部。
スライマン山脈・・・パキスタン西部の山脈。
（４　　　　　　　　　）・・・旧首都である港湾都市。人口は1000万人を超え，国内最大。砂漠気候（BW）であるが，周辺地域では灌漑による農業も行われる。



<スリランカ・モルディブ>

スリランカはインド半島の南に位置する島嶼国。旧名はセイロン。イギリスによりプランテーションでの茶(紅茶)の栽培が始められた。主要民族は仏教徒のシンハラ人であるが，北部にはインドから移住してきたヒンドゥー教徒のタミル人が多く，一部では対立も生じている。茶の世界的な輸出国だが，近年は衣料品など軽工業も発達する。
モルディブはスリランカ西方の海上に位置する隆起サンゴ礁の島々からなる小国。

スリジャヤワルダナプラコッテ・・・スリランカの首都。
コロンボ・・・旧首都。港湾都市。
(5　　　　　　　　)島・・・スリランカの主要部を占める島。
ポーク海峡・・・セイロン島とインド半島との間の海峡。
(6　　　　　　　　)・・・首都マレ。隆起サンゴ礁の島々からなる島嶼国。地球温暖化による海面上昇の影響で水没の危機にある。

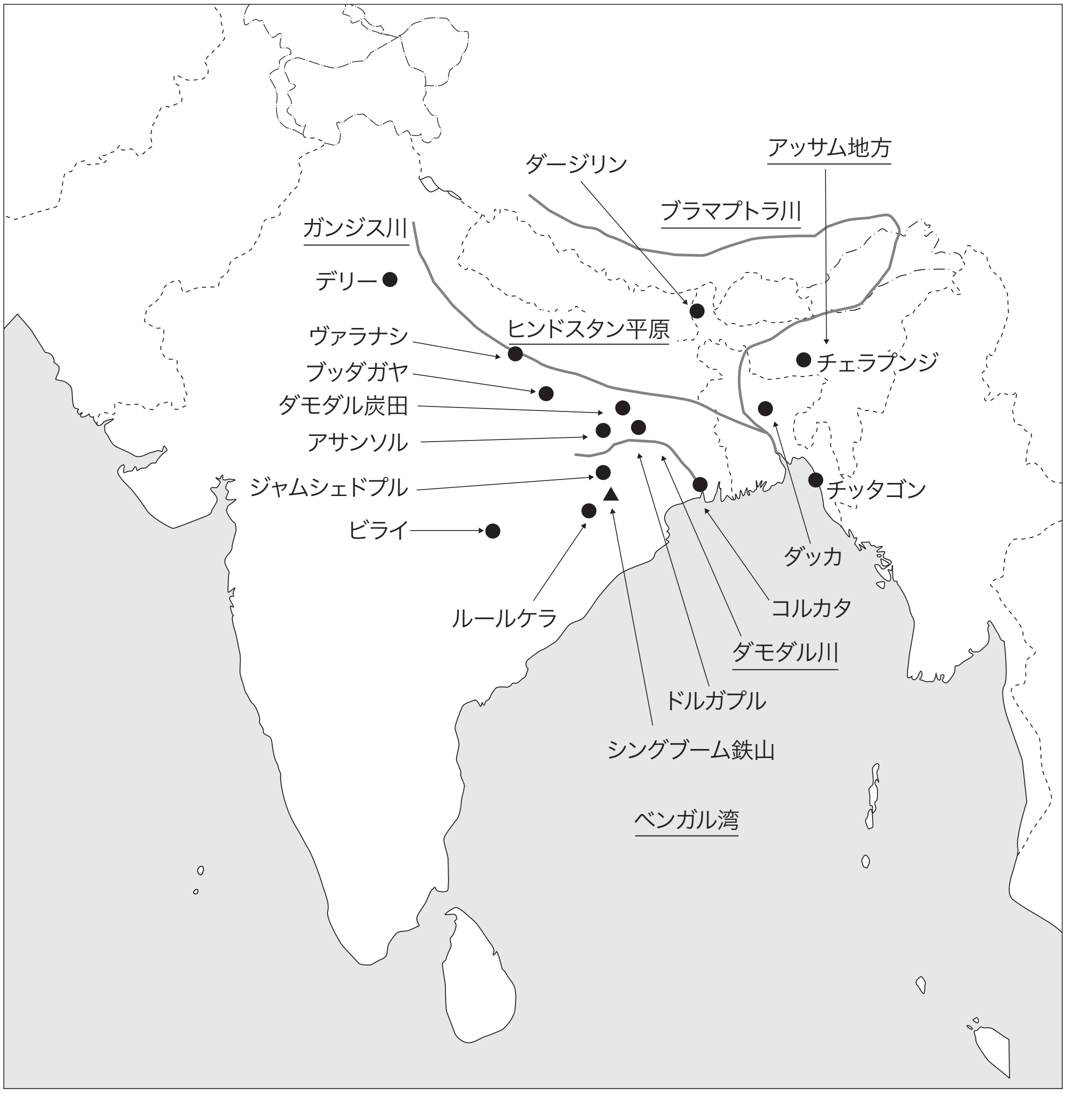
インド

面積は日本の約９倍であるが，人口は10倍以上であり，日本より人口密度が高い。とくに北部のガンジス川沿いは人口過密地域。人口抑制政策（家族計画。一組の夫婦に子供は２人までが理想とされる宣伝活動も行われた）が実施されたが効果は出ず，農村部を中心に人口増加率は高い。
ヒンドゥー教徒が多数を占めるものの，イスラム教徒も比較的多く１億人以上の信者が存在。言語は，連邦公用語のヒンディー語をはじめ22の言語が憲法に記載された公用語となっている他，英語が準公用語となっている。

＜東部・北部＞

ガンジス川に沿う地域。ガンジス川流域の沖積平野であるヒンドスタン平原は人口稠密であり，農業がさかん。少雨である上流部では小麦が，多雨である下流部では米が，それぞれ栽培されている。

（７　　　　　　　　）地方・・・極めて降水量が多い。排水性の良い丘陵で茶の栽培。
チェラプンジ・・・世界最多降水量を記録した都市。
ダージリン・・・高原保養都市。茶の栽培で有名。
（８　　　　　　　　）・・・ウェストベンガル州の州都でインド東部最大の都市。フーグーリー川（ガンジス川支流）のデルタに位置し，自然堤防上に市街地は乗るが，背後の湿地にはスラムが広がる。マザーテレサが社会活動を行った都市として知られる。ジュート工業がさかん。
（９　　　　　　　　）川・・・インド北部ヒマラヤ山脈に水源を発し，ベンガル湾に注ぐ大河。ヒンドゥー教の聖なる川であり，沐浴をする信者も多い。近年は上流部における森林伐採などの影響で洪水も頻発。
（10　　　　　　　　）平原・・・ガンジス川沿いの平原。沖積平野の代表例。
ブッダガヤ・・・仏教の聖地。
ヴァラナシ・・・ガンジス川に沿うヒンドゥー教の聖地。
（11　　　　　　　　）・・・首都。都市圏人口国内２位。
ニューデリー・・・デリー市内の一地区。計画的に建設されたエリアであり，首都機能はここに集中している。
（12　　　　　　　　）川・・・インド東部の河川。総合開発が行われた。DVC（ダモダル川流域開発公社）。
ジャルカンド州・・・資源に恵まれ鉄鋼業が発達している州。
オリッサ（オディシャ）州・・・ジャルカンド州の南側に位置。鉄鋼業がさかん。
シングブーム鉄山・・・ジャルカンド州の鉄山。
ダモダル炭田・・・ジャルカンド州。ダモダル川に沿う炭田。
（13　　　　　　　　）・・・鉄鋼業。民族資本（タタ財閥）によって製鉄所が建設された。
アサンソル・・・鉄鋼業。
ドルガプル・・・鉄鋼業。イギリスの資本によって製鉄所が建設された。
ルールケラ（ラーウルケーラ）・・・鉄鋼業。西ドイツの資本によって製鉄所が建設された。
ビライ・・・鉄鋼業。旧ソ連の資本によって製鉄所が建設された。



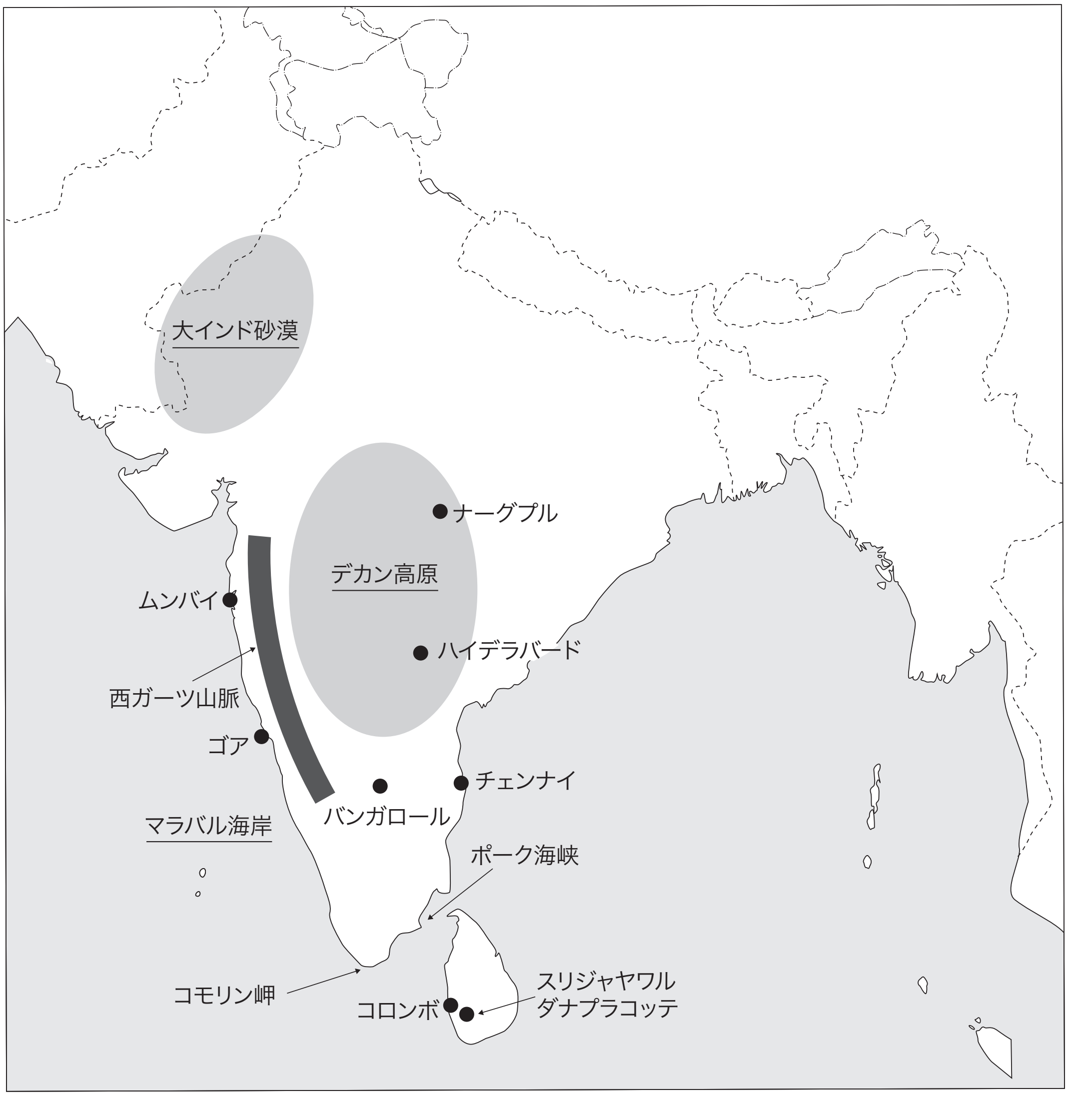
＜南部・西部＞

インド半島を中心とした地域。溶岩台地であるデカン高原(インド半島は安定陸塊であるが，古い時代にホットスポットとして火山噴火がみられたと考えられている)には，玄武岩土壌のレグールが広がり，綿花が栽培されている。半島南部はドラヴィダ系のタミル人の分布地域であり，北部のアーリア系とは異なっている。西部は乾燥地域であり，大インド砂漠が広がる。

(14　　　　　　　　　)高原・・・インド半島の広い範囲を占める高原。溶岩台地である。西部には溶岩性のレグールが分布。
(15　　　　　　　　　)・・・タミルナドゥ州都。旧名マドラス。冬季の北東モンスーンがベンガル湾からこの地域へと湿った空気を吹き入れるため，秋から冬にかけて雨が多い。
(16　　　　　　　　　)・・・インド南部の高原に位置。もともとは保養都市であったが，近年はコンピュータ産業が進出。「インドのシリコンバレー」。
タミルナドゥ州・・・インド南端の州。この地域には先住民族のドラヴィダ系タミル人が多い。
ポーク海峡・・・セイロン島(スリランカ)との間の海峡。
コモリン岬・・・インド半島の最南端。
(17　　　　　　　　　)山脈・・・インド半島の南西海岸に沿う山脈。夏季の南西モンスーンがこの山脈に当たることにより，風上斜面側の西部はとくに多雨な気候となる。
マラバル海岸・・・インド半島南西部。南西モンスーンの風上斜面で夏季に多雨。熱帯モンスーン気候(Am)。
ゴア・・・インド半島南西部の港湾都市。ポルトガルが根拠地を置いた。
(18　　　　　　　　　)・・・旧名ボンベイ。イギリスが開いた港湾に起源を持つ。都市圏人口は国内最大。綿花の集散地であり，かつてはこの港からさかんにイギリスに綿花が輸送された。現在は綿工業の他，石油化学工業や自動車工業など。また，映画の製作本数の極めて多いインドにおける，映画産業の中心地でもある。旧名と映画の都ハリウッドにちなんで「ボリウッド」ともよばれる。
ナーグプル・ハイデラバード・・・デカン高原の上に位置する綿花の集散地。
大インド砂漠・・・インド西部の砂漠。

(参考)カースト制度

伝統的なインドの階級制度にカースト制度がある。4つの階層(バラモン(祭司)・クシャトリア(王侯・貴族)・ヴァイシャ(商人・職人)・シュードラ(隷属民))と，その下位に位置づけられるハリジャン(不可触賤民)からなり，さらにジャーティとよばれる，生まれながらの職業集団(その数は2000～3000に及ぶ)と結び付けられている。農村ではカースト制度による差別意識は強く残されているが，すでに憲法では階層による差別は禁止されており，ジャーティに含まれない新しい職業の誕生(ICT産業など)などもあり，都市部においてはその影響は弱まりつつある。


大インド砂漠
ナーグプル
デカン高原
ムンバイ
ハイデラバード
西ガーツ山脈
ゴア
チェンナイ
バンガロール
マラバル海岸
ポーク海峡
スリジャヤワル
ダナプラコッテ
コモリン岬
コロンボ

第５章　西アジア・中央アジア

西アジア

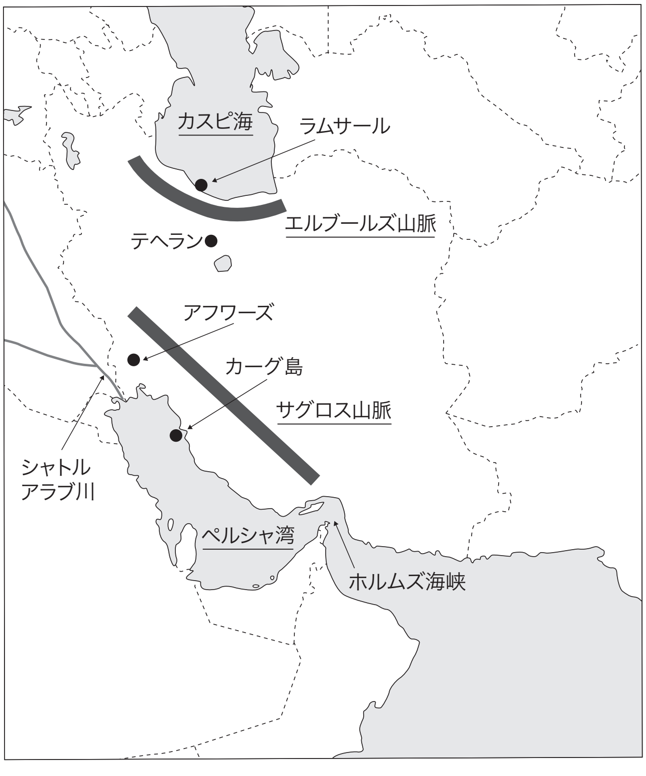
アフガニスタンからトルコ，イスラエルまでの地域。人種（言語）は次のように分類される。宗教は，イスラム教スンナ（スンニー）派が主だが，イランではシーア派が多数を占め，レバノンはキリスト教徒も多い。イラクはスンナ派が多いものの，シーア派による政権が成立している。また，イスラエルはユダヤ教。ただし，イスラエル国内のエルサレムは，ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の３つの宗教の聖地。

<table>
<tr><th>人種系統</th><th>語族</th><th colspan="2">民族系統（言語）</th></tr>
<tr><td>モンゴロイド</td><td>ウラル・アルタイ</td><td colspan="2">トルコ（トルコ語）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">コーカソイド</td><td>インド・ヨーロッパ</td><td colspan="2">イラン（ペルシャ語）
アフガニスタン（パシュトー語など）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アフロ・アジア
（セム・ハム）</td><td>アラブ系</td><td>サウジアラビアなど
（アラビア語）</td></tr>
<tr><td>ユダヤ系</td><td>イスラエル
（ヘブライ語）</td></tr>
</table>

<イラン>

1979年のイラン革命によってイスラム共和国となる。かつては日本にとって重要な原油輸入国の一つだったが，核開発問題など国際関係の悪化によって，現在は日本との貿易は大幅に減少した。

（1　　　　　　　　　）・・・高原上の首都。北緯35度付近に位置（東京と近い）。国内人口の１割ほどが集中。なお，気候は乾燥気候であるが，冬季にはやや降水がみられる。
（2　　　　　　　　　）海・・・世界最大の湖沼。巨大な凹地に位置する内陸湖で，湖面標高は海水面より低い。塩湖。
ラムサール・・・カスピ海南岸に沿う都市。湿地の保全と生態系の保護を目的とするラムサール条約が締結された。
エルブールズ山脈・・・新期造山帯であるイラン高原の北部を横断する山脈。カスピ海の南岸に沿う。
ザグロス山脈・・・イラン高原の南部を横断する山脈。ペルシャ湾に沿う。
（3　　　　　　　　　）湾・・・イランとアラビア半島の間の海域。水深は浅く，海底油田の開発が進む。世界最大の産油地域。
（4　　　　　　　　　）海峡・・・ペルシャ湾の出口である海峡。日本向けの原油タンカーも通過する原油供給の生命線である。北岸はイラン，南岸はオマーンの飛び地。
アフワーズ・・・イランの油田。
カーグ島・・・ペルシャ湾に浮かぶ。イランの原油積み出し基地。
シャトルアラブ川・・・イランとイラクの国境河川。メソポタミア平原（イラク）を潤すチグリス川とユーフラテス川の合流後の名称である。1980年代のイラン・イラク戦争ではこの河川の沿岸が係争地となった。



<サウジアラビア>

アラビア半島の大部分を占める専制君主国。イスラム教徒以外の入国が制限され，女性の社会的地位が極めて低く抑えられるなど前時代的な宗教国家であったが，現在はそうした規制も緩和されつつある。OPEC，OAPECのいずれにも加盟し，世界有数の原油産出量と輸出量，埋蔵量を誇る。

莫大なオイルマネーを利用して，海水の淡水化が行われる。以前は地下水を利用しての小麦栽培もさかんで，小麦の輸出国だった時期も(現在はこうした灌漑農業は制限されている)。

アラビア半島・・・安定陸塊のゴンドワナランドに含まれる。東部(ペルシャ湾側)が低く，西部(紅海側)が高く傾斜を成している。

ネフド砂漠・・・アラビア半島北部の砂漠。亜熱帯高圧帯の影響による砂漠。

ルブアルハリ砂漠・・・アラビア半島南部の砂漠。亜熱帯高圧帯の影響による砂漠。

ガワール油田・・・サウジアラビア最大の油田。

カフジ油田・・・ペルシャ湾の沖合にある油田。日本が採掘権を得て，開発した。

(5　　　　　　　　　)・・・首都。砂漠気候(BW)。

ラスタヌーラ・・・ペルシャ湾に面する港湾。日本向けなどの原油積み出し港。

ペトロライン・・・ペルシャ湾岸の油田と，紅海沿岸のヤンブーを結ぶパイプライン。アラビア半島の中央を横断。

ヤンブー(ヤンボー)・・・紅海に面する港湾都市。原油の積出港。

TAPライン・・・ペルシャ湾岸の油田と，地中海沿岸のサイダ(レバノン)を結ぶパイプライン。現在は送油停止中。

(6　　　　　　　　　)・・・イスラム教最大の聖地。カーバ神殿が位置。イスラム教徒は(男女問わず)一生に一回はこの地に巡礼する。また，一日五回のイスラム教の礼拝は，カーバ神殿の方向を向いて行われる。

メディナ・・・イスラム教の聖地。やや内陸部に位置し，預言者ムハンマドが迫害を避けこの地に逃げ延びた。

(7　　　　　　　　　)海・・・アラビア半島とアフリカ大陸の間の狭長な海域。アフリカ大地溝帯の延長上にある，プレートの広がる境界。

<アラブ諸国>

西アジアの多くの国は主にアラブ民族から構成され，アラビア語が使用される。イスラム教スンナ派が多いが，レバノンにはキリスト教徒も多い。ただしイラクにはシーア派の政権。ペルシャ湾岸にはミニ国家が並ぶが，産油国には１人当たりGNIの極めて高い国もある。

（８　　　　　　　　　）・・・。首都バグダッド。古代メソポタミアに起源を持つ古い国。乾燥気候に覆われるが，外来河川であるチグリス・ユーフラテス川によって形成される「肥沃な三日月地帯」を有し，小麦やナツメヤシの生産もさかん。北部のキルクークは代表的な油田。
（９　　　　　　　　　）・・・首都クウェート。ペルシャ湾奥の石油国家。OPEC，OAPECともに加盟。1990年にイラクによって軍事侵攻されるが，1991年の多国籍軍の参戦により解放。主な油田はブルガン。
カタール・・・首都ドーハ。ペルシャ湾の半島国家。OAPEC加盟。

バーレーン・・・首都マナーマ。ペルシャ湾の島嶼国。中継貿易港として栄えた。OAPEC加盟。
(10　　　　　　　　　　)・・・首都アブダビ。7つの首長国からなる連邦国家。OPECとOAPECに加盟。この国で産する原油の多くは日本へと輸出されている。近年は安価なエネルギー使用によりアルミニウムの生産も増えている。巨大な港湾を有するドバイは中継貿易の中心地であり，金融業や観光業も発達している。
オマーン・・・首都マスカット。アラビア半島南東端に位置。ホルムズ海峡南岸に飛び地を持つ。
イエメン・・・首都サヌア。アラビア半島南西端に位置する。山地丘陵からなり，やや降水がみられる。「幸福のアラビア」という別称もある。かつては北イエメンと南イエメンに分かれていたが統一され，首都はサヌアに置かれている。重要な都市はアデンで，インド洋交易の重要な中継点として栄えた。モカはコーヒー豆の集散地。イエメンやエチオピアで生産されたコーヒーがこの港から積み出される。紅海とアデン湾を結ぶのはバベルマンデブ海峡。
(11　　　　　　　　　　)・・・首都ダマスカス。OAPEC加盟。2010年代に入り内戦が生じ，ロシアなど大国の干渉もあり，さらに混乱は続いている。
レバノン・・アラブ人国家であるが，宗教構成は複雑で，イスラム教信者だけでなくキリスト教信者の割合も比較的高い。首都ベイルートは地中海交易の重要点であり中継貿易港として栄えた。しかし1970年代からのレバノン内戦によって破壊され，ベイルート市街は荒廃した。
ヨルダン・・・イスラエルとペルシャ湾岸諸国との間という戦略的に重要な場所に位置する。主要民族のヨルダン人以外に，イスラエル独立時に難民として流入したパレスチナ人も多く，遊牧民族のベドウィンも比較的多い。イスラエルとの国境には死海。湖面標高は－400mで，世界最低地点。同じく国境にはヨルダン川も流れる。死海に注ぐ内陸河川。

＜イスラエル＞

パレスチナ地方に位置するユダヤ人国家。ユダヤ教を信仰し，ヘブライ語を使用する。20世紀に入り世界中からユダヤ人がこの地へと移住し，第二次世界大戦後の1948年に新国家イスラエルが建てられた。その際，もともとこの地に居住していたアラブ系のパレスチナ人たちは難民となり，国外に流出し，パレスチナ解放機構(PLO)を結成。彼らを支援するアラブ国家と，イスラエルは激しく対立し，中東戦争が4次にわたって繰り広げられた。とくに1973年の第四次中東戦争は規模が大きく，オイルショックの原因となった。
やがて1990年代に入り，イスラエルとPLOは歩み寄り，イスラエル国内にガザとヨルダン川西岸地区の2つの自治区が設けられた。しかし，和平は進まず，現在もイスラエルによる武力攻撃やパレスチナ人によるテロ行為は続けられている。
政治・経済的にアメリカ合衆国との結びつきが強く，経済レベルも高い。主要輸出品目はダイヤモンド。農業はキブツという集団農場によって生産活動が行われる。

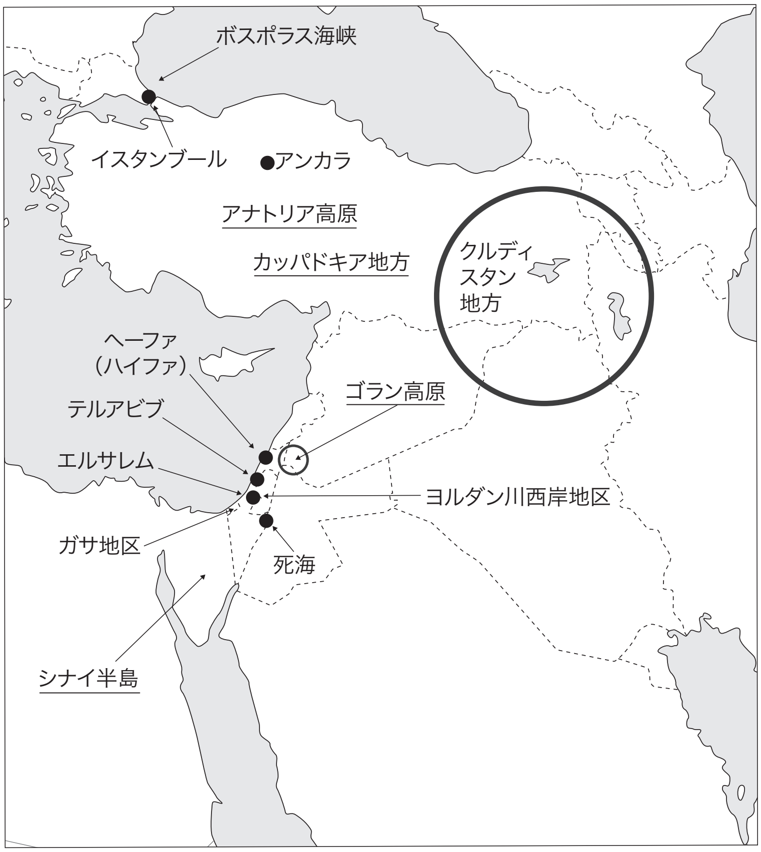
(12　　　　　　　　　　)・・・首都(ただし国際的な承認は得られていない)。ユダヤ教と，それをルーツとするキリスト教およびイスラム教の聖地となっている。
シオンの丘・・・エルサレム市内の丘陵。ユダヤ人の祖国回復運動である「シオニズム運動」の語源となっている。

ゴラン高原・シナイ半島・・・第四次中東戦争の際に，それぞれシリア，エジプトとの間で係争地となった。
テルアビブ・・・実質上の首都。地中海東部地域の経済・文化の中心。温暖で好天に恵まれ，沿岸部のビーチにはリゾート客も多い。
ヘーファ(ハイファ)・・・イスラエル北部の港湾都市。
(13　　　　　　　　)川西岸地区・・・パレスチナ人自治区。1990年代に設けられた。東エルサレムを含む。近年は，ヨルダン川西岸地区におけるユダヤ人入植地の拡大が国際的な批判を浴びている。
(14　　　　　　　　)地区・・・パレスチナ人自治区。イスラエル軍によるミサイル攻撃など軍事的緊張が絶えない。
死海・・・イスラエルとヨルダンの間の湖でヨルダン川が流れ込む。外洋に流出河川を持たない内陸湖で，湖面標高は海水面より低い。塩分濃度が極めて高い。

＜トルコ＞

主要民族のトルコ人はアジア系の血を引く。イスラム教スンナ派が多いが，政教分離が徹底しており，政治におけるイスラム教の影響は少ない。国土東部にクルド人が居住しているが，トルコは彼らを「東部トルコ人」とよび，公式には存在を認めていない。クルド人の独立・自治権拡大への運動は継続している。

(15　　　　　　　　)・・・国土中央部の首都。独立運動の中心地となった。人口はイスタンブールに及ばない。
ボスポラス海峡・・・黒海とマルマラ海を結ぶ。イスタンブールに臨む。
(16　　　　　　　　)・・・都市圏人口1000万人を超える国内最大都市。ヨーロッパとアジアの「２大陸」に市街地が広がる。古くはビザンチウム，コンスタンティノープルと呼ばれ，ヨーロッパ的な文化が栄え，キリスト教国(東ローマ帝国)の都だったことも。やがて，イスラム勢力に支配され，オスマン帝国の都となり，現在に至る。市内のブルーモスクは世界遺産としても有名。ボスポラス海峡の東西を結ぶ橋やトンネルの建設については，日本からの協力もあった。海峡に面する都市として，下関市(山口県)と姉妹都市の提携を結んでいる。
アナトリア高原・・・アナトリア半島の主要部を占める高原。新期造山帯であり，石灰岩地形が多い。
(17　　　　　　　　)・・・トルコ中部の遺跡。火山噴火により堆積した土砂が侵食され，独特の岩石地形が広がる。洞窟を削ってつくられた住居遺跡も多く，世界遺産にも登録されている。
クルディスタン地方・・・トルコ・イラン・イラク・シリアなどにまたがる山岳地域。クルド人が居住し，独立運動がさかん。

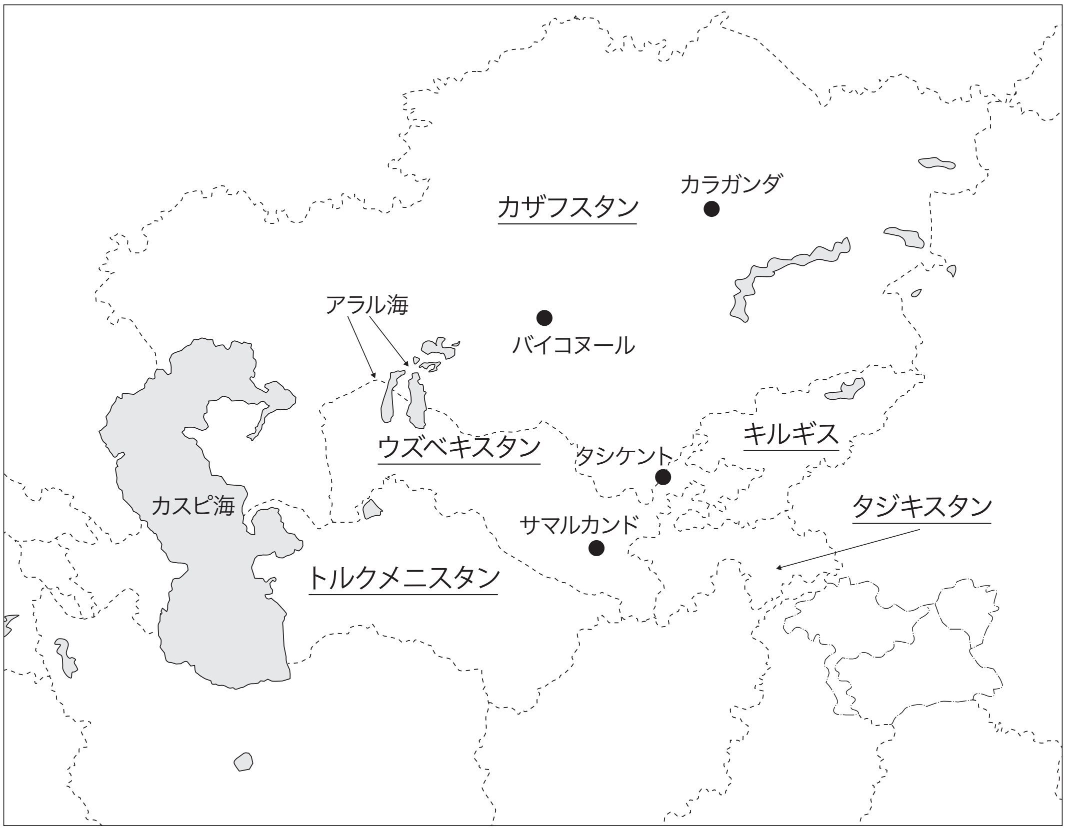


中央アジア

旧ソ連に含まれるユーラシア大陸内陸部の５か国を総称して中央アジアとよぶ。広い範囲が乾燥気候に含まれ，一部には高峻な山脈もみられる。遊牧やオアシス農業が営まれる他，綿花を利用した繊維工業が発達する地域もある。５か国ともにイスラム教スンナ派が多数をしめ，イラン系のタジキスタンを除く４か国がトルコ系民族。

(18　　　　　　　　　)・・・首都ヌルスルタン。北部はチェルノーゼムが広がる小麦地帯であるが，中部は乾燥の度合の高いステップ気候となり，さらに南部は砂漠気候(BW)となる。資源が豊富で，最大の輸出品目である原油の他，石炭（カラガンダ炭田）や銅鉱（ジェズカズガン），ウラン鉱の産出も。旧ソ連時代に，バイコヌールにロケット発射基地がつくられ，有人ロケットが打ち上げられている。東部のセミパラチンスクには旧ソ連時代に核実験場が設けられ，世界最悪の放射能汚染地域といわれている。
(19　　　　　　　　　)・・・首都タシケント，主要都市サマルカンドはシルクロードの交易都市として栄えた。砂漠気候(BW)。ソ連時代から綿花の栽培がさかんだが，灌漑のためアムダリア川やシルダリア川から過剰な取水をしてしまい，内陸湖であるアラル海が縮小している。
(20　　　　　　　　　)・・・首都アシガバッド。カラクーム運河からの灌漑によって周辺の砂漠に耕地が開かれる。カスピ海沿岸に莫大な天然ガス資源の埋蔵が確認され，将来的に世界的な資源輸出国になることが期待されている。

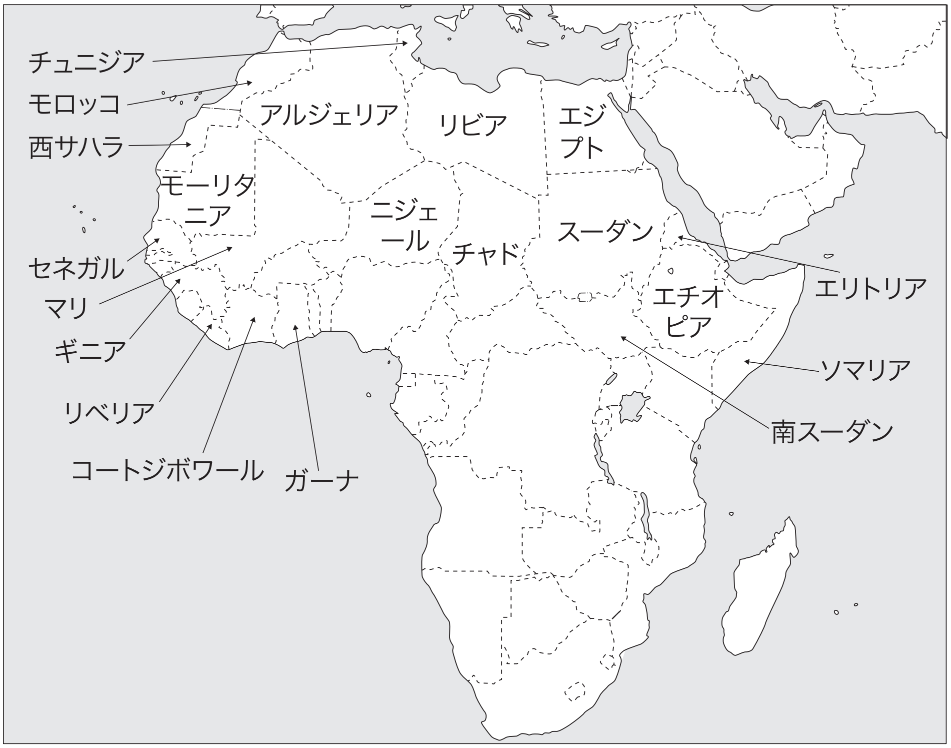
キルギス・・・首都ビシュケク。テンシャン山脈は中国との国境山脈。
タジキスタン・・・首都ドゥシャンベ。「世界の屋根」パミール高原。



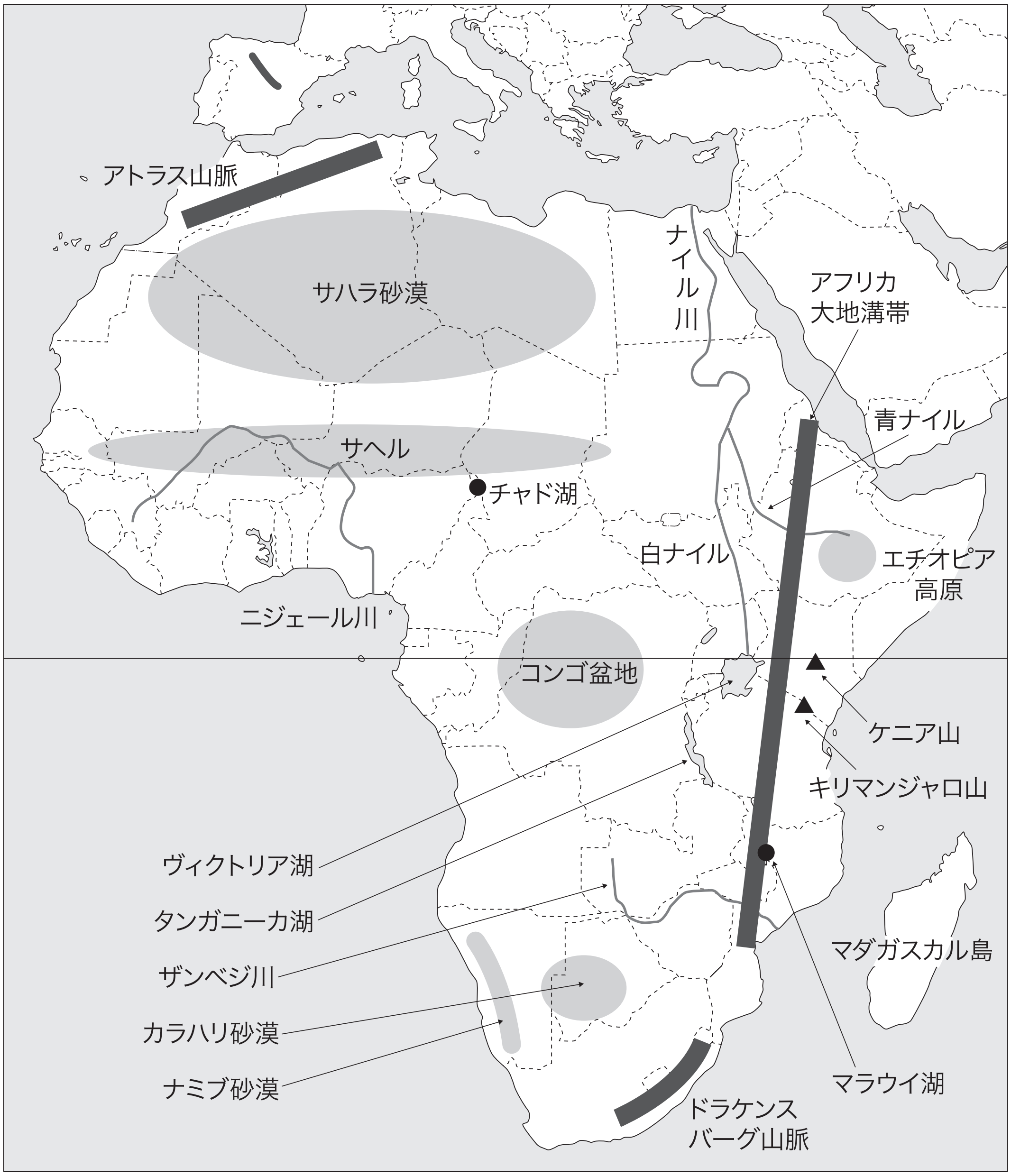
第６章　アフリカ

北アフリカ

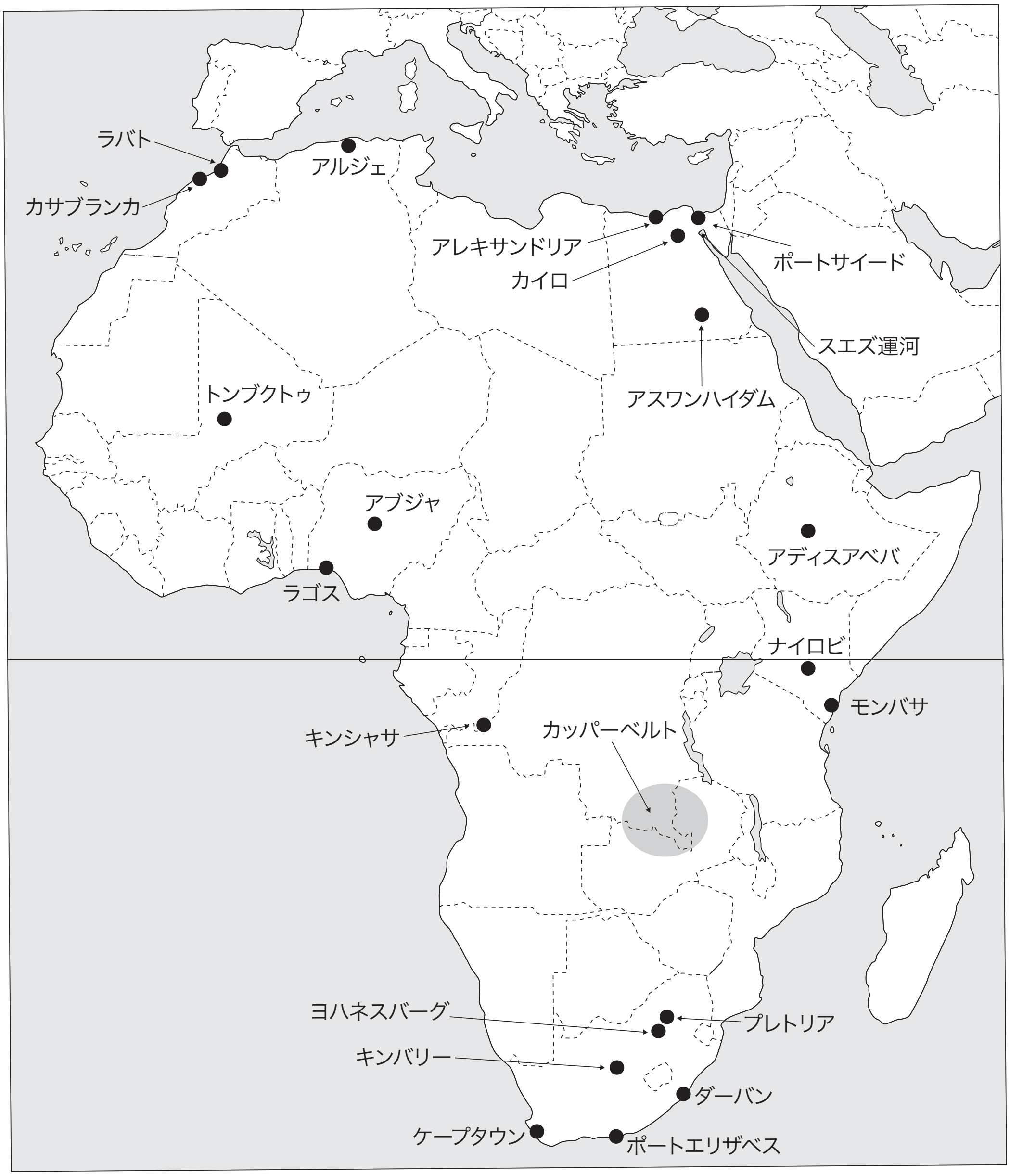
主にアラブ民族が居住する。アラブ民族はコーカソイド（白色人種）のアフロ・アジア（セム・ハム）語族に分類される民族である。
広い範囲が砂漠気候に覆われ，オアシス農業や遊牧がみられる。北西部の沿岸部（アトラス山脈北麓）には地中海性気候がみられ，果樹の栽培など。
主に信仰される宗教はイスラム教。ただし，アフリカ大陸においてイスラム教の範囲は北アフリカにとどまらず，サハラ以南のサヘル地帯やインド洋沿岸など，アラブ商人たちが交易した地域へと広がっている。



ウガンダ
ナイジェリア
カメルーン
ガボン
コンゴ民主
共和国
ケニア
ルワンダ
ブルンジ
タンザニア
ザンビア
マラウイ
アンゴラ
ナミビア
マダガスカル
ボツワナ
南アフリカ
モザンビーク



アトラス山脈
サハラ砂漠
ナイル川
アフリカ
大地溝帯
青ナイル
サヘル
チャド湖
白ナイル
エチオピア
高原
ニジェール川
コンゴ盆地
ケニア山
キリマンジャロ山
ヴィクトリア湖
タンガニーカ湖
ザンベジ川
マダガスカル島
カラハリ砂漠
ナミブ砂漠
マラウイ湖
ドラケンス
バーグ山脈



<エジプト>

旧イギリス領ではあるが，第二次世界大戦前に独立を果たした。定期的に氾濫を繰り返すナイル川が上流部から肥沃な土壌をもたらし，河川に沿って豊かな農業地帯が広がる。「ナイルの賜物」。

（1　　　　　　　　　）・・・首都。サハラ以北のアフリカで最大の人口を有する。ナイル川デルタの南端に位置。おおむね北緯30度・東経30度。
アレキサンドリア・・・地中海に面する港湾都市。円弧状をなすナイル川デルタの西端に位置。
ポートサイード・・・スエズ運河の地中海側の入り口に位置する都市。交通都市の代表例。

スエズ運河・・・紅海と地中海をつなぐ運河。フランス人レセップスにより建設された。エジプトにより国有化される。
シナイ半島・・・スエズ運河の東側の半島。中東戦争の際にイスラエルに占拠された。
（2　　　　　　　）川・・・世界最長の河川。赤道付近の湖沼地帯を水源とする白ナイルとエチオピア高原を水源とする青ナイルが，スーダン中部にて合流。外来河川としては非常に水量が多く，とくにエチオピア高原が雨季に入る夏季に増水する（地中海沿岸地域としては例外的）。かつては大氾濫を繰り返していたが，それにより上流から肥沃な土壌を周囲の耕地へともたらすというはたらきもあった。
（3　　　　　　　）ダム・・・ソ連（当時）の援助によって，ナイル川中流に建設されたダム。これにより洪水が減少し，灌漑農業の発達によって農業生産が増えた。しかし，環境に与える悪影響も多い。
ナセル湖・・・アスワンハイダムによってつくられた人造湖。
アブシンベル神殿・・・アスワンハイダムの建設によって水没の危機に瀕したが，UNESCOによる莫大な投資により上流側へと移設され，水没を免れた。

（参考）アスワンハイダムの功罪

アスワンハイダムの功罪についてまとめておこう。エジプト南部に建設された巨大ダムでソ連の援助による。第一の目的は洪水の防止。主に増水期である夏季に発生する洪水であるが，肥沃土を供給するというメリットがある反面，多くの耕地や家屋を押し流し，人命をも危機にさらすというデメリットもある。ダムの建設によって洪水の危険性は大きく減少した。天然の肥料はなくなったものの，耕地整理や化学肥料の使用，そしてダム湖からの灌漑などによって農業が進められ，とくに商品作物である綿花の栽培は有名。長繊維のエジプト綿は高級品である。またダムを利用して水力発電もさかんに行われており，アルミニウム精錬業が立地している。
ただし「罪」も大きい。洪水がなくなってしまったことで，寄生虫を媒介するカタツムリの一種が退治されず異常繁殖している。このカタツムリの増加とともに寄生虫も増加し，これが原因となる風土病が蔓延していることが一点。
また上流から土砂が供給されないのでナイル川河口の三角州の成長が滞る。一方，沿岸流や波によって侵食される度合は変化しないのだから，相対的にこのデルタは縮小していくこととなる。これにより耕地を失う農民も急増している。
さらにナイル川によって運ばれる栄養分が沿岸の漁獲資源の育成に大きく貢献していたのだが，ダム湖で上流から運ばれる肥沃土がストップしてしまうために，地中海東部地域の漁獲は減少した。
ダム湖があまりに巨大であるために，著名なアブシンベル神殿などの遺跡が湖底に沈む可能性が生じた。このためUNESCOは巨費を投じ，このアブシンベル神殿をやや標高の高いところに移動した。ただしこの際に莫大な資金が必要であったために批判の対象ともなっている。なお，アブシンベル神殿は移設後に世界遺産に登録されている。
これ以外にも，灌漑が注意深く行われていないことによる塩害の発生などの環境問題も生じている。総合的にみてあまりに環境に負担をかける開発であったというしかないだろう。

＜北アフリカ諸国＞

アラブ民族が多数を占め，多くの国で公用語はアラビア語。チュニジア以西を「マグレブ」ということもある。アラビア語で「太陽の沈む方向」の意味。

（4　　　　　　　　　）・・・首都トリポリ。旧イタリア領。OPECとOAPECに加盟する産油国。独裁政権が打倒され，現在は民主化の途上にある。

チュニジア・・・首都チュニス。旧フランス領。古代国家カルタゴが栄えた。

（5　　　　　　　　　）・・・OPECとOAPECに加盟する産油国で，とくに天然ガス資源の開発が進む。旧フランス領。フランスとの間で独立戦争を経験しており，他の多くの国が1960年に独立している（1960年は多くのアフリカ諸国が独立し国連に加盟を果たしたため「アフリカの年」とよばれている）のに比べ，独立は1962年とやや遅い。首都はアルジェ。周辺では地中海性気候（Cs）がみられ，フランスからコロンとよばれる入植者が多く流入，プランテーションが開かれた。内陸部にはサハラ砂漠が広がり，一部にはアハガル高原のような起伏の多い地形も。遊牧民族であるベルベル人が居住。

（6　　　　　　　　　）・・・旧フランス領。首都はラバトであるが，人口最大都市はカサブランカ。地中海性気候（Cs）がみられる。沿岸をカナリア海流が南下し，水産業もさかん。わが国へはタコを多く輸出している。鉱産資源ではリン鉱石の産出が多く，またそれを利用した化学肥料工業も発達している。国土を横断するアトラス山脈は新期造山帯。

西サハラ・・・独立国ではない。旧スペイン領であったが，モロッコの侵攻を受け，現在ではその一部とされている。北アフリカの遊牧民族ベルベル人が居住する地域であるが，独立への機運が高まっている。なお，モロッコはこの武力行使のため，アフリカ連合（AU）から除名を受けていた（1984年に脱退。しかし，2017年に再加盟）。

（7　　　　　　　　　）・・・アラブ民族の分布地域とネグロイドの分布地域の境界に当たり，民族間の対立が激しい。首都ハルツームはナイル本流の白ナイルとエチオピア高原から流れる支流青ナイルとの合流点に当たる。サンナールダムの建設によって灌漑が進み，綿花栽培がさかんであるが，この開発を「ゲジラ計画」という。国内西部のダルフール地方は現在も不穏な状況が続き，日本の自衛隊もPKO派遣されている。

南スーダン・・・首都ジュバ。内戦が続くスーダンより，2011年に分離独立。黒人が多数を占め，中国の支援によって資源開発（油田）が行われる。

（8　　　　　　　　　）・・・民族的にはアラブ民族とネグロイドとの混血と考えられている。宗教は原始キリスト教であるエチオピア正教。険しい高原地帯に国土が広がり，外敵の侵入を許さなかったという特殊な条件であるため，キリスト教が古い姿で保存されていたのだろう。首都はアディスアベバ。2000mを超える高原に位置し，気候は温帯冬季少雨気候（Cw）。南部のカッファ地方はコーヒー豆の原産地。極めて経済レベルが低いこの国において，コーヒー豆の生産と輸出は国内経済を支えるほぼ唯一の手段でもある。牛の飼育頭数も多い国でもある。

エリトリア・・・首都アスマラ。紅海に面する。エチオピアの一部であったが，イスラム教徒が多い地域であり，分離独立。これによりエチオピアは内陸国となった。

（9　　　　　　　　　）・・・首都モガディシュ。「アフリカの角（つの）」。中央政府が崩壊し，各地の部族がそれぞれに支配を固める無政府状態となる。内戦鎮圧のため国連軍が派遣されたが，ソマリア民兵によって逆に攻撃され，大きな被害を受けたことも。一部のソマリア人がインド洋沿岸地域で海賊行為を行っていることが問題となっている。

サハラ以南アフリカ

サハラ砂漠以南のアフリカは，（サハラ以北の）北アフリカとは民族系統が大きく異なる。多くの部族（民族）が分布するが，その多くはネグロイド（黒色人種）である。国境線が部族分布を無視して引かれていることが多く，国内の部族構成は複雑になる。
アニミズム（精霊信仰）や伝統的な土着宗教を信仰する民族が多いが，サヘル地帯（セネガル・マリ・ニジェールなど）やインド洋沿岸（タンザニアなど）ではイスラム教人口が多い。
とくに経済レベルが低く，工業化が進展せず，プランテーション作物や鉱産資源など特定の一次産品に経済が依存する国が多い（モノカルチャー）。出生率が極めて高いことから人口増加率が高く，乳幼児死亡率も高い。熱帯アフリカではマラリア，南部アフリカではHIVといった伝染病や疾患の蔓延も。

＜西アフリカ諸国＞

サハラ砂漠とその南縁に沿うサヘル地帯に位置する国々。サヘル地帯では砂漠化が進み，その最大の要因は1970年代より顕著となった降水量の減少であるが，家畜の過放牧，薪炭材の過剰な伐採，耕作不適地への耕地拡大，不適切な灌漑による塩害の助長など，人為的な要因も小さくない。農地や居住地を失い，近隣の大都市へと流出する環境難民も多い。

モーリタニア・・・首都ヌアクショット。旧フランス領。北アフリカのアラブ圏とサハラ以南のネグロイド分布地域との境界に当たり，国内の民族対立が激しい。鉄鉱石の産出国である。
（10　　　　　　　　）・・・首都ダカール。旧フランス領。サハラ砂漠の南に沿う草原地帯をサヘル（縁，岸辺という意味）というが，その最西部，大西洋岸に位置する国。フランスに支配されていた時代にプランテーションが開かれ，油脂採取用の商品作物であるラッカセイなどが栽培された。
マリ・・・首都バマコ。旧フランス領。サヘル諸国の一つ。かつて岩塩を豊富に産し，その交易の中心として栄えたトンブクトゥは，黒人王国マリの都だった。世界遺産にも指定されているモスクなども存在するが，現在では砂漠化の進行の影響もあり，その荒廃が懸念されている。
ニジェール・・・首都ニアメ。旧フランス領。サヘル諸国の一つ。国土南西部を外来河川ニジェール川が流れる。ニジェールとは川の意味。旧フランス領時代に綿花などのプランテーションが開かれた。ウラン鉱の世界的な産出国でもある。
チャド・・・首都ンジャメナ。旧フランス領。サヘル諸国の一つ。チャドとは湖の意味。国土のほとんどは乾燥帯に属し，ステップでは砂漠化も進む。多くの国の国境となっているチャド湖は内陸湖であるが，砂漠化の影響によって周辺の降水量が激減していることもあり，湖面の縮小が深刻。

＜ギニア湾岸諸国＞

ギニア湾岸地域では季節風の影響によって夏季に降水が集中し，雨季と乾季のある熱帯気候（サバナ気候，熱帯モンスーン気候）がみられる。年間降水量は極めて多い。衛生環境が劣悪

であり，ヨーロッパ人による内陸部への進出はみられず，沿岸部に植民地支配の根拠地としての都市が築かれた。胡椒海岸（リベリア），黄金海岸（ガーナ），象牙海岸（コートジボワール），奴隷海岸（トーゴ・ベナン・ナイジェリア西部）など，取引された商品名にちなんだ地名が多くみられる。

ギニア・・・首都コナクリ。旧フランス領。ボーキサイトの産出が多い。
リベリア・・・旧アメリカ合衆国領。首都モンロビアの名称はアメリカ合衆国大統領モンローに由来する。アメリカ合衆国からの解放奴隷が建国した国であるが，現在でもその奴隷の子孫と先住民族との対立が激しく，不安定な政治状況にある。船舶登録税などが安く，便宜置籍船国として世界有数の船舶保有量を誇る。鉄鉱石の産出国であり，代表的な鉄山はボミヒルズ。
（11　　　　　　　　）・・・旧フランス領。国名はフランス語で「象牙海岸」を意味する。カカオの生産量世界１位。首都は沿岸部のアビジャンから移転した内陸部のヤムスクロ。商品作物の優先的な栽培は，穀物自給率の低下につながっている。
（12　　　　　　　　）・・・首都アクラ（本初子午線が通過する）。イギリスの植民地時代は黄金海岸とよばれた。1957年独立。カカオの生産で知られる。ボルタ川にアコソンボダムが建設され，アルミニウム精錬業も成立している。最大の輸出品目は（カカオでなく）金（非貨幣用）であるので注意。
カメルーン・・・首都ヤウンデ。国土が南北に細長くさまざまな気候がみられる国家。北部はサヘル地帯に含まれ乾燥帯（ステップ気候），中部から南部は赤道に近い熱帯（熱帯雨林気候）。
ガボン・・・首都リーブルビル。赤道直下，大西洋岸に位置する国。OPECに加盟する産油国であり，人口が少ないこともあり，アフリカの国としては１人当たりGNIは高い。

＜ナイジェリア＞

旧イギリス領。人口は世界７位で人口増加率も高い。アフリカ最大の原油産出国で，モノカルチャーでもある。１人当たりGNIは高くないが，GNIの規模はエジプトや南アフリカ共和国をしのぎ大陸最大。アフリカ経済の中心地となることが期待されており，先進国からの投資も進んでいる。

（13　　　　　　　　）・・・プライメートシティ。農村からの人口流入によって人口増加率も極めて高い。植民地時代の根拠地から発展し，独立当時は首都だった。
アブジャ・・・首都。国土の中央部に位置。主要３部族の境界付近に首都を移すことで勢力の均衡を保つこと，内陸部の高原の開発を進めることなどの目的でつくられた。
（14　　　　　　　　）川・・・大陸縁辺部の山地に水源を発し，北東に流れ，やがて大きく湾曲し，南東方向に流路を変えた後に，ナイジェリアからギニア湾に注ぐ。サヘル地帯やサハラ砂漠を通過する外来河川であり，周辺では灌漑農業によって雑穀や綿花，ラッカセイの栽培がみられる。ナイジェリア（Nigeria）の国名はニジェール（Niger）川に由来している。
奴隷海岸・・・トーゴからベナン，ナイジェリア西部の沿岸部はかつてこのようによばれた。この地域に住むヨルバ族の人々は奴隷として新大陸へと連れて行かれた。
ハウサ族・・・北部サヘル地帯に分布。農耕生活を営み，イスラム教を信仰する。
ヨルバ族・・・南西部の奴隷海岸に分布。キリスト教やイスラム教が主だが，一部に伝統宗教も。
イボ族・・・南東部のニジェール川河口地域に分布。油田を支配する。教育水準は高く，キ

リスト教を信仰する。かつてビアフラ共和国の独立を宣言し，内戦が生じた。

(参考)ナイジェリアの部族(民族)対立融和への試み

ナイジェリアは，独立以来，国内の有力３部族による対立が激しく，史上最悪の内戦ともいわれるビアフラ戦争を誘発してしまった背景がある。この部族(民族)対立を緩和するためにいくつかの方策が行われた。
１) 英語の公用語化・・・ハウサ語，ヨルバ語，イボ語など各部族がそれぞれの言語を使用していた。英語を公用語とすることで，コミュニケーションを円滑にする。
２) 州の細分化・・・かつては大きく３つの州にのみ区分されていた。現在は30以上の州に細分化され，規模の小さな部族の意見も尊重するようになった。
３) 首都の移転・・・奴隷海岸に位置するラゴスはヨルバ族の分布地域に含まれる。部族間のバランスを取るために，国土中央部に計画的に首都アブジャを建設した。なお，この都市のデザインは日本人建築家による。

<コンゴ民主共和国>

旧ベルギー領。公用語はフランス語。旧名はザイールであるが，やがて現在の国名に改められた(ブラザビルを首都とするコンゴ共和国と区別するために，「コンゴ民主」を通称とすることが一般的)。ダイヤモンド鉱を産することで知られ，それらはベルギーへ輸出されるなど，現在も旧宗主国との関係は深い(ベルギーは世界のダイヤモンド流通の中心地の一つである)。レアメタルの一種であるコバルト鉱の産出も多いが，これは軍事利用もされうる非常に重要な鉱石資源である。

(15　　　　　　　　)川・・・アフリカ最大の流域面積を誇る。上流から中流は勾配が緩やかであり，河川交通が発達している。ただし，河口付近は急傾斜で急流や滝が連続し，外洋からの遡航は困難。
キンシャサ・・・首都。内陸部のキサンガニとはコンゴ川の水運で結ばれる。
(16　　　　　　　　)ベルト・・・国土南部からザンビアにかけて広がる産銅地帯。銅鉱の産出量が多い。
カタンガ州・・・南部の州。分離独立を求める動きも。旧称はシャバ州。

<ケニア>

赤道直下に国土を有する高原国。気温がやや低く，伝染病を媒介する害虫が少ないため，ヨーロッパ人の入植が進んだ。言語はスワヒリ語と英語。熱帯草原は野生動物の宝庫であり，多くの観光客が訪れる。

(17　　　　　　　　)・・・首都。イギリス人によって建設された町を起源とし，先進国のようなビル群がみられる近代的な都市。大きな空港もあり，航空交通の結節点でもある。国連環境計画(UNEP)の本部も置かれている。
ケニア山・・・ケニアに位置する火山。アフリカ大地溝帯に沿ってキリマンジャロ山など多くの火山が分布していることにも注目しておこう。

(18　　　　　　　　　)ハイランド・・・ケニア山麓の高原。イギリス人の手によって茶のプランテーションが開かれた。
ウガンダ鉄道・・・ウガンダの綿花をモンバサまで輸送する鉄道。ナイロビはその中継地につくられた都市。
モンバサ・・・インド洋に面する港湾都市。
ヴィクトリア湖・・・淡水湖としては世界２位の面積(１位はスペリオル湖)を誇り，ケニアなど３か国の国境湖沼となっている。アフリカ大地溝帯に沿う断層湖の一種だが，形状は他の断層湖(タンガニーカ湖やマラウイ湖など)とは異なり，円に近い形となっている。深さもさほどではない。ヴィクトリア湖を中心とした湖沼地域はナイル川(白ナイル)の水源。

＜南部アフリカ諸国＞

ルワンダのように内戦によって荒廃した国もあるが，ボツワナやアンゴラなど豊富な鉱産資源によって比較的経済レベルが高い国もある。しかし，マラリアやHIVなど伝染病の蔓延によって平均寿命は短くなっている。

ウガンダ・・・首都カンパラ。赤道直下の内陸部に位置。ナイル川の源流地帯に国土を有し，ヴィクトリア湖に接する。イギリスの植民地時代に綿花栽培が始められ，綿花を輸送するためにケニアのモンバサまで鉄道がつくられた(ウガンダ鉄道)。
(19　　　　　　　　　)・・・首都キガリ。1990年代，ツチ族とフツ族との激しい内戦により，国民の多くが犠牲となった。難民も発生し，隣国コンゴ民主へと逃れる者が多かった。国連軍も派遣されたが，彼らの果たした役割はあまりに小さい。
タンザニア・・・第一次世界大戦の以前はドイツの支配，以後はイギリスの支配。国名の連合共和国とは，タンガニーカ(大陸部の総称)とザンジバル島(インド洋に面する島。交易で栄えた)とが連合して形成されたことに由来する。憲法上の首都はドドマであるが，実質的な首都はダルエスサラーム(サラームとはイスラム教の言葉で平和を意味する)で，サバナ気候(Aw)である。ザンビアの銅地帯とダルエスサラームを結ぶタンザン鉄道は，中国の支援によって敷設された。丁子やサイザル麻の生産がさかん。タンガニーカ湖は断層湖。隣国ケニアから広がる熱帯草原は野生動物の王国。
マラウイ・・・首都リロングウェ。マラウイ湖はアフリカ大地溝帯に沿う断層湖。
モザンビーク・・・首都マプート。旧ポルトガル領。1975年に独立。ザンベジ川デルタに国土が広がる。内戦が絶えず，１人当たりGNIは極めて低い。
ザンビア･･･首都ルサカ。旧イギリス領。温帯冬季少雨気候(Cw)。コンゴ民主から続くカッパーベルト(銅地帯)に位置し，ザンベジ川にはカリバダムが建設されている。銅鉱を港湾に輸送するための鉄道が２本あり，インド洋岸のダルエスサラームにつながるタンザン鉄道と，大西洋岸のロビトにつながるベンゲラ鉄道。とくにタンザン鉄道は中国の支援によって敷設された。
アンゴラ・・・首都ルアンダ。旧ポルトガル領。1975年に独立。OPECに加盟する産油国。
ボツワナ・・・首都ハボローネ。旧イギリス領。ダイヤモンドの産出が多く，比較的経済レベルが高い。ボツワナからナミビアや南アフリカ共和国にかけて広がるカラハリ砂漠はアフリカ南部最大の砂漠。沿岸地域のナミブ砂漠ほど乾燥の度合は激しくなく，コイ族やサン族など狩猟や遊牧などの原始的生活を送る人々も存在する。
ナミビア・・・首都ウィントフック。ドイツ・南アフリカ共和国の支配を受けていたが，

1990年に独立。大西洋岸に広がるナミブ砂漠は，北上するベンゲラ海流（寒流）の影響を受けて形成された海岸冷涼砂漠。
(20　　　　　　　　　)・・・旧フランス領。マダガスカル島は日本の約1.6倍の面積を持つ巨大な島である。古い時代に大陸から切り離されてしまったため，サルの一種であるアイアイや，硬い樹皮を持つバオバブなど，この島にしか存在しない珍しい動植物(固有種という）にあふれる。貿易風の影響によって国土の東岸で多雨，西岸で少雨となり，東部には熱帯雨林が広がり，西部にはサバナや灌木林がみられる。首都はアンタナナリボ。民族はマレー系が主で，主食として米が栽培されている。

＜南アフリカ共和国＞

かつてはオランダに支配されていたが，その後イギリスの植民地となる。公用語の一つのアフリカーンス語はオランダ語をルーツとする。豊富な鉱産資源を支配しようとするヨーロッパ系白人によって，先住の黒人や移民であるインド系の人々を差別するアパルトヘイト（人種隔離政策）が実施された。1990年代に入り，アパルトヘイトによる差別が撤廃されると，人口の４分の３を占める黒人に政治的な自由が与えられ，黒人大統領も誕生した。しかし，白人との経済格差は依然として大きく，犯罪率も低くない。

ハイベルト・・・国土中央の半乾燥草原はハイベルトとよばれ，羊の企業的牧畜地帯となっている他，トウモロコシの栽培もさかん。
(21　　　　　　　　　)山脈・・・古期造山帯。石炭の産出量が多い。
キンバリー・・・ダイヤモンド鉱山。
オレンジ川・・・ナミビアとの国境河川。
プレトリア・・・首都。行政府が置かれる。
(22　　　　　　　　　)・・・鉱業都市。内陸部の金鉱に接する。
(23　　　　　　　　　)・・・南西部の港湾都市。地中海性気候がみられブドウ栽培（そしてワインの醸造)がさかんであることでも名高い。立法府が置かれる。
ダーバン・・・おおむね南緯30度・東経30度に位置し，温暖湿潤気候(Cfa)。
ポートエリザベス・・・西岸海洋性気候（Cfb）であるが，南半球においてはこのように大陸西岸以外にも西岸海洋性気候がみられることに注意しよう（例えばメルボルンなど)。

(参考)アパルトヘイト

南アフリカ共和国ではアパルトヘイトとよばれる人種隔離政策が施行されていた。ヨーロッパ系白人の地位が高く，先住のアフリカ系，移民のインド系の人々の権利が抑えられていた。都市から離れた場所に集住地区が設けられ，そこに住まわされていた人々も多かった。
しかし，国際的な批判を浴びていたことにより，90年代までにアパルトヘイトに関する法律は撤廃され，ヨーロッパ系白人とアフリカ系，インド系の人々との間に政治的な平等が実現した。これにより，活動家であったアフリカ系のネルソン・マンデラ氏が大統領にも選ばれた。
しかし人種・民族間の経済的な格差は縮まらず，むしろ治安の悪化やスラムの拡大などの社会問題は深刻化している。

第７章　北西ヨーロッパ（1）

北ヨーロッパ

国ごとのキャラクターが明確なので，それぞれ整理しておくこと。

国	国際機構	発電	民族系統	宗教
アイスランド	NATO	地熱 水力	ゲルマン	プロテスタント
ノルウェー	NATO	水力	ゲルマン	プロテスタント
スウェーデン	EU（ユーロ未導入）	水力 原子力	ゲルマン	プロテスタント
フィンランド	EU	原子力 バイオマス（木くず）	ウラル（アジア）	プロテスタント
デンマーク	EU（ユーロ未導入） NATO	風力 バイオマス （家畜の排泄物）	ゲルマン	プロテスタント

<アイスランド>

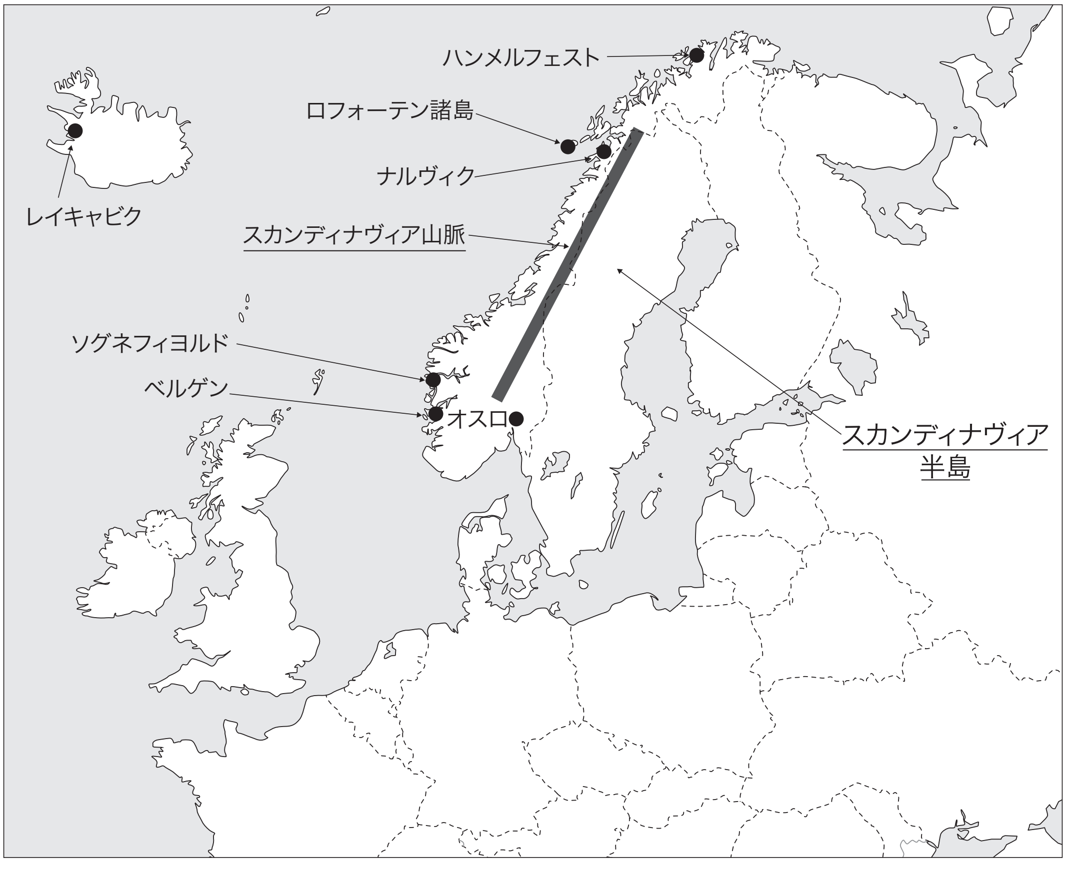
「氷と炎の島」。大西洋中央海嶺上の火山国。緯度は北極圏よりやや低緯度側に位置。

（1　　　　　　　　　）・・・首都。暖流などの影響により温帯気候がみられ，漁港となっている。人口規模は20万人程度(都市圏人口)。

<ノルウェー>

面積は日本に近いが，人口はわずか500万人程度であり，人口密度は極めて低い。１人当たりGNIは高水準で８万ドルを超えている。原油や天然ガス資源に恵まれるが，発電は水力に依存している。

（2　　　　　　　　　）半島・・・ノルウェー・スウェーデンが含まれる半島。
スカンディナヴィア山脈・・・スカンディナヴィア半島の中央を貫く山脈。古期造山帯であり，カレドニア山系に属する。偏西風の風上斜面側に当たるノルウェーでは急斜面を利用して水力発電がさかんに行われている。ノルウェーは北ヨーロッパ最大のアルミニウム生産国。
オスロ・・・首都。北緯60度に位置。
（3　　　　　　　　　）・・・ソグネフィヨルドに近接する水産都市。国内人口２位。
ソグネフィヨルド・・・世界最大規模のフィヨルド。入り江の長さは100kmを超える。
トロンヘイム・・・人口３位の港湾都市。
（4　　　　　　　　　）・・・北緯68度に位置し，北極圏に含まれるが，冬季でも港湾は凍結しない。スウェーデン北部で採掘される鉄鉱石が鉄道で運搬され，この港からドイツなどへと輸出されていく。
ハンメルフェスト・・・スカンディナヴィア半島最北端の都市。北緯71度であり，冬季は数か月ほど全く太陽が昇らない状態が続くものの，ナルヴィクと同じく不凍港である。
ロフォーテン諸島・・・北海漁業の中心地の一つ。ニシンやタラなどの寒海魚が中心。
スバールバル諸島・・・北極海に浮かぶ島嶼。北緯80度付近に位置するものの，石炭が採れるため居住する人々もいる。アネクメーネ（非居住地域）の中のエクメーネ（居住地域）の例。



＜スウェーデン＞

日本より大きな面積を有する北ヨーロッパ最大の国。長く中立政策を維持し，第二次世界大戦にも不参加だった。高齢化が早く進んだ国であり，一時は少子化に悩まされたが，福祉政策の徹底により合計特殊出生率は一時期2.1にまで回復し，現在も高い値を維持。自動車工業をはじめとする機械工業も発達。

（5　　　　　　　　　）海・・・スウェーデンやフィンランド，ヨーロッパ大陸に囲まれた海域。安定陸塊のバルト楯状地の中央の凹地に海水が浸入したもので，水深は浅い。大陸性の気候がみられるところで冬季は港湾などが凍結する。パルプ製紙工業がさかんな周辺国から製品処理用水が排出されるため，比較的水質汚濁が進んでいる。
ボスニア湾・・・バルト海北部の湾。
（6　　　　　　　　　）・・・首都。北緯60度に位置。
ウプサラ・・・スウェーデンで最も古い歴史を持つ大学が位置する学術都市でもある。
イェーテボリ・・・自動車工業。ボルボの本社がある。カデガド海峡に面する。
マルメ・・・デンマークの首都コペンハーゲンの対岸に位置する港湾都市。
ウメオ・・・パルプ工業。
ルレオ・・・ボスニア湾に面する港湾都市。キルナやエリヴァレで産する鉄鉱石を搬出する港であるが，冬季には凍結して使用不能となる欠点がある。
キルナ・・・北極圏に位置する国内最大の鉄山。高品質の磁鉄鉱を産する。冬はノルウェーのナルヴィク港から主にルールなどに搬出される。
エリヴァレ（イェリヴァレ）・・・キルナに次ぐ鉄山。

＜フィンランド＞

「森と湖の国」である。国土の広い範囲が森林に覆われ，林業やパルプ工業が発達する他，木くずがバイオマスとして火力発電に用いられている。かつて大陸氷河に覆われ，南部を中心に多くの湖が形成されている。

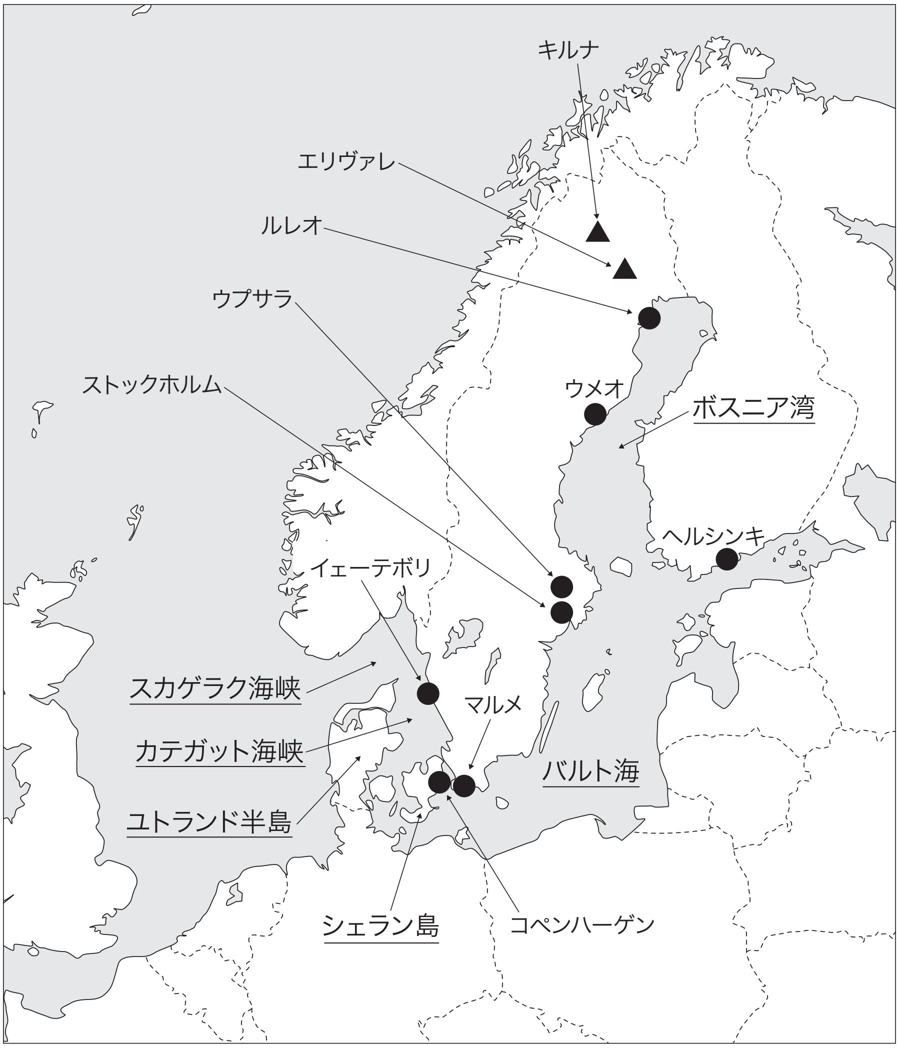
（7　　　　　　　　　）・・・首都。北緯60度に位置する。

＜デンマーク＞

半島と島からなる国。大陸氷河の影響によって土地は平坦に削られ，やせている（ヒースランド）。しかし協同組合を中心として農業振興が図られ，国土の半分以上が耕地として利用され，小麦は輸出余力も大きい。酪農製品や豚肉の生産と輸出もヨーロッパ有数。また，風力発電が総発電量の高い割合を占めるなど，再生可能エネルギーの開発にも力が入れられる環境先進国である。

スカゲラク海峡・・・デンマークとノルウェーの間の海峡。
カテガット海峡・・・デンマークとスウェーデンの間の海峡。
ユトランド半島・・・デンマークの大陸部分に当たる半島。大陸氷河に削られて平坦な地形となっている。ヒースランドとよばれる荒地が多い。

シェラン島・・・コペンハーゲンが位置する島。
（8　　　　　　　　　　）・・・首都。偏西風の風下側となるシェラン島の東岸に開かれた港湾都市。アンデルセン童話の人魚姫の像が観光名所。
（9　　　　　　　　　　）・・・大陸を除けば世界最大の島である。デンマークの自治領であり，イヌイットが自治を行う。



イギリス

グレートブリテン島と北アイルランド地方から主になる連合王国。人口は約7000万人，面積は日本の本州とほぼ同じ約24万km^2。
国土の北部は大陸氷河に削られたやせた土地で，牧草地となっている。南部のロンドン盆地には肥沃な土壌が広がり小麦栽培がさかん。
ゲルマン系の住民が住むイングランドと，ケルト系の住民が中心のウェールズとスコットランドがあり，プロテスタントが多数。北アイルランドではケルト系住民が主だが，プロテスタントとカトリックとの宗教対立が生じている。

ベルファスト・・・北アイルランドの主要都市。
アバディーン・・・スコットランド北東部の港湾都市。漁港であるが，北海の油田よりパイプラインが通じ，石油精製業もさかん。
(10　　　　　　　　)・・・スコットランドの主要都市。鉄鋼業や造船が発達する他，近年はICなど先端工業の集積もみられる。「シリコングレン」ともよばれる。
エディンバラ・・・スコットランドの主要都市。人口規模はグラスゴーより小さいものの，かつてはスコットランド王国の都としても栄えたことがある。近年はIC工業など。
ミドルズブラ・・・北東イングランドの工業都市。北海にあるエコフィスク油田からパイプラインが通じ，石油精製業がさかん。
ニューカッスル・・・北東イングランドの工業都市。資源産地に近く原料立地型の鉄鋼業が栄えた。
ペニン山脈・・・グレートブリテン島を縦断する脊梁山脈。ただし，古期造山帯であり標高は低い。偏西風の影響により，西側斜面で多雨，東側斜面で少雨となる。
(11　　　　　　　　)・・・ランカシャー地方の中心都市。産業革命発祥の地として綿工業が栄えた。
リヴァプール・・・ランカシャー地方の港湾都市。内陸部に位置するマンチェスターの外港として運河も通じる。産業革命時にはインドからの綿花がここへと積み入れされた。ビートルズはこの町で結成された。
(12　　　　　　　　)・・・ヨークシャー地方の中心。毛織物工業がさかん。偏西風の風下斜面に当たるためやや降水が少なく，牧羊に適した気候条件となっている。
ブラッドフォード・・・ヨークシャー地方の都市。
シェフィールド・・・ヨークシャー地方の都市。刃物の生産で有名。
(13　　　　　　　　)・・・ミッドランドの工業都市。石炭と鉄鉱石に恵まれ鉄山炭田立地型の鉄鋼業が栄えた。工場が黒煙を放つ様子から「黒郷(ブラックカントリー)」ともよばれる。近年は鉄鋼業は衰退し，人口規模の大きさ(国内２位)，ロンドンとの利便性(近距離であり，運河も通じている)などの立地条件を生かし，機械工業の中心地となっている。
コベントリー・・・ミッドランドの工業都市。自動車工業。日本からの企業も多く進出している。
(14　　　　　　　　)・・・南ウェールズの代表都市であり，製鉄所が設けられている。南ウェールズで採掘される石炭を利用し，鉄鉱石は外国からの輸入に頼っている。
スウォンジー・・・南ウェールズの都市。
ブリストル・・・ブリストル海峡の奥の港湾都市。
サウサンプトン・・・イングランド南部の港湾都市。石油精製工業が立地。
キングストン・アポン・ハル・・・水産都市。北海に面し，ドッガーバンクやグレートフィッシャーバンクが主な漁場。北海では大型船が巨大な網を引くトロール漁法が行われ，ニシンやカレイなどの漁獲が多い。
グレートヤーマス・・・北海に面する水産都市。
オックスフォード・ケンブリッジ・・・学術都市。それぞれ伝統的な大学が位置する。
カンタベリー・・・宗教都市。イギリス国教会の総本山。
ドーヴァー・・・フランスに相対する位置にあり，ドーヴァー海峡という名称はこの都市名をとったものである。
ドーヴァー海峡・・・イギリスとフランスの間のイギリス海峡の，最も狭まった部分。この海底にトンネル(ユーロトンネル)が建設されており，ロンドン～パリ間が高速鉄道によって２時間半程度で結ばれている。

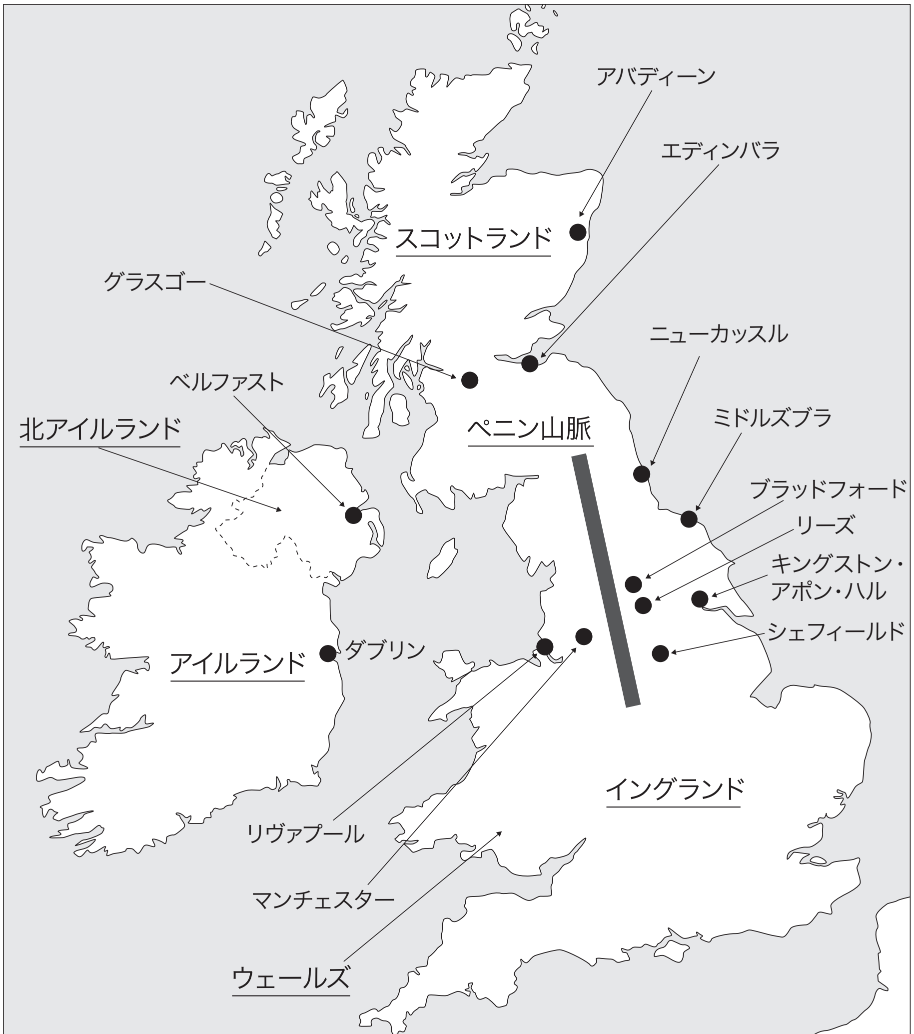
(15　　　　　　　　　)・・・首都。20世紀前半にはすでに市街地の過密化が問題になるなど，ヨーロッパで最も人口規模の大きな都市の一つでもある。テムズ川エスチュアリーに位置し，国内最大の貿易港を有する。

(16　　　　　　　　　)地区・・・ロンドン市内で古くから港湾として利用されてきた地域。ただし荒廃が激しくスラム化が顕著であったため，近年再開発がなされ，オフィス街や高層マンションなど近代的な街並みへと変貌している。

(17　　　　　　　　　)・・・20世紀初頭に計画的に建設されたニュータウン。

ハーロー・ウェリンガーデンシティ・・・第二次世界大戦後に開発されたニュータウン。

(注) 拡大するロンドンの人口過密解消のために大ロンドン計画が施行された。これはハワードの田園都市構想に基づくもので，ロンドン市街地を囲むように緑地帯（グリーンベルト）を配置し，その周囲にいくつもの職住近接型ニュータウンを建設しようとするもの。具体的に実行に移されたのは第二次世界大戦後のことであり，ハーローやウェリンガーデンシティがその代表的なところ。注意するべきはレッチワース。レッチワースの建設年度は20世紀の初頭であり，大ロンドン計画に先立つもの。よって厳密には他のニュータウンとは性質を異とするのであるが，実際にはレッチワースも「大ロンドン計画に基づいて建設されたニュータウン」の範ちゅうに含めてしまうことが一般的なので，他のニュータウンとの区別はとくに必要ではない。



バーミンガム
コベントリー
ハーロー
ケンブリッジ
カンタベリー
グレート
ヤーマス
レッチワース
ウェリンガーデンシティ
ドーヴァー
オックスフォード
スウォンジー
ロンドン
カーディフ
ブリストル
ドーヴァー海峡
サウサンプトン

第８章　北西ヨーロッパ（2）

ベネルクス３国

ベルギー・オランダ・ルクセンブルクの３国を総称して「ベネルクス」という。いずれも立憲君主国である。

<オランダ>

人口約1500万人，面積約４万 km^2 で，九州よりやや大きいサイズ（デンマークやスイスもほぼ同じ大きさ，ただし，人口に違いがあるので統計で確認しておこう）。国土の４分の１は干拓地（ポルダー）であり，海面下。沿岸部の砂丘では園芸農業（花卉など），干拓された低地は牧草地として酪農がさかん。経済規模に比して貿易額が大きい（貿易依存度が高い）。

（１　　　　　　　　　）・・・憲法上の首都。人口規模は100万人に達しないものの，国内人口最大都市である。
ハーグ・・・行政府や王宮も置かれる実質的な首都。国連の機関である国際司法裁判所もここにある。
ライデン・・・学術都市。有名な大学が存在。
フローニンゲン・・・北部の都市。北海で採掘される天然ガスを生かした化学工業。
アイモイデン・・・鉄鋼業。
（２　　　　　　　　　）・・・ライン川（新マース川）河口に位置する都市。
（３　　　　　　　　　）・・・ロッテルダム近郊，ライン川の河口部につくられた掘り込み式の人工港。ヨーロッパ有数のコンテナ貨物取扱量を誇る巨大港湾。石油化学工業も発達。
アイセル湖・・・ゾイデル海を堤防で仕切ってつくられた湖（淡水）。多くの部分が干拓されている。

<ベルギー>

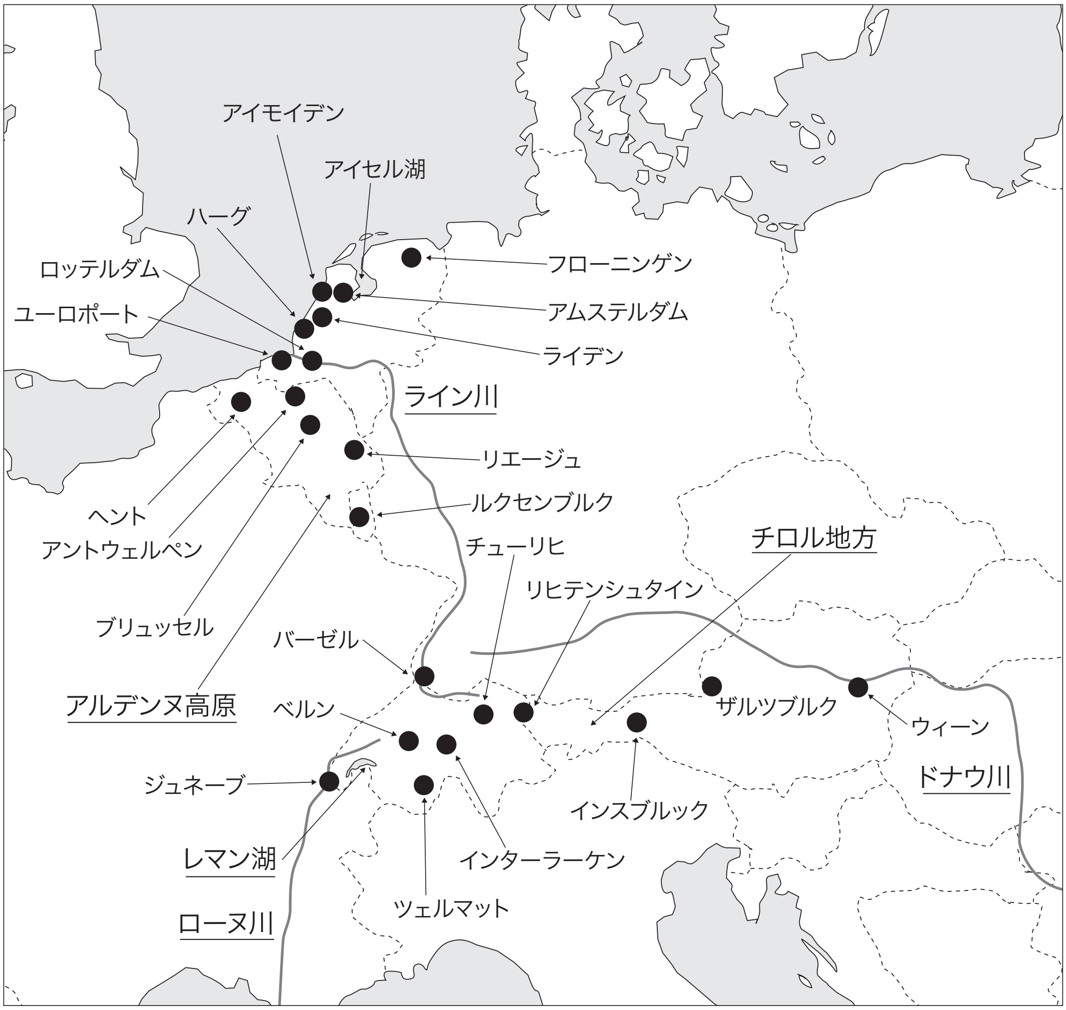
人口約1000万人，面積約３万 km^2 の小国だが，公用語はオランダ語（フラマン語），フランス語（ワロン語），ドイツ語の３つ。連邦国家ではあるが，立憲君主制であり，国民の多くはカトリックを信仰する。

（４　　　　　　　　　）・・・首都。EUとNATOの本部も置かれている。オランダ語とフランス語が等しく使用されるバイリンガル都市でもある。
（５　　　　　　　　　）・・・港湾都市。重要な貿易港である。各種工業が発達する他，ダイヤモンド加工業の世界的な中心地。
ヘント（ガン）・・・フランドル地方の主要都市。伝統的に毛織物工業がさかんだが，近年は機械工業なども。
リエージュ・・・ワロン地方の主要都市。付近で産出される石炭を利用し鉄鋼業が成立。
アルデンヌ高原・・・南部の森林地帯。

<ルクセンブルク>

１人当たりGNIが高く，金融業が発達。

ルクセンブルク・・・首都。かつては鉄鋼業，現在は金融業。



ドイツ

ヨーロッパ最大のGNIを有する大国。人口も西ヨーロッパ最大で約8000万人。ただし，人口100万人を超える都市は４つ（ベルリン・ハンブルク・ミュンヘン・ケルン）のみで，多くが人口数十万人程度の中小都市。第二次世界大戦後に，資本主義国の西ドイツ（首都ボン）と社会主義国の東ドイツ（首都ベルリン）が成立したが，冷戦が終結した1990年に統一されている。しかし，両地域間の経済格差は残り，現在も東部ドイツは人口の流出地域となっている。

戦後復興期に多くのトルコ人労働者を迎え入れ，現在でも都市部ではトルコ人が多い。また，近年はポーランドなど東ヨーロッパ地域からの移民が増加している。

＜北部＞

北海やバルト海に面し，古い時代から交易がさかんだった地域。ハンザ同盟都市（中世の自治都市。封建主義的な勢力の支配を嫌う商人たちが独立して都市を支配し，同盟を組み協力体制がつくられた）が多く，盟主リューベックはじめハンブルクやブレーメンなどが含まれる。かつて大陸氷河に覆われた地域であり，地力は乏しく，氷河堆積物であるモレーンが分布。

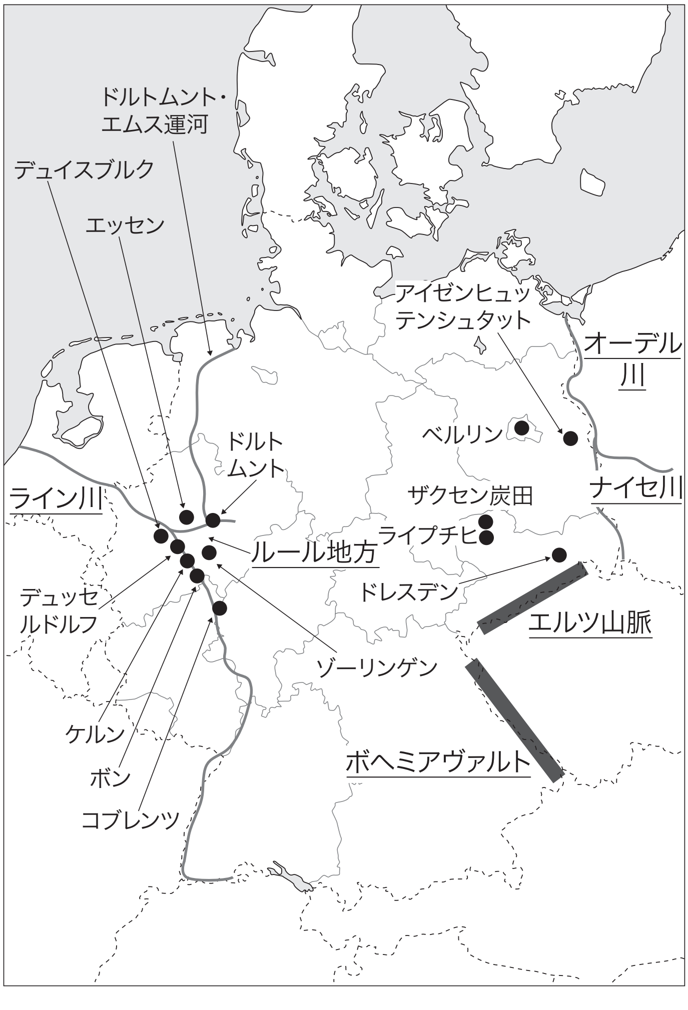
キール・・・バルト海に面する港湾都市。第二次世界大戦中には多くの軍船が建造された。軍事都市。
キール運河・・・ユトランド半島を横断する運河であり，19世紀末に建設された。第二次世界大戦時にはキールでつくられた軍船や潜水艦などがこの運河を通過して秘密のうちに北海に進出したという軍事目的での利用もみられた。
リューベック・・・ハンザ同盟の盟主。古風な街並みが残る。
（6　　　　　　　　　）・・・エルベ川エスチュアリーに位置する港湾都市。人口規模は国内２位。造船業などが発達。
ブレーメン・・・ウェーザー川エスチュアリーに位置する。
ブレーメルハーフェン・・・ブレーメンの外港。
ハノーバー・・・各種工業が発達。付近にカリ塩の鉱山もある。日系企業が多く進出する都市だが，明らかな特徴もないので試験では出題されにくい。
（7　　　　　　　　　）・・・自動車工業都市。フォルクスワーゲンの本社が置かれる企業城下町で，アメリカ合衆国のデトロイトや愛知県の豊田のように自動車工業を中核に都市が成立している。
ミッテルラント運河・・・北ドイツ平原を横断する運河。ベルリンからウォルフスブルク，ハノーバーを通過し，ルール地方や北海へとつながるドルトムント･エムス運河に合流する。
ゲッティンゲン・・・伝統的な大学が位置する。学術都市。

＜東部＞

旧東ドイツ。経済的な後進地域であり，人口流出地域である。首都ベルリンはこの地域に位置するものの，全体として停滞の印象。東部と他の地域との経済格差の解消こそ，現在ドイツが直面している課題である。

オーデル川・・・ドイツとポーランドの国境河川。河口はエスチュアリー。
ナイセ川・・・オーデル川の支流でドイツとポーランドの国境河川となっている。
エルベ川･･･チェコのモラバ丘陵に水源を発し，ボヘミア盆地を貫流，エルツ山脈とスデーティ山脈の間を抜けて北ドイツ平原へと達する河川。沿岸国の自由航行が許されている国際河川である。
エルツ山脈・・・ドイツとチェコの国境山脈。古期造山帯であり，付近にザクセンやボヘミアなどの炭田も立地。

ボヘミアヴァルト(ベーマーヴァルト)・・・ドイツとチェコの国境をなす山地。森林となっている。酸性雨による立ち枯れもみられる。
ザクセン炭田・・・東部ドイツを代表する炭田。エルツ山脈のふもと。
(8　　　　　　　　　)・・・人口最大都市で首都でもある。第二次世界大戦後に連合国の支配下に置かれたが，アメリカ合衆国・イギリス・フランスが支配した半分強の市域は西ベルリンとよばれ西ドイツの領土，ソ連が支配した残りの市域は東ベルリンとよばれ東ドイツ領とされた。つまり結果的に西ベルリンは東ドイツ国内に浮かぶ陸の孤島となってしまった。東ベルリンから西ベルリンへと亡命する者が後を絶たなかったため，堅牢な壁が建設され，この「ベルリンの壁」は東西冷戦のシンボルとなった。しかし1970年代に入り東西世界の緊張緩和(デタント)が進み，ソ連のアフガニスタン侵攻などで一時的に東西関係は悪化するものの，1980年代後半にはソ連でペレストロイカ(改革)が進行し，その中で東ヨーロッパに「自由の風」が吹き始める。1989年にベルリンの壁は壊され，それに熱狂する市民の姿も各種報道機関によって世界中に伝えられた。翌年，東西ドイツは統一され，ベルリンも再び一つの市になった。
アイゼンヒュッテンシュタット・・・東ドイツ時代の代表的な鉄鋼都市。
ライプチヒ・・・機械工業や出版業などが盛ん。旧東ドイツを代表する工業都市。
ドレスデン・・・古都。



<西部>

ライン川とその支流に沿う地域。ライン・ルール地方。単独で人口100万人に達する都市はケルンのみだが，多くの中小都市が都市圏を重ね，巨大な連接都市(コナベーション)を形成している。
ヨーロッパ有数の工業地域であるルール工業地帯は近年重工業が停滞し，先端産業地区へと変化しつつある。

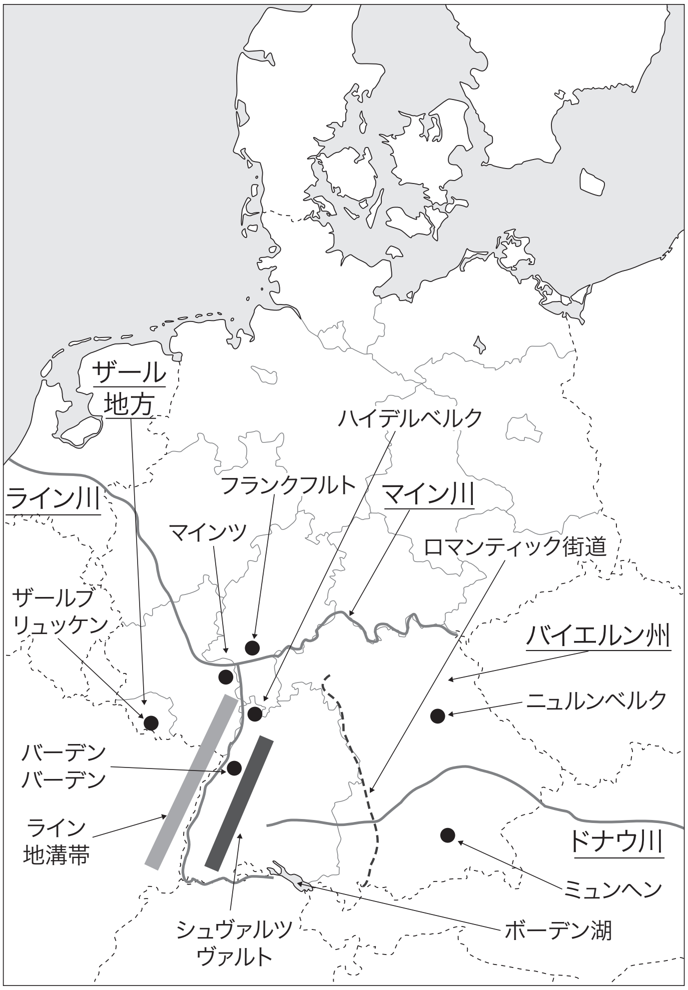
(9　　　　　　　　　)川・・・ヨーロッパで最も重要な河川。勾配がゆるやかで水量がほとんど変化しないため水運が発達しており，大型船舶がスイスのバーゼルまで航行可能。ドナウ川やエルベ川と同じく沿岸国の自由航行が許されている国際河川である。北海に注ぐ河川としてはめずらしく河口が三角州となっている。これに対しエルベ川・セーヌ川・ロアール川・テムズ川などはエスチュアリー。
(10　　　　　　　　　)地方・・・ドイツ西部のライン川流域の地方。石炭資源が豊富であり，ライン川の水運を利用してヨーロッパ有数の鉄鋼業地域となった。
デュースブルク・・・ルール工業地帯西部の鉄鋼都市。ライン川最大の河港を持つ。
エッセン・・・ルール工業地帯中央部の鉄鋼都市。
ドルトムント・・・ルール工業地帯東部の鉄鋼都市。ライン川水系と北海とを結ぶ運河(ドルトムント・エムス運河)に沿う。
ドルトムント・エムス運河・・・ルール地方からドルトムントを通過し，北海に注ぐエムス川へと続く運河。途中でミッテルラント運河と連結している。
ゾーリンゲン・・・ナイフやかみそりなど。世界三大刃物産地の一つ。
デュッセルドルフ・・・ルール地方のやや上流側に位置。ライン川に河港を有する。各種工業や金融業が発達し，とくにドイツ国内において日系企業が多いことで特徴づけられる。
ケルン・・・ライン川に沿う。中世の大聖堂(世界遺産にも指定)で有名。ハンザ同盟都市の一つでもある。
ボン・・・ライン川に沿う。旧西ドイツ時代の首都。ベートーベンの生家もある。
コブレンツ・・・フランス・ロレーヌ地方から流れるモーゼル川とライン川の合流点に位置。
ザール地方・・・モーゼル川流域で石炭資源が豊富。かつて鉄鉱石をさかんに産出したフランスのロレーヌ地方と近接する。
ザールブリュッケン・・・鉄鋼業。ザール炭田に接する。
マインツ・・・ライン川とマイン川の合流点に位置。
マイン川・・・ライン川の支流。マイン・ドナウ運河によってドナウ川と連結。
(11　　　　　　　　　)・・・ヨーロッパの金融の中心。欧州中央銀行が位置する。マイン川に沿う。ヨーロッパ有数の空港を持つ(ハブ空港)。
ハイデルベルク・・・大学が位置。学術都市。
(12　　　　　　　　　)・・・「黒い森」と訳されるが実質的には古期造山帯に分類される山脈であると考えよう。西側はライン地溝帯であり，東側はドナウ川の水源となっている。つまりラインとドナウの分水嶺である。低い丘陵は人工林で覆われているが，酸性雨による土壌の酸性化によって立ち枯れる樹木も多い。
ライン地溝帯・・・シュヴァルツヴァルト(ドイツ側)とヴォージュ山脈(フランス側)に挟まれたライン川沿いの低地で，両岸は切り立った崖(断層)となっている。
バーデンバーデン・・・ライン地溝帯に沿い温泉が分布。保養都市。

ボーデン湖・・・ドイツとスイスの国境湖沼。ライン川が通る。

＜南部＞

バイエルン州を中心とする地域。プロテスタントが主流であるドイツ国内においては例外的にカトリックの割合が比較的高い。
山がちな地形であるが，農業がさかん。ビールの原料であるホップの栽培など。

ニュルンベルク・・・マイン・ドナウ運河が通る。第二次世界大戦の戦犯を裁く戦争裁判が開かれた地でもある。
(13　　　　　　　　)・・・バイエルン地方の主要都市。国内人口３位。アルプス山脈の北麓に位置するため水に恵まれ，やや標高が高いため冷涼な気候となり大麦やホップの栽培に適するなど，ビール工業のとくに発達した都市として知られる。近年は自動車工業やIC工業など機械工業の集積もみられる。
ロマンティック街道・・・観光街道の一つ。バイエルン州の西端を南北に縦断している。



アルプス諸国

EU加盟国のオーストリア，EU未加盟（EFTA加盟）のスイスとリヒテンシュタイン。１人当たりGNIは極めて高い。

<スイス>

カントンとよばれる州からなる連邦国家。カントンごとの独自性が強く，公用語は最大の使用人口を有するドイツ語以外にフランス語，イタリア語，レートロマン（ロマンシュ）語も採用。宗教は，ゲルマン地域はプロテスタント，ラテン地域はカトリックなど多様。永世中立国であり，EUにもNATOにも未加盟。

（14　　　　　　　　　　）・・・首都。人口最大都市と首都が一致しない例。
チューリヒ・・・ドイツ語圏に位置。金融業が発達。
バーゼル・・・ドイツ語圏に位置。ライン川の河港都市で，化学薬品工業や精密機械工業が発達。
（15　　　　　　　　　　）・・・フランス語圏に位置。WHOなどの国際機関が本部を置く。
レマン湖・・・ジュネーブが面する湖。フランスとの国境湖沼。
ローヌ川・・・スイスに水源を発し，レマン湖を通り，フランスから地中海に注ぐ。
インターラーケン・ツェルマット・・・ともに観光保養都市。スキーなど。

<オーストリア>

公用語はドイツ語。カトリックが主に信仰される。永世中立国であり，EUには加盟するが，NATOには加盟していない。

（16　　　　　　　　　　）・・・首都。「音楽の都」。ドナウ川に沿う。オーストリア・ハンガリー帝国の都だった。
ザルツブルク・・・岩塩の産地であることからこの名称となった（「ザルツ」は塩の意味）。音楽家モーツァルトの出生地。
インスブルック・・・観光保養都市。冬季オリンピックも開催された。

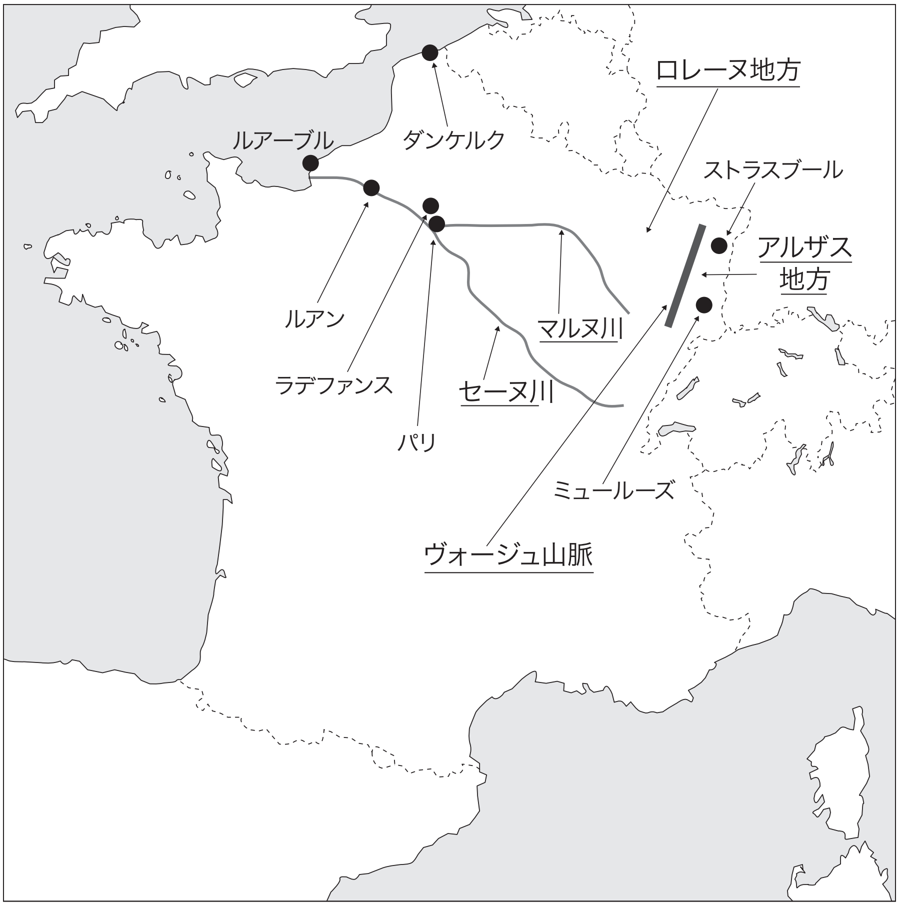
フランス

人口約6500万人，面積は日本より大きい約55万km^2（ニューカレドニアなど海外県を含めると約65万km^2）。パリ大都市圏に1000万人規模の人口が集中する中央集権国家。ヨーロッパ最大の農業国として重要であるが，自動車や航空機の生産も多い。
ラテン系カトリックの国であるが，国土周辺部には少数民族も。アルザス地方にはドイツ系，ブルターニュ半島にはケルト系，そしてスペインとの国境付近にはバスク人が分布。
近年はアラブ諸国などから移民も多く，パリ近郊には移民の集住地区もみられる。

<北部>

首都パリを中心とした地域で，パリ盆地はケスタ地形。肥沃な土壌に恵まれ，大規模で生産性の高い小麦農業が行われる他，ブドウの栽培北限に当たり，高級ワインの醸造でも名高い。

(17　　　　　　　　　)・・・臨海型の巨大銑鋼一貫工場が建設され，フランス鉄鋼業の中心の一つとなっている。ドーヴァー海峡に面する。
リール・・・炭田に近く，鉄鋼業もみられる。
(18　　　　　　　　　)川・・・フランス北部を流れる河川。中流にパリ，エスチュアリーとなる河口にルアンやルアーブルなど。
マルヌ川・・・セーヌ川の支流。ライン川と連結している(マルヌ・ライン運河)。
(19　　　　　　　　　)・・・首都。都市圏人口は1000万人を超える(行政区分としてのパリ市は人口200万人程度)。かつての市街地は城壁で囲まれていた。複数の広場を中心とした放射状の街路が特徴的。
(20　　　　　　　　　)地区・・・パリ郊外。副都心として開発が進む。
シテ島・・・セーヌ川の川中島。古代パリ市はこの地を発祥とする。
ルアーブル・・・セーヌ川の河口に位置。石油化学工業。
ルアン・・・セーヌ川のエスチュアリーに位置。パリの外港として発展。



＜東部＞

ライン地溝帯に沿うアルザス地方はドイツ系住民が居住し，歴史上ドイツとの係争地であった。ライン川支流のモーゼル川に沿うロレーヌ地方は鉄鉱石の産地であり，古くから鉄鋼業が発達したが，現在は衰退している。

ロレーヌ地方・・・鉄鉱石産地。リン分の多いミネット鉱という鉄鉱石が採掘される。主要都市はメスとナンシー。ただし近年鉄鋼業の中心はダンケルクやフォスなどの臨海部に移動しているため，ロレーヌの衰退は著しい。
ザール川・・・ロレーヌ地方からドイツへと流れる河川。ライン川の支流。沿岸では鉄鋼業が発達。
(21　　　　　　　　)地方・・・ライン川とボージュ山脈に挟まれた地域で，ライン地溝帯西部を占める。古くよりドイツとフランスとの係争地であり，現在はフランスが領有するもののドイツ系住民が多数を占める。
(22　　　　　　　　)・・・アルザス地方の主要都市。ライン川に接し，マルヌ・ライン運河やローヌ・ライン運河が発する水運交通の結節点でもある。ヨーロッパ議会が置かれている。
ミュールーズ・・・ストラスブールに次ぐアルザス地方第２の都市。

＜南西部＞

ロアール川やガロンヌ川の流域に含まれる地域。ブドウ栽培がさかんな農業地域ではあるが，近年は航空機工業も。

ロアール川・・・フランス南部サントラル高地に水源を発する。国内最長の河川でとくに上流部の勾配は急。運河によってソーヌ川やセーヌ川とつながっている。河口はエスチュアリー。
ガロンヌ川・・・ピレネー山脈の北麓に沿う。中流にはトゥールーズ，下流域にはアキテーヌ盆地。エスチュアリーとなっている河口付近ではジロンド川とよばれる。またミディ運河によって地中海方面に接続している。
(23　　　　　　　　)半島・・・西部に突き出した半島。ケルト系民族のブルトン人が居住。
サンナゼール・・・ロアール川河口に位置する港湾都市。造船業が発達。
ビスケー湾・・・ブルターニュ半島とイベリア半島に挟まれた湾。
サンマロ湾・・・ランス潮汐発電所がある。
(24　　　　　　　　)・・・ガロンヌ川中流の航空機工業都市。EU共同の航空機工場が位置する。内陸部で晴天が多い気候を生かす。
ボルドー・・・ガロンヌ川エスチュアリーに位置しワインの醸造がさかん。
アキテーヌ盆地･･･ガロンヌ川下流に広がる低地。ブドウ産地であり，主要都市はボルドー。

＜南東部＞

スイスから流下するローヌ川の流域。アルプス山脈や地中海など観光がさかんである他，港湾や急峻な地形を生かした個性ある工業も発達。

(25　　　　　　　　　)川・・・スイスに水源を発し，レマン湖を経由してフランス国内を南下，地中海に注ぐ河川。沿岸の都市としてリヨンが重要。河口はフォス湾となっている。この川の河谷を冬から春にかけての時期に吹き抜ける北風がミストラル。乾いた寒風である。
リヨン・・・ローヌ川とソーヌ川の合流点に位置する国内人口３位の都市。伝統的に絹織物工業が発達している。
シャモニー・・・アルプス山脈最高峰モンブランに隣接する山岳リゾート都市。
グルノーブル・・・山岳リゾート都市。アルプスの急流を生かした水力発電によってアルミニウム工業が成立している。
ラングドック・ルシヨン地方・・・ローヌ川河口からスペインへと向かう海岸地域。コートダジュールに次ぐ観光地として開発が進められている。
フォス・・・臨海型製鉄所が立地する（原料は輸入に依存）。ローヌ川の河口のフォス湾に面する。
(26　　　　　　　　　)・・・ローヌ川河口からやや東方に位置し，重要な貿易港を持つ。近年は原油積み入れ港として石油化学工業も発達。
ツーロン・・・軍港。軍事都市。
プロバンス地方・・・ローヌ川下流の左岸地域。オランダ人画家ゴッホの手によってこの地方の美しい風景が描かれた。
コートダジュール・・・イタリアに接する地中海沿岸のリゾート地域。家族で滞在型のバカンスを楽しむ観光客が多く訪れる。
カンヌ・・・コートダジュールを代表する観光保養都市。映画祭で有名。
ニース・・・コートダジュール最大の都市。
モナコ公国・・・コートダジュールに位置する独立国家。

（参考）とくに頻出のジャンルではないが，運河を整理しておく。

ブルゴーニュ運河・・・セーヌ川とソーヌ川を結ぶ。
マルヌ・ライン運河・・・マルヌ川からナンシー，ストラスブールへと通じる。
ローヌ・ライン運河・・・ローヌ川からストラスブールへと通じる。
サントル（中央）運河・・・セーヌ川・ロアール川・ソーヌ川を結ぶ。
ミディ（南）運河・・・ガロンヌ川とローム川はこの運河を経由して接続している。

ブルターニュ半島
サンマロ湾
サンナゼール
ロアール川
シャモニー
ボルドー
トゥールーズ
ローヌ川
ビスケー湾
リヨン
プロバンス地方
ガロンヌ川
グルノーブル
モナコ公国
アキテーヌ盆地
フォス
コートダジュール
ニース
マルセイユ
ツーロン
カンヌ
ラングドック・ルシヨン地方

第9章　南ヨーロッパ

スペイン

日本より大きな約50万km^{2}の面積を有する。人口は約4500万人。１人当たりGNIがフランスやドイツなどより低く，自動車工業が進出。公用語はスペイン語のみ。しかし，カタルーニャ語やバスク語など国内では多様な言語が使用されている。

カスティーリャ地方・・・イベリア半島中央部。半乾燥の高原メセタが広がる。毛羊種であるメリノ種の原産地。
(１　　　　　　　　)・・・首都。カスティーリャ地方の中心。国内人口最大都市であり，自動車工業などが発達している。
メセタ・・・スペイン中央部の高原。
(２　　　　　　　　)地方・・・イベリア半島北東部で独自の文化を持つ地域。マドリードの中央政府への対抗心が強く，独立の機運も高い。
(３　　　　　　　　)・・・カタルーニャ地方の中心都市。ガウディの聖家族教会やダリの美術品など独特の文化が観光客をひきつける。自動車工業。
ピレネー山脈・・・スペインとフランスの国境となる山脈。新期造山帯。
アンドラ公国・・・ピレネー山中の独立国。かつてはフランスとスペインの共同主権による保護国であったが，現在では完全に独立を果たした。公用語としてカタルーニャ語が使用されている。
(４　　　　　　　　)地方・・・ピレネー山脈西部のスペインからフランスにまたがる地域。分類不能の独自の言語を用いるバスク人が居住し，自治権拡大や独立を求める動きもみられる。ただし，宗教はカトリック(大航海時代の宣教師の多くはバスク人だったとの説もある)であり，周辺地域との宗教的対立はみられない。
ビルバオ・・・バスク地方の中心都市。付近に鉄山が位置する鉄鋼都市。
リアスバハス海岸・・・スペイン北西部ガリシア地方の海岸。鋸(のこぎり)型の海岸線で知られる(リアス海岸)。
バレンシア地方・・・オレンジの生産で名高い農業のさかんな地域。
バレンシア・・・バレンシア地方の中心都市。
アンダルシア地方・・・スペイン南部。かつてイスラム教勢力に支配されていた歴史がある。
セビリア・・・アンダルシア地方の中心都市。闘牛やフラメンコ，歌劇「カルメン」で有名。
グラナダ・・・アンダルシア地方。イスラム建築アルハンブラ宮殿が世界遺産に指定されている。
コスタデルソル・・・アンダルシア地方の海岸部。ヨーロッパ有数のリゾート地。
バレアレス諸島・・・地中海西部に浮かぶスペイン領の島。イビサ島は観光地として有名。
マリョルカ島・・・バレアレス諸島の主島。
アルマデン・・・水銀産地。
(５　　　　　　　　)・・・ジブラルタル海峡のヨーロッパ側にある軍事・軍港都市。イギリス領である。
セウタ・・・ジブラルタル海峡のアフリカ側に存在するスペインの飛び地。
カナリア諸島・・・モロッコの沖合に浮かぶスペイン領の島々。

ポルトガル

イベリア半島西部。地中海には面さないが，地中海性気候がみられる。コルクガシの栽培。

（6　　　　　　　　）・・・首都。カナリア海流の影響で夏季の気温が低く，気温年較差は10℃程度。
テージョ川・・・リスボンが面する河川。
ロカ岬・・・ユーラシア大陸最西端。

イタリア

南北格差が課題となる国。南北格差については工業や経済レベルの点で語られることが多いが，気候や農業の点でもはっきりとした差異がある。温暖湿潤気候がみられる北部では中央ヨーロッパの典型的な農業である混合農業が行われ，とくにポー川流域の沖積平野で行われる米作に特徴がある。地中海性気候の半島部は地中海式農業地域であり，果樹栽培と冬季の小麦作。農業の生産性は低く，大土地所有制も残存する。

アルプス山脈・・・アフリカプレートとユーラシアプレートがぶつかることで形成された褶曲山脈で，新期造山帯に含まれる。標高の高い部分には山岳氷河や万年雪もみられ，ホルンやカールなどさまざまな氷河地形がつくられている。主な山岳はモンブラン（アルプス山脈最高峰），マッターホルンなど。

（7　　　　　　　　　）・・・フランス国境近くに位置する「工業の三角地帯」構成都市の一つ。アルプスからの豊富な流水による水力発電によって工業が発達し，とくに現在では自動車工業の中心地となっている。山地と平野が接する地点に形成された谷口集落の代表的な例。
リヴィエラ海岸・・・モナコからジェノバへと連なる海岸線でリゾート地として有名。
ジェノバ・・・イタリア北西部の海岸に位置する「工業の三角地帯」構成都市の一つ。港湾都市として造船業などが栄えている。
（8　　　　　　　　　）・・・イタリア北部における最大都市で「工業の三角地帯」構成都市の一つ。ロンバルディア平原（パダノヴェネタ平野北部）に位置し，人口は100万人を超える。ファッション産業などがさかん。
パダノヴェネタ平野・・・ポー川によって形成された沖積平野。混合農業地帯であるが，温暖で比較的降水が多い気候（温暖湿潤気候・Cfa）を利用して，米作も行われている。
（9　　　　　　　　　）川・・・アルプス山脈に水源を発し，イタリア北部を横断する河川。流域では天然ガスも産する。
トリエステ・・・スロベニア国境に位置する都市。ドイツへと達するパイプラインの起点に当たり，原油の輸入港となっている。
（10　　　　　　　　　）・・・アドリア海に面する砂の堆積地形の上に乗る都市。市内に運河が巡らされ，美しい観光地となっている。将来的には水没の危機にあるともいわれている。
アドリア海・・・イタリア半島と旧ユーゴ地域の間の海域。
フィレンツェ・・・ルネッサンス文化が栄えた。
（11　　　　　　　　　）・・・首都。半島中部に位置。人口規模は国内最大（約300万人）。市内にバチカン市国（サンピエトロ大聖堂）やコロッセオなど，多くの世界遺産が存在し，観光客も多く訪れる。
テベレ川・・・ローマ市内を貫く河川。河口は尖状（カスプ状）三角州となっている。
ナポリ・・・半島南部に位置する港湾都市。火山を臨み，海と山との美しい景観で知られる。ただし，経済レベルは低い。
ヴェズヴィオ山・・・ナポリ近郊の火山。火山という共通項があるため，ナポリと鹿児島市は姉妹都市となっている。
（12　　　　　　　　）・・・半島南部の都市。バノーニ計画の一貫として臨海型の製鉄所がつくられた。輸入原料に依存する鉄鋼生産。
アウトストラーダデルソーレ（太陽道路）・・・半島を縦断する道路。経済レベルの低い南部地域の産業振興のために建設された。
シチリア島・・・イタリア半島の南にある島。経済レベルが低い貧困地域で，19世紀頃にさかんにアメリカ合衆国へと移民を送り出した。
サルデーニャ島・・・コルシカ島の南に位置する島。コルシカ島はフランス，サルデーニャ島はイタリア。
ティレニア海・・・イタリア半島とサルデーニャ島の間の海域。

地中海諸国

ギリシャとマルタ，キプロスはいずれもEUに加盟（ギリシャの加盟時期が早く，1981年）。観光業が発達し，西ヨーロッパから多くの人々が訪れる。

(13　　　　　　　　)・・・首都はアテネ。EU（当時EC）への加盟は比較的早く1981年。観光業と海運業が中心だが，財政は厳しく，経済は低迷。

(14　　　　　　　　)・・・EUにも加盟する観光国だが，実質的に北部と南部との２つの地域に分裂している。南キプロスはキリスト教徒のギリシャ系住民が多数を占め，北キプロスはイスラム教徒のトルコ系住民が主。

第10章　東ヨーロッパ

東ヨーロッパ

いずれも第二次世界大戦後に，ソ連の強い影響で社会主義政権が成立した国々である。1980年代後半からの自由主義の動きによって政変を経験し，現在は全ての国で自由主義経済による政権が成り立っている。
６か国からなるが，言語(民族)や宗教に特色があるので，整理しておこう。

国	言語(民族)	宗教
ポーランド	スラブ系	カトリック
チェコ		
スロバキア		
ハンガリー	ウラル系(アジア系)	
ルーマニア	ラテン系	東方正教
ブルガリア	スラブ系	

なお，頻出ではないが，１人当たりGNIや主な輸出品目もチェックしておくといい。１人当たりGNIは全体として北部で高く，南部で低い。輸出品目については，ポーランドの家具など特徴的なものもいくつかみられる。

＜ポーランド＞

世界で最も熱心なカトリック国の一つ。先々代のローマ教皇ヨハネ・パウロ２世はポーランド出身。北部の平原では混合農業が営まれる。ライ麦とジャガイモの輪作と豚の飼育。

（1　　　　　　　　）・・・首都。ビスワ(ウィスラ)川に沿う。
オーデル川・ナイセ川・・・ドイツとの国境河川。
グダニスク・・・造船業など。社会主義時代には「連帯」による労働運動。
シロンスク地方・・・石炭資源を基盤とした工業地域で鉄鋼生産が行われる。代表的な工業都市はクラクフ。
（2　　　　　　　　）・・・かつてユダヤ人の強制収容所が置かれていた。ポーランド名はオシフィエンチム。
スデーティ山脈・・・チェコとの国境山脈。古期造山帯。

＜チェコ＞

1993年にスロバキアと分離(ビロード離婚)。

（3　　　　　　　　）・・・首都。
エルツ山脈・ボヘミヤヴァルト(ベーマーヴァルト)・・・ドイツとの国境。古期造山帯。
ボヘミア盆地・・・国土中央の盆地で石炭資源が分布。ただし硫黄分を多く含む褐炭であるため，周辺地域の酸性雨の被害も大きい。
プルゼニ(ピルゼン)・・・ビール工業やガラス工業で有名。
（4　　　　　　　　）川・・・チェコに水源を発し，ドイツへと流れる。

＜スロバキア＞

チェコと連邦を構成していたが，チェコはエルベ川水系，スロバキアはドナウ川水系という違いがある。1993年に連邦解消によって独立。

ブラチスラバ・・・首都。ドナウ川に面する。ロシアからパイプライン(ドルージヴァ[友好]ライン)が通じ，石油化学工業も。

＜ハンガリー＞

周辺とは異なるアジア系の人種から構成される「人種島」。

（5　　　　　　　　）・・・首都。ドナウ川に面する双子都市。王宮を中心として発展した右岸のブダ市と商業都市として発展した左岸のペスト市が一つになった。
ハンガリー盆地・・・かつての大陸氷河の外縁部に当たり，氷河堆積物が風によって周辺地域に散布された肥沃な土壌レスが分布する。小麦やトウモロコシの栽培。
（6　　　　　　　　）・・・温帯草原。牛の放牧などが行われる。

<ルーマニア>

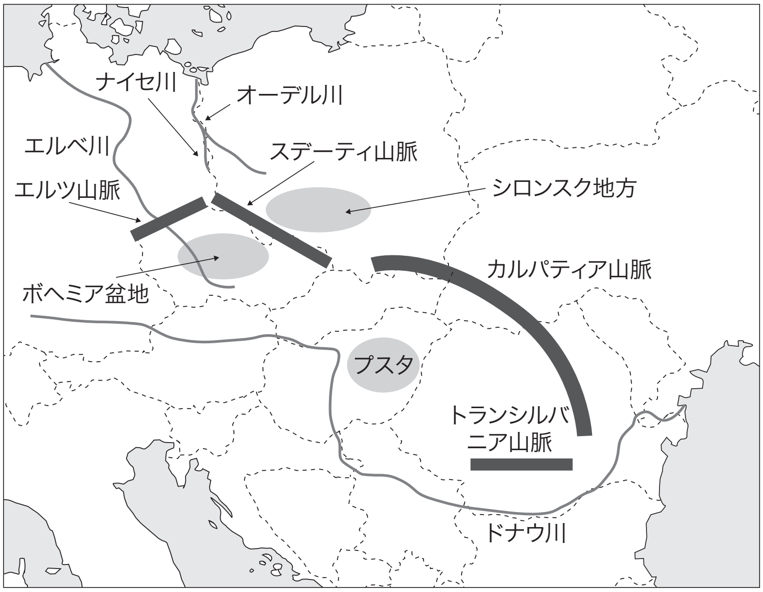
ラテン系民族からなる「民族島」。

（7　　　　　　　　）・・・首都。
（8　　　　　　　　）山脈･･･ポーランド南部からルーマニアに達する新期造山帯の山脈。ヨーロッパの山脈は全体的に「北部が古期造山帯，南部が新期造山帯」だが，その新期造山帯のうち最も北部に位置するのがこの山脈。やや弓なりの形状をしているので，地図でしっかり確認しておこう。
トランシルバニア山脈・・・国土南部の山脈。新期造山帯。
プロエシュチ油田・・・トランシルバニア山脈南麓の油田。

<ブルガリア>

バラとヨーグルトの生産で名高い。

（9　　　　　　　　）・・・首都。



旧ユーゴスラビア

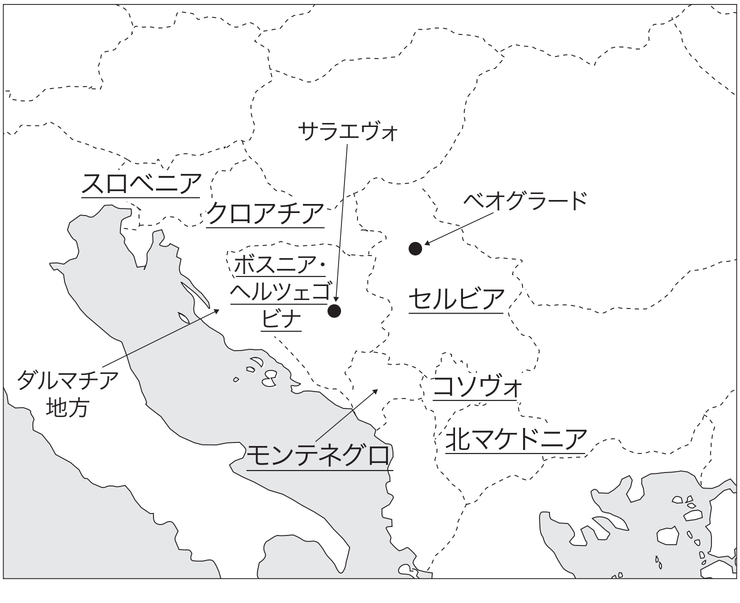
６つの共和国から構成される連邦国家だったのが，かつてのユーゴスラビア。チトー大統領の死後，1990年代初頭に５つに分裂し，さらに2006年にはモンテネグロも分離独立。その後，セルビア内の自治州だったコソヴォも2008年に独立。

（10　　　　　　　　）・・・首都リュブリャナ。宗教はカトリック。カルスト地方には独特の石灰岩地形。

(11　　　　　　　　　)・・・首都ザグレブ。宗教はカトリック。アドリア海に沿ってダルマティア式海岸。多くの細長い島が海岸線に並行。沿岸部の都市ドブロブニクは観光客を集める。
(12　　　　　　　　　)・・・首都サラエヴォ(冬季オリンピック開催地)。ボシュニャク人はイスラム教徒，クロアチア系住民はカトリック教徒，セルビア系住民は東方正教徒。1990年代前半に激しい内戦が生じる。
(13　　　　　　　　　)・・・首都ベオグラードは連邦時代の首都でもあり，ドナウ川に面する。宗教は東方正教。
(14　　　　　　　　　)・・・首都プリシュティナ。アルバニア系住民。宗教はイスラム教。セルビア政府より弾圧を受け内戦が勃発，多くの難民がアルバニアへと流出した。NATOの介入などで内戦は終息し，2008年に独立が承認される(国連未加盟)。
モンテネグロ・・・首都ポドゴリツァ。宗教は東方正教。2006年にセルビアと連邦解消。
北マケドニア・・・首都スコピエ。宗教は東方正教。国名を巡ってギリシャと対立(ギリシャ国内のマケドニア地方との混用)。

(参考) 旧ユーゴスラビアの言語(民族)と宗教について整理しておこう。複雑な宗教構成をみせるボスニア・ヘルツェゴビナに注目。

国	言語(民族)	宗教
スロベニア	スラブ系	カトリック
クロアチア		
ボスニア・ヘルツェゴビナ		イスラム教・カトリック・東方正教
セルビア		東方正教
モンテネグロ		
北マケドニア		
コソヴォ	アルバニア系	イスラム教



第 11 章　ロシアと周辺諸国

バルト３国

バルト海に面する。いずれもEUおよびNATOに加盟。地域の最大都市はリガ。バルト海交易の中心地として栄えた。

（1　　　　　　　　　）・・・首都タリン。アジア系の言語が用いられ，住民はプロテスタント。フィンランドとの関係性が強い。
（2　　　　　　　　　）・・・首都リガ（バルト３国中最大の都市）。バルト系の言語で，住民はプロテスタント。中世のバルト海交易によって，ドイツ北部の諸都市との交流がさかんだった。
（3　　　　　　　　　）・・・首都ビリニュス。バルト系の言語で，住民はカトリック。ポーランドに支配されていた歴史がある。

東ヨーロッパ平原の国々

ベラルーシ，ウクライナ，モルドバの３か国。いずれも東方正教が信仰され，ベラルーシとウクライナがスラブ系，モルドバがラテン系の民族。ベラルーシでは混合農業でジャガイモの栽培や豚の飼育。ウクライナは企業的穀物農業で小麦が栽培される他，トウモロコシやヒマワリも。モルドバはブドウ栽培で名高い。

＜ベラルーシ＞

ウクライナの北に接する。ウクライナのチェルノブイリ原発の風下（偏西風帯に位置するので，北東側ということ）に当たる地域では，放射能汚染の被害が深刻。

（4　　　　　　　　　）・・・首都。CIS（独立国家共同体。旧ソ連の構成国の多くからなる）の本部が置かれる。

＜ウクライナ＞

人口は4000万人を超え，旧ソ連ではロシアに次ぐ。ロシアの影響が未だ強く，国内は混乱状態にある。肥沃なチェルノーゼムに恵まれ，小麦やトウモロコシ，ヒマワリ（世界１位）の栽培。

（5　　　　　　　　　）・・・首都。ドニエプル川に面する古都。
クリミア半島・・・ロシア系住民が多く，ロシアへの帰属を求める動きも。
（6　　　　　　　　　）・・・旧ソ連最大の鉄山であるクリヴォイログ鉄山に近接。鉄鋼業が立地。国土中央部に位置。
ドニエツク（ドネツク）・・・旧ソ連最大の炭田であるドネツ炭田に近接。鉄鋼業が立地。国土東部に位置。
ドニエプル工業地域・・・鉄鋼業が発達。主な工業都市はクリヴォイログ，ドニエプロペトロフスク，ドニエツク。

オデッサ・・・黒海に面する。保養都市であると同時に，軍港を持つ軍事都市でもある。
チェルノブイリ・・・1980年代に原子力発電所の事故があった。放射能汚染が深刻。

ザカフカス諸国

「ザカフカス」とはカフカス山脈の外側の意味。カフカス地域は複雑な地形に東西文化の結節点という地政学的条件が重なり，多様な文化がみられる地域となっている。民族構成や宗教に多様性がみられる他，いずれも歴史的に複雑な背景を持つ。

（7　　　　　　　　）・・・カフカス系民族・キリスト教（ジョージア正教）。茶やブドウの栽培。
エルブルース（エリブルース）山・・・カフカス山脈の火山。標高約5500mでヨーロッパ最高峰。
アルメニア・・・インド・ヨーロッパ系民族・キリスト教（アルメニア正教）。
（8　　　　　　　　）・・・トルコ系民族・イスラム教。ただし多数派のスンナ派ではなくシーア派。首都バクー。バクー油田はかつて世界最大の産油量を誇った。アルメニア南部にも国土を有する飛び地国。

ロシア

1917年のロシア革命後に成立したソビエト社会主義共和国連邦（ソ連）は，やがて構成国を15か国にまで拡大し，1980年代まで続く冷戦の時代にはアメリカ合衆国と覇権を争った。しかし，1980年代後半からのペレストロイカ（改革）やグラスノスチ（情報公開）により社会主義政権の屋台骨がゆらぎ，1991年に崩壊。ロシアをはじめとする15の共和国へと分離した。

＜ヨーロッパロシア＞

ウラル山脈以西の地域。大規模な構造平野が広がる(ロシア平原)。ヴォルガ川を中心とした運河が発達し，白海から黒海まで船舶が航行できる。ヴォルガ・ウラル油田は原油資源が豊富で，パイプラインによって西ヨーロッパへと原油が輸出されている。

（9　　　　　　　　　）・・・首都。「赤の広場」を中心とした放射環状路型の街路を持つ。人口規模は大きく，消費材工業がさかん(ロシア最大の工業都市でもある)。
(10　　　　　　　　　)・・・帝政ロシア時代の都。「ヨーロッパの窓」として西ヨーロッパ地域との交流がさかんだった。エルミタージュ美術館は有名。ソ連時代はレニングラードとよばれた。造船業が発達。
ムルマンスク・・・コラ半島の不凍港。バレンツ海(北極海)に面する軍港。
アルハンゲリスク・・・白海に面する港湾。こちらは凍結する。製材業など。
ニジニノブゴロド・・・自動車工業。旧名ゴーリキー。
(11　　　　　　　　　)川・・・流長はウラル以西のヨーロッパにおいて最長。内陸湖であるカスピ海に注ぐ内陸河川。いくつもの運河が建設されており，カスピ海，黒海，モスクワ，白海，バルト海はこの河川を軸としてつながっている。水力発電がさかんで，沿岸のヴォルゴグラードではアルミニウム工業もさかん。
ヴォルガ・ドン運河・・・ヴォルガ川とドン川をつなぐ運河。ソ連時代の自然改造計画による大規模プロジェクトにより建設。ただしドン川の側とヴォルガ川の側とで高度差があるため，ドン川からヴォルガ川へと水が流れ込み，カスピ海の湖面上昇という環境問題が生じている。
ヴォルガ・ウラル油田・・・ヴォルガ川からウラル山脈にかけての油田。第２バクー油田とも。サマーラなどで石油化学工業が成立する他，ドルージヴァ(友好)パイプラインによって東欧へと原油が供給されている。
(12　　　　　　　　　)共和国・・・ロシア連邦を構成する共和国の一つ。カフカス山麓に位置し，イスラム教徒が多いことから，分離独立を求める運動がさかん。時に過激なテロ活動に発展することも。

(参考)ロシアの産業・生活に関するキーワード
コンビナート・・・資源の産出などに特徴のある複数の地域を連結させることによって成立した工業地域。マグニトゴルスクの鉄鉱石と，クズネツクの石炭など。
コンプレックス・・・コンビナートの発展形。それぞれの地域において独立した工業地域を形成。
ダーチャ・・・郊外の別荘。農園を有することが多い。ロシア人の多くは週末はダーチャで過ごすことが多い。

＜シベリア＞

ロシアのウラル山脈以東の地域。おおよそ全域が１月平均気温－20℃未満の地域に含まれ，広い範囲に永久凍土層が分布する。気候は主に冷帯気候（東部は冷帯湿潤気候，西部は冷帯冬季少雨気候）で針葉樹林（タイガ）に覆われる。北極海沿岸はツンドラ気候で非農業地域。

（13　　　　　　　　　　）山脈・・・ヨーロッパロシアとシベリアを分ける巨大な山脈。古期造山帯ではあるが，鉄鉱石資源が豊富（マグニトゴルスク鉄山）。ほぼ東経60度の経線に沿っている。

マグニトゴルスク・・・ウラル山中の鉄山付近に成立した鉄鋼都市。

オビ川・・・シベリア西部を北流する河川。流域にはガス田や油田。

（14　　　　　　　　）油田・・・オビ川流域の西シベリア低地に位置する油田。第３バクー油田ともよばれる。

（15　　　　　　　　）鉄道・・・シベリア地域の開発（鉱産資源など）や東方への勢力拡大のために建設された鉄道で，日本海に臨むウラジオストクまで達する。1904年に完成し，日露戦争時には兵員などの輸送のために用いられた。開通当時はウラル山中のチェリャビンスクを起点としていたが，現在のルート（モスクワ～ウラジオストク）はチェリャビンスクを通過していない。

クズネツク炭田・・・クズネツク工業地域の中心となる炭田。

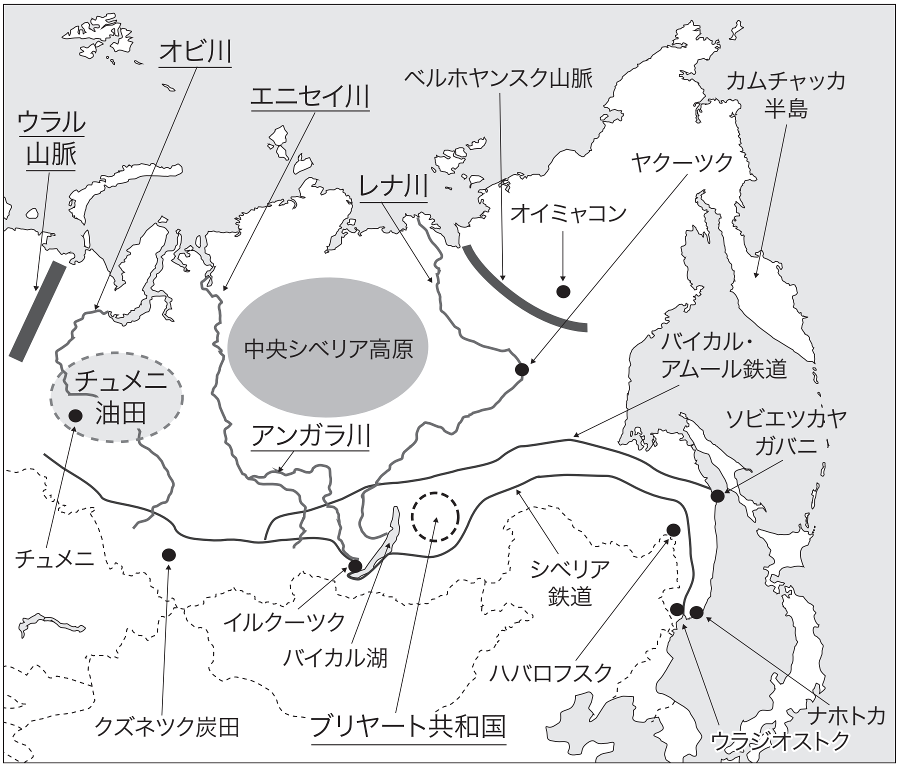
エニセイ川・・・シベリア中央部を北流する河川。水力発電がさかん。

アンガラ川・・・バイカル湖から流出する河川でエニセイ川の支流。水力発電がさかん。

中央シベリア高原・・・アンガラランドともいう。古い地質年代に形成された卓状地（安定陸塊）。この西端に沿ってエニセイ川が流れる。

（16　　　　　　　　）湖・・・断層湖。世界で最も深い湖。豊かな水量を生かした水力発電がさかんで，周辺ではアルミニウムの精錬が行われている。非常に高い透明度を誇るが，近年は製紙工業の廃水が流れ込むことで汚染も進んだ（この製紙工場は現在は閉鎖）。

(17　　　　　　　　　)・・・バイカル湖の南部に接する。シベリア鉄道の重要な中継地点であると同時に，アンガラ・バイカル工業地域の中心都市として製材業やアルミニウム工業が発達している。最暖月平均気温約20℃，最寒月平均気温－20℃であり，典型的な大陸性気候。シベリア高気圧の影響で冬季はほとんど降水がなく，冷帯冬季少雨気候(Dw)となる。
ブリヤート共和国・・・バイカル湖に接する。ロシア系が多数だが，少数民族のブリヤート人も居住し，彼らはモンゴル系の仏教徒である。
レナ川・・・シベリア東部を北流する河川。流域の炭田開発が進む。
ベルホヤンスク山脈・・・レナ川の東に沿う。新期造山帯。
ヤクーツク・・・サハ共和国(極東連邦管区)の首都。レナ川中流に位置し，少数民族ヤクート人が居住。
(18　　　　　　　　　)・・・「北半球の寒極」。最寒月の平均気温は－50℃近くに達する。おおよそ東経140度(日本の真北)という位置も知っておくといい。
ハバロフスク・・・アムール川に接する都市。航空交通の拠点。サハリン(樺太)のオハ油田からパイプラインが通じ，石油精製業など。
アムール川・・・中国との国境河川。オホーツク海に注ぐ。
バイカル・アムール鉄道・・・1980年代に建設された新たな鉄道。第2シベリア鉄道，バム鉄道ともよばれる。バイカル湖の北側を通り，ソビエツカヤガバニへ通じる。
ナホトカ・・・日本海に面する港湾都市。新潟と定期航路(現在は休止中)。
(19　　　　　　　　　)・・・日本海に面する港湾都市。軍港を備えた軍事都市でもある。造船などがさかん。名称の由来は「東方(日本)を征服せよ」。
カムチャッカ半島・・・オホーツク海とベーリング海を分ける半島。新期造山帯で火山もみられる。沿岸には千島・カムチャッカ海溝。



(参考) 旧ソ連15か国について，特徴を整理しておこう。イスラム教を主に信仰する国が６つあることをぜひ知っておくこと。

国家群	国名	言語（民族）系統	宗教
バルト３国	エストニア	ウラル系（アジア系）	プロテスタント
	ラトビア	バルト系（ヨーロッパ系）	
	リトアニア		カトリック
東ヨーロッパ平原の国々	ロシア	スラブ系（ヨーロッパ系）	東方正教（それぞれの民族宗教と結びつく）
	ベラルーシ		
	ウクライナ		
	モルドバ	ラテン系（ヨーロッパ系）	
ザカフカス	ジョージア	カフカス系	ジョージア正教
	アルメニア	アルメニア系	アルメニア正教
	アゼルバイジャン	トルコ系（アジア系）	イスラム教（シーア派）
中央アジア	カザフスタン		イスラム教（スンナ派）
	ウズベキスタン		
	トルクメニスタン		
	キルギス		
	タジキスタン	イラン系（ヨーロッパ系）	

第12章　北アメリカ（1）

カナダ

日本の約26倍の面積を持つものの，人口は4000万人弱。
多文化主義を標榜する国で，英語とフランス語が公用語となっている他，北極海に面した地域ではイヌイットの自治も行われている。

＜東部＞

代表的な州はフランス語圏のケベック州と人口最大のオンタリオ州。かつて広い範囲が大陸氷河によって覆われ地力に乏しい。冷帯気候であり広く針葉樹の純林となっているが，南部では落葉広葉樹であるカエデが有名。国旗にも描かれ，樹液が採取されシロップに加工される。五大湖周辺は酪農地帯となっている。

ニューファンドランド・ラブラドル州・・・漁業のさかんなニューファンドランド島と対岸のラブラドル半島を中心とする。
セントジョンズ・・・ニューファンドランド・ラブラドル州都。水産都市。
グランドバンク・・・ニューファンドランド島沿岸に存在するバンク（浅堆）。
サンピエールバンク・・・グランドバンクの西にあるバンク。近隣のサンピエール島やミクロン島は現在でもフランス領である。

プリンスエドワードアイランド州・・・「赤毛のアン」の舞台になったことで有名。
ノバスコシア州・・・ノバスコシア半島が中心。州都はハリファクス。
ハリファクス・・・軍港がある軍事都市。暖流の影響で冬季も比較的温暖。
(1　　　　　　　　　　)州・・・フランス系住民が多数。フランス語・カトリック地域。
ラブラドル半島・・・カナダ北東部の巨大な半島。
シェファーヴィル・・・ラブラドル半島の鉄山。
カナダ楯状地・・・ハドソン湾を囲む一帯は安定陸塊の楯状地である。別名ローレンシア楯状地。
(2　　　　　　　　　　)川・・・五大湖から大西洋に注ぐ河川。大型船舶が航行できるよう拡張工事がなされたので，セントローレンス水路，セントローレンス運河ということもある。水位を調整する閘門が設けられており，船舶が五大湖まで遡航する。
ケベック・・・ケベック州の州都。セントローレンス川のエスチュアリーの奥に位置する。
(3　　　　　　　　　　)・・・国内人口2位の都市。かつてはこの地でセントローレンス川の川幅が狭くなるため，外洋から遡航してきた大型船によって運ばれた貨物が，より小さな船舶に積みかえられていたために，内陸水運の重要な結節点であった。ただしセントローレンス川が拡張され水路として整備されたことにより，大型船舶が直接五大湖まで遡航することが可能となったため，近年この都市の重要性は低下している。
オンタリオ州・・・カナダの中心的な州。人口規模も大きい。ケベック州とは異なりイギリス系住民が主。
(4　　　　　　　　　　)・・・首都。オンタリオ州に含まれるが，ケベック州にも隣接しており，英語文化圏とフランス語文化圏の境界に位置する。人口規模は小さいものの，ワシントンD.C.やブラジリア，キャンベラなどとは異なり計画的に建設された政治都市ではない。
サドバリー・・・ヒューロン湖の北に位置する銅・ニッケル鉱山(カナダは世界的なニッケル鉱産出国)。
(5　　　　　　　　　　)・・・オンタリオ湖岸の都市。国内人口1位(都市圏人口約600万人。オンタリオ州の州都であり，自動車工業がとくにさかんな工業都市でもある。アメリカ合衆国から自動車工業が進出。
ハミルトン・・・鉄鋼業。
ウィンザー・・・デトロイト(アメリカ合衆国)に隣接する都市。自動車工業がさかん。
スーセントメリー運河・・・スペリオル湖とヒューロン湖との間の運河。
ナイアガラの滝・・・アメリカ合衆国とカナダの国境にある巨大な滝。エリー湖とオンタリオ湖の間。
ウェランド運河・・・エリー湖とオンタリオ湖をつなぐ運河。

＜中部（平原地帯）＞

アルバータ・サスカチュワン・マニトバの３州。平原三州ともよばれ，春小麦の栽培がさかんである。

マニトバ州・・・平原三州の一つで最も東に位置する。
（６　　　　　　　　　）・・・北アメリカ大陸のほぼ中央部（北緯50度，西経100度のやや東側）に位置し，典型的な大陸性気候がみられる。最暖月平均気温約20℃，最寒月平均気温約－20℃，そして気温年較差は40℃と覚えておくといい。マニトバ州の州都であり，春小麦の集散地。
サスカチュワン州・・・平原三州の一つで中央に位置する。小麦の他，大麦の生産も多い。
ウラニウムシティ・・・サスカチュワン州北部，ウラン鉱山の都市。カナダは世界有数のウラン産出国で原子力発電も行われる。
アサバスカ地方・・・サスカチュワン州北部，アサバスカ湖周辺の地域。タールサンド（油砂。原油成分を含んだ土砂）が豊富で採掘が進められている。
アルバータ州・・・平原三州の一つで西に位置する。
（７　　　　　　　　　）・・・アルバータ州中部の都市。付近で原油が採掘される。

カルガリー・・・アルバータ州南部の都市。付近で原油が採掘される。1988年に冬季オリンピックが開催された。

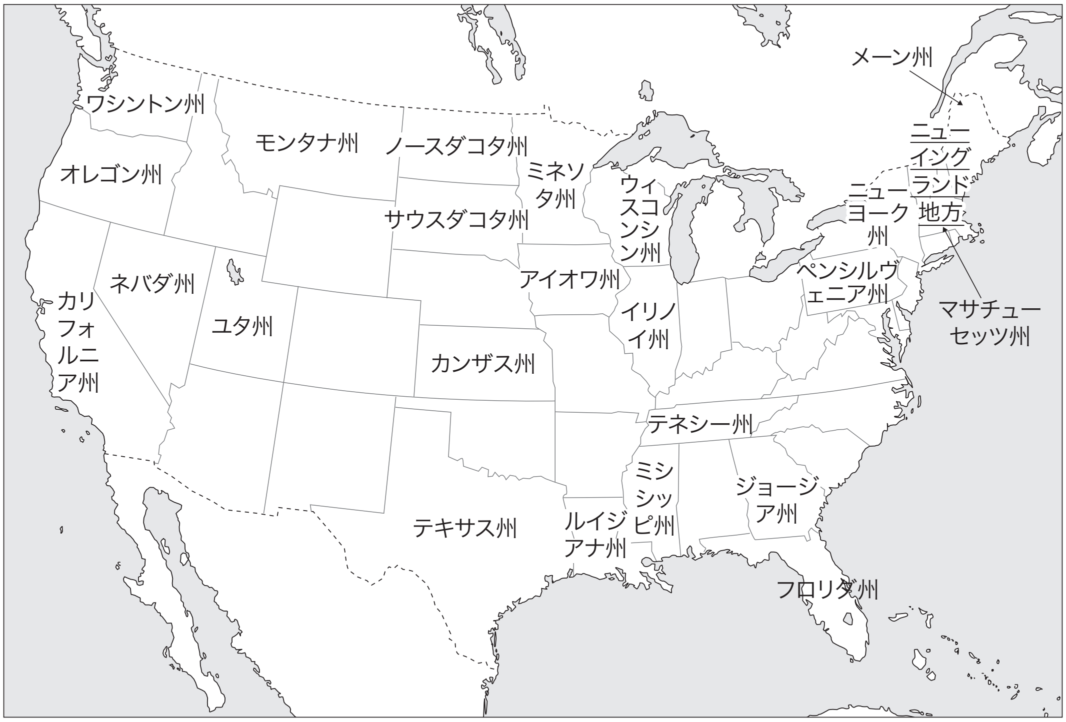
＜太平洋岸・北部＞

ブリティッシュコロンビア州など。暖流であるアラスカ海流の影響で，沿岸部では温帯気候がみられる。森林資源が豊富で，木材はアメリカ合衆国や日本へと輸出されている。

ブリティッシュコロンビア州・・・カナダの太平洋岸に位置する州。沿岸部ではアラスカ海流の影響を受けて温暖な気候がみられる。最南部のヴァンクーヴァーで地中海性気候，それより北のアラスカ州に至る太平洋沿岸では西岸海洋性気候。針葉樹に覆われ，木材生産のさかんな州。
（8　　　　　　　　）・・・ブリティッシュコロンビア州の主要都市。カナダの大陸横断鉄道の太平洋側の起点として，交通の要衝である。木材の積み出し港として重要。地中海性気候(Cs)。
ヴァンクーヴァー島・・・太平洋岸の島。ブリティッシュコロンビア州都ヴィクトリアが位置している。
プリンスルパート・・・ブリティッシュコロンビア州。サケやマスの漁獲。
フレーザー川・・・ヴァンクーヴァーに河口を持つ河川。サケの遡上で有名。
グレートベア湖・グレートスレーブ湖・・・氷河湖。
（9　　　　　　）準州・・・1999年にノースウェスト準州から分離するかたちで成立。イヌイットによる自治。

アメリカ合衆国(東半部)

人口，面積ともに世界3位の大国。経済規模は極めて大きく，GNIは世界全体の約4分の1を占めている。初期に開発された北東部と，第二次世界大戦後に発展し始めたサンベルト(北緯37度以南の地域)や太平洋岸地域との対比が重要。人口や産業が，北東部からサンベルト・太平洋岸へと移動している。ヒスパニックとよばれるメキシコ･カリブ海地域からの移民も，サンベルトには多い。



＜大西洋岸メガロポリス＞

独立当時の13州に含まれる地域。ボストンからワシントンD.C.に至るメガロポリスは人口稠密地帯であり，世界経済の中枢。先端産業のボストンや鉄鋼業のボルチモアなど，各種工業が発達する。農業は園芸農業が主。

ニューイングランド地方･･･北東部のハドソン川以東の地域。メーン州･ニューハンプシャー州・バーモント州・マサチューセッツ州などが該当する。イングランドから迫害を逃れた清教徒たちが上陸し，国内で最も古い伝統を持つ地域である。
メーン州・・・北東端の州。やせた土地が広がり，農業はあまりさかんではない。
マサチューセッツ州・・・ニューイングランド地方を代表する州。州都はボストン。
(10　　　　　　　　　)・・・マサチューセッツ州都。ハーバードなど名門大学も多い学術都市である。古くは毛織物など繊維工業が発達したが，現在はハイテク産業。研究施設や先端産業の工場などが集積する「エレクトロニクス・ハイウェー」。
コッド岬・・・砂嘴の代表的な例。

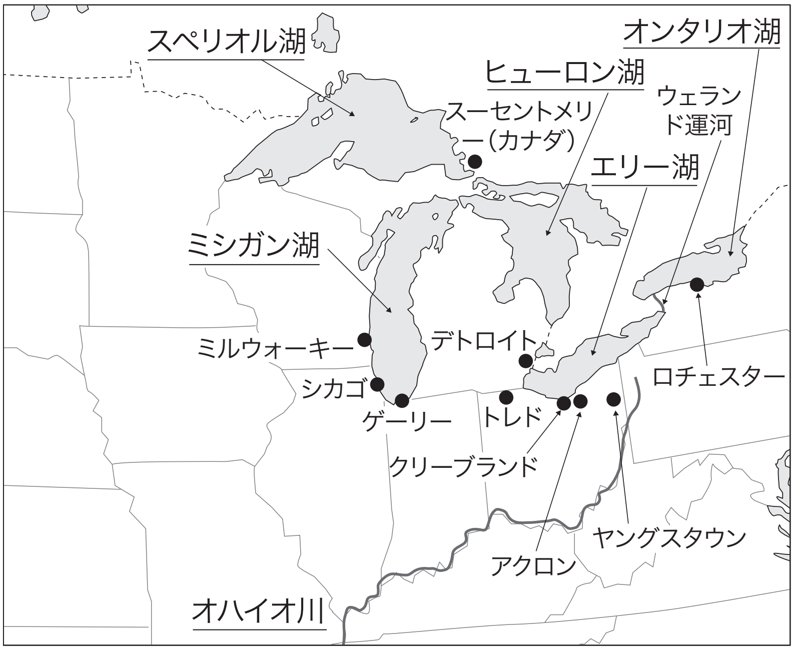
ハドソン川・・・ニューヨーク州を流れる川。河口にニューヨーク。
オールバニ・・・ニューヨーク州都。ハドソン川中流に位置し，ニューヨークステートバージ運河の結節点となっている。
ニューヨークステートバージ運河・・・エリー湖とハドソン川を結ぶ運河。これによって五大湖方面と大西洋との内陸水運が整備された。別名はエリー運河。
バッファロー・・・ニューヨーク州北西部，エリー湖岸の都市。ニューヨークステートバージ運河の五大湖側の起点。
(11　　　　　　　　　)・・・ハドソン川河口のマンハッタン島を中心に成立した港湾都市であり，国内最大の人口規模を誇るだけでなく，世界の経済・文化の中心。国際連合の本部も置かれるなど国際政治における重要性も高い。最初にこの地を訪れたオランダ人がアメリカ先住民からハドソン河口の土地を買い取り，集落を建設したことが起源であり，最初の名前はニューアムステルダム。
マンハッタン島・・・ハドソン川河口に浮かぶ島。
ウォール街・・・マンハッタン島に位置。世界金融の中心。
フィラデルフィア・・・ペンシルヴェニア州。メガロポリスを構成する巨大都市の一つ。北緯40度の緯線に沿う。1776年に独立宣言が発された場所として有名。一時期，首都だったこともある。
(12　　　　　　　　　)・・・ペンシルヴェニア州。アパラチア炭田を基礎とした鉄鋼都市だが，1970年代より不況に陥る。近年は製鉄所跡を再開発し，バイオテクノロジーなど先端産業の誘致につとめる。
ボルチモア・・・メリーランド州。メガロポリスを構成する巨大都市の一つ。港湾として発展した都市で，造船業の他，郊外のスパローズポイント地区では鉄鋼業がさかん。
スパローズポイント・・・ボルチモアの郊外で，最新鋭の臨海型銑鋼一貫工場が建設された。輸入鉄鉱石による鉄鋼業。
チェサピーク湾・・・溺れ谷の代表的な例。深い入り江でカキの養殖が行われている。湾奥にはボルチモアなどが位置。
(13　　　　　　　　　)・・・連邦首都でどの州にも属していない。D.C.とはコロンビア特別区という意味。放射直交路型の街路を持つ特殊な形状で計画的に建設された政治都市。
リッチモンド・・・ヴァージニア州。南北戦争時には南軍の首都が置かれていた。現在は綿工業などが栄えている。滝線都市の一つとみなされることもある。

<五大湖周辺>

いわゆる「古いアメリカ」。冷帯気候に含まれ(五大湖は冬季凍結),「スノーベルト」,「フロストベルト」とも称される。また製造業の衰退により「ラストベルト」とも(「ラスト」は鉄サビ)。経済は停滞し，人口は減少している。

ロチェスター・・・カメラのフィルム。コダック本社がある.
ウェランド運河・・・オンタリオ湖とエリー湖を結ぶ。ナイアガラの滝に平行する。
エリー湖・・・北米五大湖のうち下流側から２番目に位置する。湖畔に工業都市が多く，水質汚濁が問題となっている。下流のオンタリオ湖との間にはナイアガラの滝。ケスタ地形がみられ，段差が多い地形となっている。
クリーブランド・・・オハイオ州。中間立地型(メサビ鉄山とアパラチア炭田の中間)の鉄鋼都市。エリー湖に面する。
アクロン・・・化学工業(合成ゴム・タイヤ。グッドイヤー本社がある)。
ヤングスタウン・・・鉄鋼業。
オハイオ川・・・オハイオ・インディアナ・イリノイ各州の南側の州境。ミシシッピ川の支流。
トレド・・・ガラス工業。自動車工業都市デトロイト市をアクロンやトレドのように部品などをつくる関連工場の多い都市が取り囲む。

(14　　　　　　　　　)・・・ミシガン州。ヒューロン湖とエリー湖の間に位置。世界最大の自動車工業都市として，国内三大メーカー(GM・クライスラー・フォード)の本社も置かれている。20世紀初頭に労働力として流入した黒人の人口割合がとくに高い都市でもある。
スーセントメリー運河・・・ヒューロン湖とスペリオル湖を結ぶ。スーセントメリーはカナダの都市名。
ゲーリー・・・ミシガン湖頭に位置する鉄鋼都市。
(15　　　　　　　　　)・・・イリノイ州。ミシガン湖頭に位置し，鉄鋼・機械など各種重工業に加え，とくに農産物加工に特徴がある。世界最大の穀物市場が置かれ，周辺からもたらされるさまざまな農畜産物が取り扱われる集散地となっている。人口規模は国内３位。かつては２位であったが，ロサンゼルスの高い人口増加率によって，現在は３位に後退。気候は冷帯湿潤気候(Df)。最寒月の平均気温が－５℃程度であり，札幌やペキン，モスクワに近い。
ウィスコンシン州・・・ミシガン湖の西岸に接する。酪農がさかんで，乳製品の生産が多い。
ミルウォーキー・・・ウィスコンシン州。ビールの町。



<テネシー・南部・フロリダ・テキサス>

アメリカ合衆国の「南部」は南東部。アフリカ系の人口割合が高く，差別意識も一部には残っている。ただし，近年はサンベルトの一部として先端産業の集積もみられる。豊富な労働力と温暖な気候，豊かな資源に恵まれた地域。

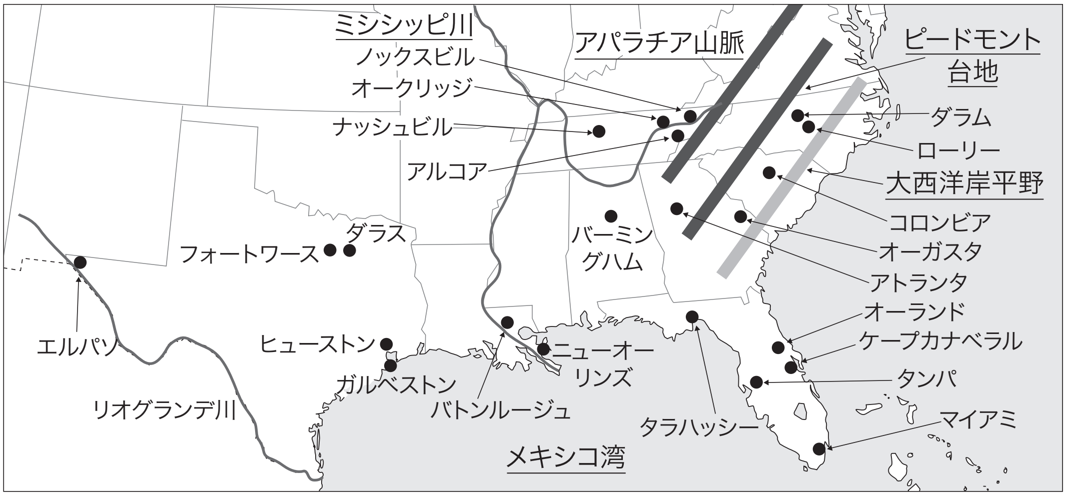
ダラム・ローリー・・・ともにノースカロライナ州。タバコの集散地として発展してきたが，近年はハイテク産業の立地もみられ，同州のチャペルヒルと合わせ「リサーチトライアングルパーク」と総称されることも。
コロンビア・・・サウスカロライナ州。滝線都市。
オーガスタ・・・ジョージア州。滝線都市。

大西洋岸平野・・・ピードモント台地と大西洋の間に挟まれた帯状に広がる平野。かつては浅い海底だったが，隆起によって陸化した。遠浅の砂浜海岸が連続し，あまり港湾は発達していない。
ピードモント台地・・・アパラチア山脈の東麓に広がる台地。大西洋岸平野との境に多くの滝線都市がみられる。平野と台地との間に水車が設けられ，動力源として利用された。船舶は台地の麓まで遡ることができた。
(16　　　　　　　　　)山脈・・・東部の丘陵性の山脈。古期造山帯であり，石炭資源が豊富。侵食が進んだ地形輪廻の老年期の段階。
テネシー州・・・アパラチア山脈南部の内陸州。陸の孤島であったが，世界恐慌後に実施されたニューディール政策の一環として大規模な公共事業が行われ，工業地域へと変貌した。テネシー川にいくつもの多目的ダムが建設され，発電・工業用水の確保などに利用。
テネシー川・・・アパラチア山脈に水源を発し，ミシシッピ川に注ぐ。
アルコア・ノックスビル・・・アルミニウム精錬。
オークリッジ・・・原子力産業。第二次世界大戦時の原爆開発など。
ナッシュビル・・・テネシー州都。カントリーミュージックなどがさかん。
ジョージア州・・・南部を代表する州。現在の南部はかつてほど綿花栽培がさかんではないが，しかしジョージア州は全米２位の綿花生産量を誇る(１位はテキサス州)。
(17　　　　　　　　　)・・・ジョージア州の人口最大都市にして州都。コカ・コーラの本社があり食品工業がさかん。「風と共に去りぬ」，キング牧師の公民権運動などの舞台。ピードモント台地上に位置している。
バーミングハム・・・アラバマ州。鉄山炭田立地型鉄鋼業。
ミシシッピ州・・・ミシシッピ川下流東部に位置する。黒人の人口割合がとくに高い州である。
(18　　　　　　　　　)州・・・ミシシッピ川河口を含む州。フランス国王ルイ14世にちなむ州名である。黒人の人口割合が高い。州都バトンルージュ。主要都市ニューオーリンズ。なお，ルイジアナ州の形は「Ｌ」に似て独特であるので，覚えておくといいだろう。
バトンルージュ・・・ルイジアナ州都。
(19　　　　　　　　　)・・・旧名ヌーヴェルオルレアン。フランス人によってミシシッピ河口に建設された港湾に起源を持つ。かつては綿花の積み出し港として栄えたが，現在は石油精製業などが発達している。黒人文化が顕著にみられる都市であり，ジャズ音楽発祥の地といわれている。街頭をブラスバンドが行進するディキシーランドジャズはこの街の重要な観光資源。
フロリダ州・・・メキシコ湾に突き出したフロリダ半島を中心とする州。カリブ海諸国などからの移民や，米国北部からの引退者などが多く，人口増加率も高い。
タラハッシー・・・フロリダ州都。
オーランド・・・ディズニーワールドがある。エレクトロニクスベルトというハイテク産業地域を構成する一都市でもある。
タンパ・・・フロリダ半島西岸の海岸保養都市。オーランド同様エレクトロニクスベルトの一都市。
ケープカナベラル・・・ケネディ宇宙センターが位置。宇宙ロケットの発射基地。
(20　　　　　　　　　)・・・フロリダ半島南東端の海岸保養都市。世界的なリゾート地である。ハイテク産業もさかんでシリコンコーストともよばれる。米国本土で唯一，熱帯モンスーン気候(Am)がみられるところ。

(21　　　　　　　　　　)州・・・面積はアラスカ州に次ぐ２位，人口はカリフォルニア州に次ぐ２位。肉牛の飼育頭数，綿花生産量，それぞれ全米１位。やや乾燥した気候がみられ，センターピボット農法による灌漑農業が行われる。
メキシコ湾岸油田・・・国内最大規模の油田。天然ガスも産する。テキサスではこの他に北部オクラホマ州との境界付近にも油田・ガス田がある。
ダラス・・・テキサス州中央部に位置する。航空機工業はじめ各種工業が栄える。シリコンプレーンともよばれる。
フォートワース・・・ダラスに隣接する。空港が立地し，航空機工業もさかん。周辺はシリコンプレーン。
(22　　　　　　　　　　)・・・テキサス州南部に位置する。付近で産出する原油を利用した石油化学工業がさかん。NASA宇宙センターが位置する宇宙産業の中心地ともなっている。
ガルベストン・・・ヒューストンの外港都市。
エルパソ・・・テキサス州西南部に位置するメキシコ国境の都市。エルパソに隣接するメキシコ側の都市シウダーファレスも知っておきたい。
(23　　　　　　　　　　)川・・・アメリカ合衆国とメキシコの国境河川。流路がしばしば変化するため両国の間で国境を巡り争いが起きた歴史もある。メキシコからこの川を泳いでアメリカ合衆国へと入る不法移民が後を絶たず，彼らは「ウェットバック（ぬれた背中）」とよばれる。

(参考)アメリカ合衆国の石炭資源・・・アメリカ合衆国は世界５位の石炭産出量を誇り，自給率は高い。炭田では，アパラチア炭田が重要であり，この他にイリノイ炭田などもある。州別でみると，ワイオミング州・ウエストヴァージニア州・ケンタッキー州・ペンシルヴェニア州・イリノイ州などで産出が多い。

(参考) 滝線都市・・・アパラチア山脈の東に続くピードモント台地の麓に位置する都市群。海岸平野（大西洋岸平野）に接し，河川の遡航限界地点に位置。滝や急流を利用した動力が得られ，綿工業が成立した歴史がある。サバナ川の遡航限界であるオーガスタが典型的な例であるが，リッチモンドも滝線都市に含めることが多い。



第13章　北アメリカ（2）

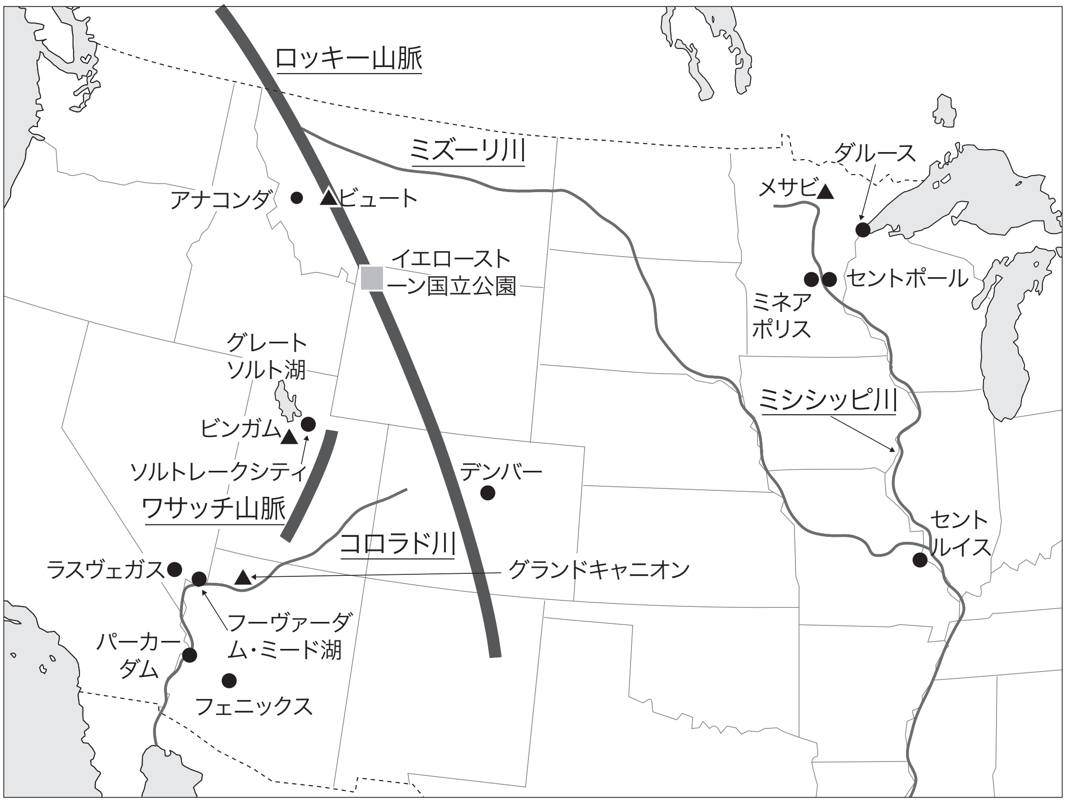
アメリカ合衆国(西半部)

<プレーリーからロッキーへ>

アパラチア山脈から西に向けて，ミシシッピ川沿いの中央平原，温帯草原のプレーリー，大平原であるグレートプレーンズ，険しいロッキー山脈へと地形は連なる。とくにアメリカ合衆国の中央部を縦断する，年降水量500mmとほぼ一致する西経100度の経線を境に，多雨であるプレーリーと少雨であるグレートプレーンズが分けられる(つまり，小麦地帯はプレーリー西部からグレートプレーンズ東部にかけて広がる)と考えるとわかりやすい。

ミネソタ州・・・ミシシッピ川の水源に当たる州。大陸氷河に覆われていたため湖が多い(氷河湖)。メサビ鉄山が位置。主な都市はセントポール，ミネアポリス，ダルースなど。
セントポール・・・ミネソタ州の州都。ミシシッピ川左岸(東岸)。対岸のミネアポリスとともに双子都市となっている。
ミネアポリス・・・ミネソタ州。ミシシッピ川右岸(西岸)。フランス人によって開発された。春小麦の集散地。対岸のセントポールとともに双子都市となっている。
(1　　　　　　　　　)・・・ミネソタ州の鉄山。重要な鉄山でありかつてはここで採掘された鉄鉱石がピッツバーグなどに送られたが，近年はやや枯渇傾向にあり，タコナイトとよばれる貧鉱(鉄分の含有割合が低い鉄鉱石)しか採れなくなってきている。
ダルース・・・スペリオル湖に面する港湾都市。鉄鉱石の積み出し港であると同時に，鉄鋼業も立地している。
(2　　　　　　　　　)川・・・ミネソタ州に水源を発し，多くの州の州境を成しながら，メキシコ湾に注ぐ河川。流量は年間を通じて多いが，春先に増水期となるなど季節による流量変化もみられる。中流から下流にかけての沿岸部では温暖な気候を利用して米作が行われ，河口には独特の形状を有する三角州(鳥趾(ちょうし)状三角州)を形成。周辺農地では土壌侵食の被害も拡大している。マーク・トウェイン「トム・ソーヤーの冒険」の舞台として有名。
(3　　　　　　　　　)・・・ミズーリ州。ミシシッピ川とミズーリ川の河川合流点に位置する都市。
ミズーリ川・・・ロッキー山脈のカナダ国境付近に水源を発し，グレートプレーンズを南流する河川。ミシシッピ川の支流であり，セントルイスで本流に合流。
西経100度の経線・・・年間降水量500mmの等値線にほぼ一致。ここより東は湿潤，西は乾燥気候がみられる。おおよそ五大湖からこの経線まで広がる温帯草原をプレーリーといい，この経線からロッキー山脈の間の台地状の大平原をグレートプレーンズという。つまりノースダコタ州やサウスダコタ州，カンザス州など企業的穀物農業地域に含まれる諸州は，東部がプレーリー，西部がグレートプレーンズとなっている。
ノースダコタ州・サウスダコタ州・・・企業的穀物農業がみられ春小麦を栽培。とくにノースダコタ州は小麦の生産において全米１位。サウスダコタ州も５位。農場１戸当たりの耕地面積がいずれも500ヘクタールを超え，極めて大規模。
(4　　　　　　　　　)州・・・企業的穀物農業がみられ冬小麦を栽培。全米有数の小麦生産。

モンタナ州・・・アラスカ州・テキサス州・カリフォルニア州に次ぐ広さ。日本より大きい。
ビュート・・・モンタナ州の銅山。
アナコンダ・・・ビュート銅山の開発とともに成立した都市。鉱業都市の代表例。
イエローストーン国立公園・・・アメリカ合衆国最初の国立公園。豊かな森林や野生動物の他，温泉や間欠泉(一定の時間をおいて吹き出す)などが有名。
ユタ州・・・ロッキー山中に位置する州。白人の人口割合が極めて高い。人口規模は小さいものの，モルモン教徒である白人の流入が顕著。
（5　　　　　　　　　）・・・ユタ州都。モルモン教の総本山であり宗教都市。モルモン教とはキリスト教の一派で白人の人々に信者が多い。迫害を受けたモルモン教徒はロッキー山中に集落をつくり，それがこの都市の起源となった。2002年には冬季オリンピックも開催された。
グレートソルト湖・・・ユタ州の湖。乾燥の激しい地域に位置する内陸湖であり，塩湖でもある。
ビンガム・・・ユタ州の銅山。
デンバー・・・コロラド州都。ほぼ北緯40度・西経105度に位置。ロッキー山脈観光の基点となる観光リゾート都市。標高約1600mに位置するため「マイルハイシティ」ともよばれる。近年はICなどハイテク工業も立地し「シリコンマウンテン」と異名をとる。
ワサッチ山脈・・・ユタ州の山脈。ロッキー山脈に平行する。
フェニックス・・・アリゾナ州都。砂漠の中に建設された都市。人口は100万人に達する。
（6　　　　　　　　　）・・・アリゾナ州に位置する国立公園。コロラド川の流れがコロラド高原を侵食し，深い谷となっている。地形輪廻の幼年期地形の代表例として知っておこう。
ネバダ州・・・グレートベースン(大盆地)に位置する。乾燥の度合が高い。
フーヴァーダム・・・コロラド川に建設されたダム。
ミード湖・・・フーヴァーダムによるダム湖。
（7　　　　　　　　　）・・・モルモン教徒の入植に起源を発する。フーヴァーダムに近接し，建設労働者が一時的に居住したが，その後はカジノなどで有名な観光都市として成長。
パーカーダム・・・コロラド川に建設されたダム。ロサンゼルスに生活・工業用水を供給。



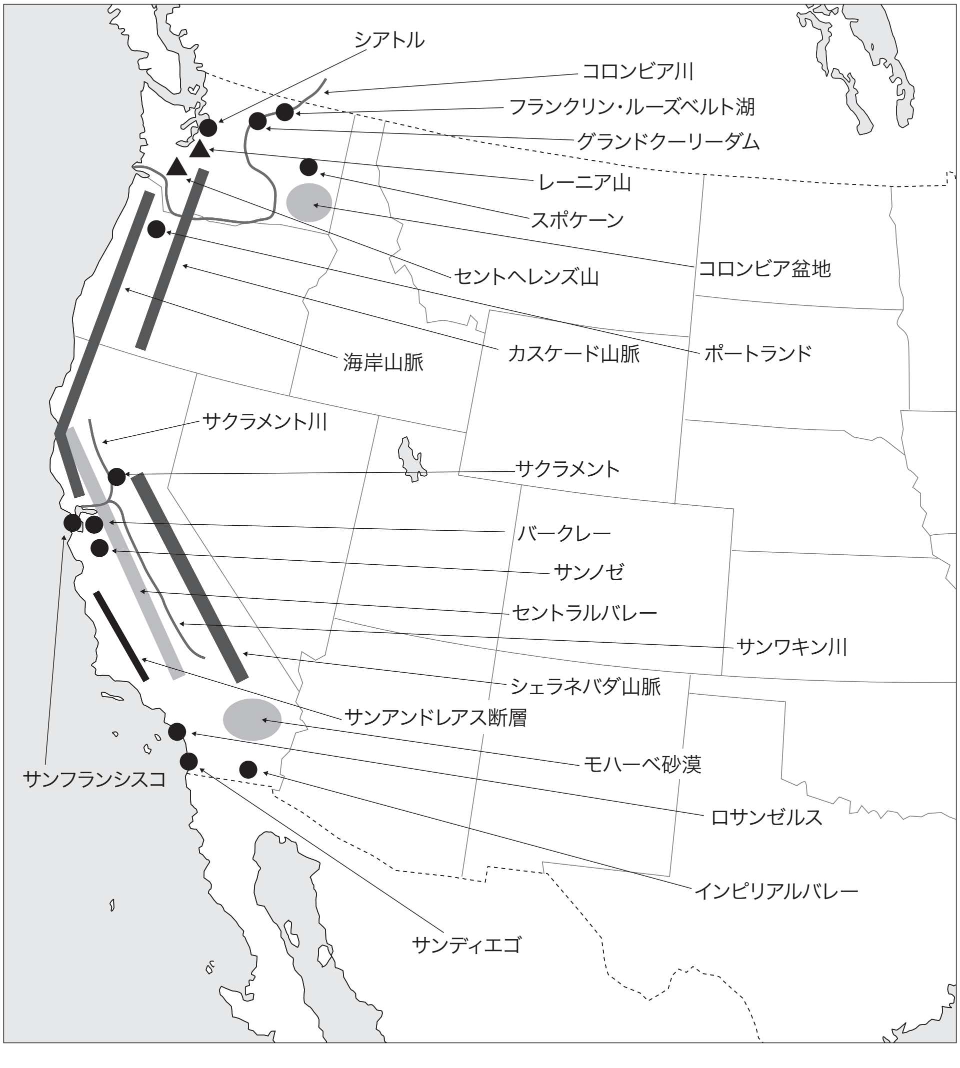
＜太平洋岸・アラスカ・ハワイ＞

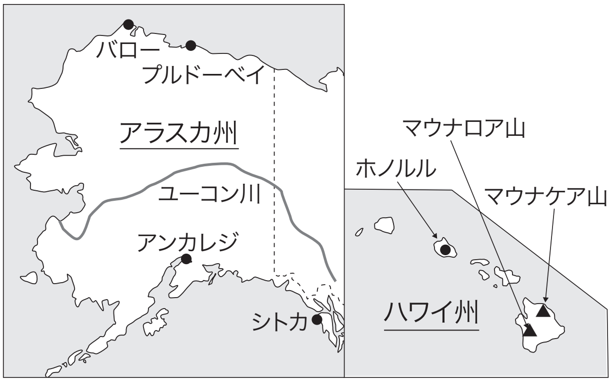
本土の太平洋岸は南北で対照的な気候環境となる。北部のワシントン州は暖流の影響によって冬季温暖となり，降水量も多い（地中海性気候でありながら，年降水量が1000mm近くに達するという珍しいパターン）。森林が広がり，林業の中心地である。南部のカリフォルニア州は寒流の影響によって夏季冷涼となり，年間の降水量も少ない。最大の農業州であるが，米や野菜，オレンジの栽培は灌漑によって行われている。

ワシントン州・・・太平洋岸北部の州。森林地帯になっている。主要都市はシアトル。
(8　　　　　　　　　)・・・ワシントン州北西部の港湾都市。木材の積み出し港として発展したが，近年は航空機産業がとくにさかんとなっている。シアトル郊外のレドモンドにマイクロソフトの本社がある。
コロンビア川・・・カナダ・ブリティッシュコロンビア州南部に水源を発し，ワシントン州・オレゴン州を貫いて太平洋に注ぐ河川。中流域で開発が進み，農業用水・工業用水に利用されている。
コロンビア盆地・・・ワシントン州東部の盆地。ロッキー山脈とカスケード山脈に囲まれている。コロンビア川によって灌漑が進み，冬小麦の産地となっている。ワシントン州の冬小麦の生産は国内有数。
グランドクーリーダム・・・コロンビア川に建設されたダム。
フランクリン・ルーズベルト湖・・・グランドクーリーダムによってつくられたダム湖。
スポケーン・・・ダムで得られる電力を利用してアルミニウム工業がさかん。

カスケード山脈・・・ワシントン州からオレゴン州へと縦走する山脈。コロンビア盆地の西部に沿う。
レーニア山・・・成層火山。別名はタコマ富士。
セントヘレンズ山・・・1980年に大噴火した火山。
オレゴン州・・・ワシントン州の南に接する州。森林地帯。主要都市はポートランド。
ポートランド・・・オレゴン州。コロンビア川流域に開かれ河港を持つ（正確にはコロンビア川本流ではなく，その支流のウィラメット川に面している）。重要な木材積み出し港。
（9　　　　　　　　）州・・・太平洋岸中部から南部にかけての州。面積はアラスカ州・テキサス州に次いで3位であり，日本より大きい。人口規模は全米1位の約4000万人を誇り，カナダより多い。農産物出荷額，製造品出荷額がともに極めて大きく，経済活動も活発。
海岸山脈・・・太平洋岸を縦断する山脈。ワシントン州からカリフォルニア州まで伸びる。
セントラルバレー・・・海岸山脈とシェラネバダ山脈に挟まれたカリフォルニア州の中央部に位置する谷。地中海性気候のため果実（ブドウなど）が栽培されているが，灌漑が進み米作や野菜栽培もさかん。とくに米はカリフォルニア米として日本などへ輸出され，野菜は冷蔵トラックによって大西洋岸メガロポリスへも輸送されている。
サクラメント川・サンワキン（サンホワキン）川・・・セントラルバレーを流れる河川。シャスタダムが建設されるなど，灌漑にも利用されている。
サクラメント・・・カリフォルニア州の州都。
（10　　　　　　　　）・・・カリフォルニア州中部を代表する都市。市域人口は100万人に満たないが，都市圏人口でみた場合は国内有数の規模を持つ。金の積み出し港として発展。ゴールデンゲートブリッジが有名。地中海性気候（Cs）で年間降水量はほぼ500mm。沿岸を流れる寒流であるカリフォルニア海流の影響で夏季の気温が抑えられ（最暖月平均気温は約18℃），気温年較差が10℃に満たない海洋性気候。この海流は夜霧の原因ともなり，サンフランシスコの別称は「霧の町」。
サンノゼ・・・サンフランシスコ都市圏の工業都市。先端技術産業が集積。俗称はシリコンバレー。
バークレー・・・サンフランシスコ都市圏の学術都市。大学がある。
（11　　　　　　　　）断層・・・太平洋プレートと北アメリカプレートの「ずれる境界」。横ずれ断層であり，地震も多発。
シェラネバダ山脈・・・ネバダ州との州境付近を走る山脈。典型的な断層山脈。他に断層山脈の例としてはテンシャン山脈や鈴鹿山脈などがある。
モハーベ砂漠・・・内陸部の砂漠。
インピリアルバレー・・・コロラド川に沿う谷で，灌漑によって農業地帯となっている。野菜や綿花の栽培など。
（12　　　　　　　　）・・・国内人口2位の大都市。航空機工業や映画産業（ハリウッド），付近で産出する原油を生かした化学工業などがさかん。地中海性気候（Cs）で年降水量は約300mm。不足する生活・工業用水を補うためコロラド川から取水している。人口増加率が高く，とくにヒスパニック系の流入が多いことから，スペイン語を母語とする人々も多い。メキシコシティと並ぶ大気汚染の深刻な都市でもある。
サンディエゴ・・・カリフォルニア州最南部の都市。軍港が位置する軍事都市で造船がさかん。ステップ気候（BS）区で年降水量は250mm程度。国境を挟んでメキシコ側にある都市はティファナ。サンディエゴ側からティファナへと低賃金労働力を求めて機械工業が進出している。

アラスカ州・・・ロシアから購入した49番目の州。面積は国内最大だが人口規模は小さい。資源が豊富で，１人当たり州内総生産は高い。
プルドーベイ・・・北極海沿岸ノーススロープ地方の油田。パイプラインが太平洋側まで引かれる。
バロー・・・ツンドラ気候(ET)のみられる代表的な都市。
ユーコン川・・・カナディアンロッキーに水源を持ち，西流しベーリング海峡に注ぐ。
(13　　　　　　　　)・・・アラスカ州南部の都市。アンカレジ空港は日本・ヨーロッパ航路の結節点として重要だった(交通都市)。しかしロシア上空を通るルートが確立された現在，地位は低下している。
シトカ・・・パルプ工業など。
(14　　　　　　　　)州・・・19世紀末にアメリカ合衆国に併合され，20世紀中頃に州とされた。多くの火山島からなる。かつてポリネシア民族による国家が成立していた。
ホノルル・・・州都。人口最大の島であるオアフ島に位置。
(15　　　　　　　　)山・マウナロア山・・・面積最大のハワイ島に位置する火山。楯状火山であり溶岩の流動性が高く爆発力は弱い。マウナケア山頂付近には世界各国の天文台が設置されている。





中央アメリカ・カリブ海

メキシコ以南の国々。民族的な観点から分類すると南アメリカと合わせて「ラテンアメリカ」と称されるが，経済的にはアメリカ合衆国の影響が強く，とくにメキシコはアメリカ合衆国を中心とした自由貿易経済圏であるNAFTAの一員である。メキシコを除けば，中央アメリカ・カリブ海地域は小国が多く，特徴的な国も少ないが，国名と位置だけは確認しておこう。

<メキシコ>

人口は約1.3億人で，日本を抜き去り世界10位にランクアップ。北部から中部にかけては比較的乾燥した気候がみられるが，南部は熱帯気候に含まれ，常緑広葉樹の密林がみられる。原油や銀鉱などの資源も豊富であるが，アメリカ合衆国からの企業進出により，電気機械工業や自動車工業などの分野において工業力が高められている。

(16　　　　　　　)・・・メキシコ高原上に位置する首都にして国内最大人口を有するプライメートシティ。旧湖底の盆地に位置し，地盤が砂地であるため，砂埃がひどい他，一部で地盤沈下も。また盆地の底に空気が滞留し，外気との入れ替わりが少ないことも，大気汚染の深刻化に拍車をかけている。
テスココ湖・・・かつてメキシコ高原に存在していた湖。現在は干拓され，旧湖底にメキシコシティの市街地が広がる。
東シェラマドレ山脈・・・メキシコ高原の東に沿う山脈。
西シェラマドレ山脈・・・メキシコ高原の西に沿う山脈。
(17　　　　　　　)ゾーン・・・かつてアメリカ合衆国に接した地域に設けられていた保税輸出加工区。税制面で優遇し，主にアメリカ合衆国からの企業(工場)進出を奨励した。このため，国境に沿うティファナやシウダーファレスでは機械工業が発達。ただし，1990年代前半にNAFTA(現USMCA)が成立すると，メキシコ全域が自由貿易の対象地域となったため，人口の大きい都市(メキシコシティやモンテレー)や，より安価な労働力の得られる国内南部地域にも，多くの工場が進出している。
ティファナ・・・国境に接する都市。機械工業。アメリカ合衆国側にはサンディエゴ。

シウダーファレス・・・国境に接する都市。機械工業。アメリカ合衆国側にはエルパソ。
(18　　　　　　　　)・・・アメリカ合衆国系の企業が進出し，メキシコの自動車工業の中心地となっている。
タンピコ・・・メキシコ湾岸の都市。石油関連産業。
チワワ・・・銀鉱。メキシコは世界最大の銀鉱の産出国。
アカプルコ・・・太平洋岸の海岸リゾート地。
ユカタン半島・・・メキシコ南部の半島で熱帯雨林に覆われる。古代マヤ文明が栄え，遺跡も多い。

(参考)メキシコシティの大気汚染

メキシコシティは極めて大気汚染の深刻な都市として知られている。その要因を整理しておこう。
1)自動車が多く，排ガスにより大気汚染が進む。
2)自動車の排ガスには窒素酸化物が含まれており，酸性雨の原因になる。また排ガスに含まれている成分が激しい太陽直射によって化学反応を起こし，日差しの強い日中には光化学スモッグも発生する。
3)かつて湖底だった地盤は砂地であり，砂埃が舞う。降水量の少ない時期には雨による空気の洗い流しがなく，細砂が空気中にとどまっている。
4)標高が高く空気が薄く酸素濃度も低いため，ガソリンなどの燃焼時に不完全燃焼を起こしやすく，一酸化炭素を生じる。
5)市街地が盆地の中にあり，低地に滞留する空気が外気と入れ替わることが少ない。大気汚染物質の濃度が高まる。

＜中央アメリカ諸国＞

国ごとの特徴が捉えにくいが，白地図を用いた問題の出題率が高い。それぞれの国の位置を確認しておくこと。

ベリーズ・・・首都ベルモパン。メキシコのユカタン半島に隣接。旧イギリス領。古代マヤの遺跡が熱帯雨林に眠る。
グアテマラ・・・首都グアテマラシティ。コーヒーの栽培など。メキシコ・ユカタン半島からグアテマラまで古代マヤ文明の遺跡が分布する。
ニカラグア・・・首都マナグア。内戦により国土が荒廃。
コスタリカ・・・首都サンホセ。軍隊を持たない国家として知られ，白人の人口割合が高い。コスタリカとはスペイン語で「豊かな海岸」の意味。国土の広い範囲が熱帯雨林に覆われる自然と生態系の豊かな国。
(19　　　　　　　　)・・・首都パナマシティ。大西洋と太平洋をつなぐパナマ運河がある。両洋の海面高度が異なるため閘門式の運河となっている。運河地帯はかつてはアメリカ合衆国が支配していたが，1999年にパナマに返還された。またこの国は便宜置籍船国でもあり，船舶(商船)保有量は世界有数。

＜カリブ海諸国＞

大アンティル諸島に含まれる国を確実に知っておく。経済体制や資源分布，民族構成などに個性がある国が多い。

西インド諸島・・・キューバからトリニダード・トバゴまで連なる島々の総称。カリブ海を囲む。
大アンティル諸島・・・西インド諸島の西側半分。キューバからプエルトリコ付近までの島々。
バハマ・・・フロリダ半島東側の島嶼国。サンゴ礁による美しい島々が連続する海岸保養地にもなっている。タックスヘイブン(租税回避地)でありここに本社を移す米国内の企業も多く，また船舶登録税が安いため便宜的にバハマに船籍のみを登録する商船も多い。
(20　　　　　　　　)・・・首都ハバナ。スペイン植民地だったが，アメリカ合衆国の保護国だった時代があり，その時に多くのサトウキビプランテーションが開かれている。サバナ気候(Aw)で雨季と乾季の明瞭な気候がサトウキビの栽培に適していた。しかし，反米感情の高まりにより革命が勃発すると，アメリカ資本は撤退し，プランテーションは国有化された。カストロ率いる社会主義政権は当時のソ連と距離を縮め，砂糖は重要な輸出品となった。長くアメリカ合衆国と断交状態にあったものの，オバマ政権下の2015年に国交が回復している。トランプ政権下で再び制裁は強化されたが，新政権移行によりそれも緩和されることが予想され，今後の経済成長が期待される。サトウキビ栽培に依存したモノカルチャー経済を脱却し，近年はニッケル鉱の輸出が増加している。他にはタバコも有名で，キューバ葉巻は高級品である。スペイン語が公用語として使用され，人種構成はヨーロッパ系が過半数だが比較的ムラートも多い。国土は北緯20度と北回帰線の間に含まれる。
(21　　　　　　　　)・・・キューバの南方に浮かぶ小さな島国。旧イギリス領で公用語も英語。首都キングストン。国民のほとんどが黒人からなる(アフリカから連れてこられた奴隷の子孫)。ボーキサイトの産出がとくにさかんだが，ブルーマウンテンの銘柄で知られる高級コーヒー豆も有名。

イスパニョーラ島・・・新大陸を目指したコロンブスが上陸した島であり，「スペインの島」という名が付けられている。またコロンブスはこの地をインドの一部と思い込んだため，一帯の島々は「西インド諸島」とよばれることとなった。
(22　　　　　　　　　)・・・イスパニョーラ島の西部を占める国。旧フランス領であり，ハイチ語の他，フランス語も公用語とされている。19世紀に独立を成し遂げた史上初の黒人共和国。ギニア湾岸地域から流入した奴隷の子孫が国民の多数を占める。
ドミニカ共和国・・・イスパニョーラ島の東部を占める国。黒人と白人の混血であるムラートが多数を占める。ドミニカ共和国とは異なる「ドミニカ国」という国もあるので区別しておくこと。
プエルトリコ・・・アメリカ合衆国の自治州。中心都市サンファン。公用語はスペイン語と英語。かつてアメリカ合衆国の51番目の州となるべく州民投票が行われたこともあるが，自治州としての立場を維持し続けることとなった。ただしアメリカ合衆国本土への移民は多く，その主な行き先はニューヨーク市である。
小アンティル諸島・・・西インド諸島の東側半分。小さな島々が連なる。
マルチニーク島・・・フランス領。火山がある。

第14章　南アメリカ

南アメリカ

全ての国が出題対象となりうるが，１人当たりGNIはブラジルとアルゼンチン以外は重要ではない。ただし，首都に関する知識は問われやすいので，位置(とくに標高！)と人口規模については必ずチェックしておく。さらに首都に外港がある場合にはそちらも出題されやすい。整理しておくこと。

自然環境に関しては植生に関するワードに注意。リャノ，セルバ，カンポセラード，グランチャコ，パンパ(湿潤パンパ，乾燥パンパ)はとくに重要。植生ではないが，アルティプラノ，パタゴニアなど地域を表す言葉にも注意しておこう。

＜北部地域＞

アンデス高地に国土を有するコロンビア，オリノコ川流域のベネズエラ，そしてギアナ諸国。ガイアナは旧イギリス領，スリナムは旧オランダ領であり，いずれも南米大陸では例外的な地域。

(１　　　　　　　)山脈・・・南米大陸の西岸に沿う巨大な褶曲山脈。沿岸に沿ってペルー海溝やチリ海溝が走り，プレートの狭まる境界に形成された地形である。最高峰はアコンカグア山(6959m)であり，活火山としては世界で最も高いオホスデルサラード山(6908m)も位置。低緯度の高原は冷涼で気温年較差も小さく，ボゴタやキト，ラパスなど多くの高山都市が立地している。アルゼンチンとチリの国境山脈でもある。

（2　　　　　　）・・・コロンビアの首都。標高約2600mに位置。
カラカス・・・ベネズエラの首都。
オリノコ川・・・コロンビア東部からベネズエラを流域に収める河川。周辺はサバナ気候。
（3　　　　　　　）・・・オリノコ川流域に広がる熱帯草原。雨季には一面水浸しになり，放牧されている牛は小高い丘に逃れる。
（4　　　　　　　）湖・・・ベネズエラ西部に位置する湖。多くの油田が開発されている。ベネズエラはOPECの原加盟国である。
キュラソー島・アルバ島・・・オランダ領。石油精製所が位置する。
ギアナ高地・・・ベネズエラからギアナ諸国へと連なる高原。先カンブリア代に形成された古い岩盤からなる地形。
（5　　　　　　　）・・・首都ジョージタウン。旧イギリス領。ボーキサイトの産出。鉱山労働者として流入したインド人の子孫が多く居住。ヒンドゥー教徒も多い。
（6　　　　　　　）・・・首都パラマリボ。旧オランダ領。人口密度がとくに低い国である（約4人／km^2）。ボーキサイトの産出も多い。鉱山労働者として流入したインド人やインドネシア人の子孫が多く居住し，イスラム教徒も多い。
フランス領ギアナ・・・ギアナ地方の東部。

＜エクアドル＞

国名はスペイン語の「赤道」に由来。バナナで知られる国だが，原油産出量も比較的多く，かつてはOPECにも加盟していた。

（7　　　　　　　）・・・首都。標高約2800mに位置する高山都市。ほぼ赤道直下に位置する。
グアヤキル・・・キトの外港都市。バナナの積み出し港。
コトパクシ山・・・火山。
（8　　　　　　　）諸島・・・赤道直下，西経約90度に浮かぶ火山島。生物学者ダーウィンはこの島々での研究を元に，後に「進化論」を提唱した。付近はペルー海流からつながる海流の影響によって水温が低く，栄養分豊かな海域が形成されているものの，エルニーニョ現象とよばれる異常な海水温上昇によって生態系の危機にさらされている。

＜ペルー＞

砂漠が広がる沿岸地域，インカ帝国が栄えたアンデス山脈，そしてアマゾン川流域で熱帯雨林が広がる東部の3つの地域に分かれる。先住民であるインディオの割合が高い。アンチョビーの漁獲が多い水産国であるが，それらは食用ではなく，魚粉に加工され飼料用として輸出されている。

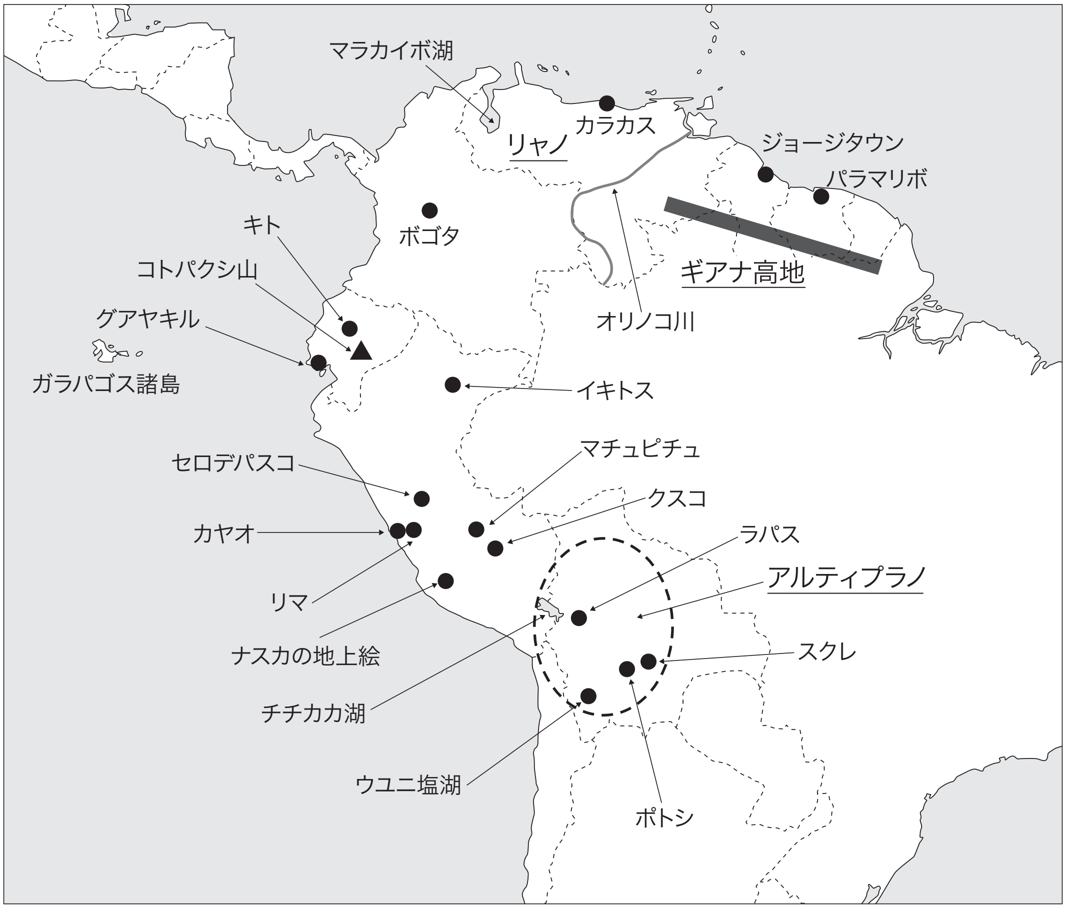
（9　　　　　　　）・・・首都。沿岸を北上するペルー海流の影響によって降水が抑えられ，砂漠気候（BW）がみられる。標高は10m程度で周辺諸国の首都のような高山都市ではないことに注意。
カヤオ・・・リマの外港。
ナスカの地上絵・・・ペルー沿岸部の乾燥地域にみられる遺跡。千年以上が経過しても，地上絵が残されている。

クスコ・・・アンデス山中の都市で，かつてインカ帝国の都として繁栄した歴史を持つ。
マチュピチュ・・・アンデス高原に位置するインカ帝国の遺跡。「空中都市」との異名を持つ。
セロデパスコ・・・鉛・亜鉛・銅などが産出される重要な鉱山。
(10　　　　　　　　)・・・ペルー東部アマゾン川の河港都市。アマゾン川はペルー東部まで流域に収める国際河川である。

<ボリビア>

アンデス山脈の内陸国。インディオの割合が高い。すず鉱など鉱産資源が豊富である。

(11　　　　　　　　)・・・首都。標高約4000mに位置。世界最高所の首都である。年平均気温は10℃に満たず，年間を通じて低温。
チチカカ湖・・・ペルーとの国境湖沼。
ポトシ・・・すず鉱・鉛・亜鉛などの鉱山。ボリビアは世界的なすず鉱産出国。
スクレ・・・憲法上の首都。
アルティプラノ・・・ボリビア高原の別名。
ウユニ塩湖・・・塩湖の湖水が干上がって形成された塩原。極めて平坦な地形。



＜チリ＞

北部は乾燥地域。寒流と亜熱帯高圧帯の影響により，極めて降水量が少ない。鉱産資源が豊富。中部は地中海性気候で，ブドウの栽培とワインの醸造で名高い。人口の多くはこの地域に集中。南部は降水量の多い森林地域だが，地形が険しく農業は発達しない。沿岸にはフィヨルド。

(12　　　　　　　　)砂漠・・・北部にある砂漠。寒流のはたらきで大気が安定することによって形成される海岸冷涼砂漠。とくに亜熱帯高圧帯の影響も強いため，世界で最も乾燥した地域の一つともなっている。
チュキカマタ・・・代表的な銅山。チリは世界最大の銅鉱産出国。
(13　　　　　　　　)・・・首都。総人口の約３分の１が集まる大都市。標高は約500mであり，高山都市ではない。ほぼ南緯35度に位置し，地中海性気候がみられる。ブドウの栽培とワインの生産も。
バルパライソ・・・サンティアゴの外港。
アコンカグア山・・・南アメリカ大陸最高峰。
フエゴ島・・・南アメリカ大陸の南側にある島。複雑な海岸線はフィヨルドであり，チリとアルゼンチンの数理的国境もみられる。
マゼラン海峡・・・南アメリカ大陸とフエゴ島の間の海峡。

＜ウルグアイ＞

湿潤パンパに国土が含まれ，国土面積に占める牧場・牧草地の割合が高い。

モンテビデオ・・・ウルグアイの首都。ラプラタ川エスチュアリーに面する。牛肉など農畜産物が輸出されている。

＜アルゼンチン＞

北部に亜熱帯草原(グランチャコ)，東部に温帯草原と半乾燥の草原(湿潤パンパ，乾燥パンパ)，南部に乾燥した台地(パタゴニア地方)。国土の広い範囲が牧場・牧草地で占められる。ヨーロッパ人の都市への入植により開発された国であり，都市人口割合が極めて高く(90％超)，人口構成もほとんどがヨーロッパ系白人。

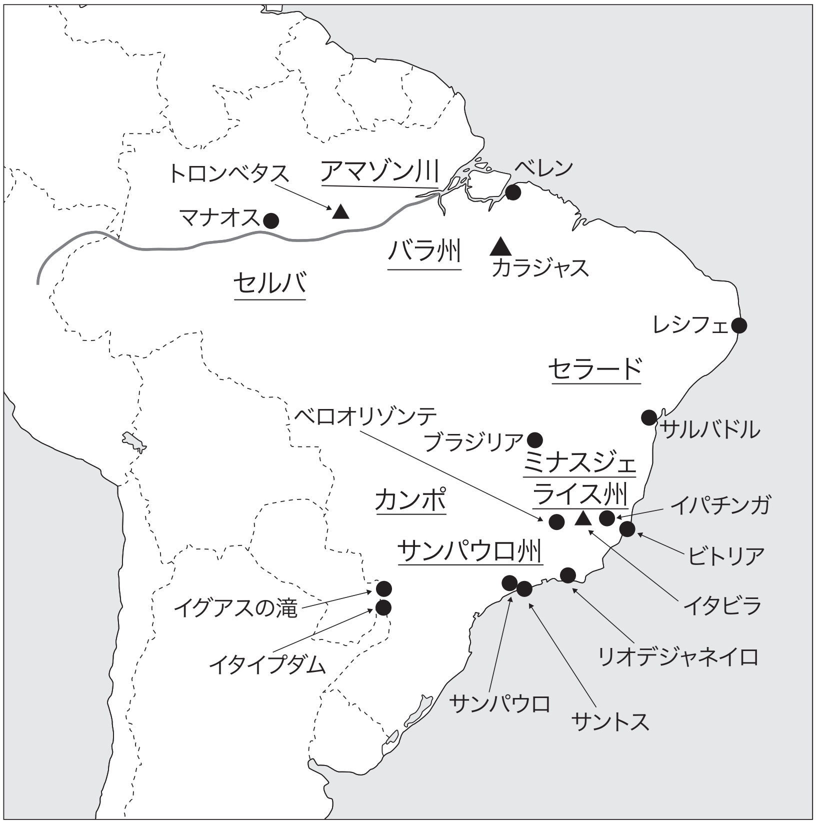
(14　　　　　　　　)・・・ラプラタ川エスチュアリーに位置する港湾都市。都市圏人口は1000万人を超える。温暖湿潤気候(Cfa)。放射状に鉄道が内陸部に通じ，農畜産物が港へと運ばれる。
(15　　　　　　　　)川・・・南アメリカ大陸南東部を流域に含む巨大な水系の下流部における名称(中上流部はパラナ川など)。河口には巨大なエスチュアリーが形成されている。
(16　　　　　　　　)・・・アルゼンチンからウルグアイに広がる広大な草原をパンパというが，そのうち東半分の地域。年降水量は550mm以上であり，混合農業や企業的穀物農業が行われる他，アルファルファを飼料とした肉牛の放牧がみられる。
(17　　　　　　　　)・・・パンパのうち，バイアブランカより西の地域。年降水量は550mm未満であり，牧羊を中心とした企業的牧畜地帯となっている。

グランチャコ・・・北部の亜熱帯草原。パラグアイにかけて広がっている。牧牛や綿花の栽培などが行われている。
パタゴニア地方・・・恒常風である偏西風の風下斜面に当たるため，一年を通じ乾燥する地域。一部で羊の放牧もみられるが，ほとんどは荒涼とした台地である。近年は油田の開発も進められている。なお，本来は南米大陸の南部全体(つまりチリ南部も含む)をパタゴニア地方というが，ここで取り上げたようにアルゼンチン南部のみを指す場合もある。
フォークランド諸島・・・アルゼンチンではマルビナス諸島とよばれる。イギリスとアルゼンチンとの間で領有が争われている。

＜ブラジル＞

人口は世界６位，面積は世界５位の大国。ヨーロッパ系住民が過半数ではあるが，黒人奴隷が流入した歴史もあり，アフリカ系やムラートも多いなど，多様な人種構成をみせる。
農業は大豆，トウモロコシ，サトウキビ，コーヒーなど世界上位の生産を誇るが，小麦は生産が少なく輸入に依存している。資源も鉄鉱石やボーキサイトに加え，近年は原油の産出も急増しているが，石炭の採掘量は少ない。工業は，粗鋼生産，自動車生産いずれも世界10位以内に入り，新興国として経済成長の段階にある。

(18　　　　　　　　　)川・・・流長世界２位，流域面積世界最大。アンデス山脈東麓ペルーに水源を発し，アマゾン盆地を貫流する。国際河川であり，沿岸国の自由航行が認められている。
セルバ・・・アマゾン川流域に広がる熱帯雨林。過剰な焼畑，牧場や鉱山，大豆栽培地の開発によって森林が失われつつある。
ベレン・・・アマゾン川河口付近の都市。
(19　　　　　　　　　)・・・アマゾン中流の河港で，人口200万人に達する大都市。ネグロ川との合流点付近に位置する。周囲は熱帯雨林に覆われる。天然ゴムの集散地として栄えたが，現在は輸出加工区が設けられ機械工業などが発達している。
パラ州・・・カラジャスやトロンベタスが位置する州。
(20　　　　　　　　　)・・・アマゾン川下流域の鉄山。トランスアマゾニアンハイウェーの開通に伴って開発が進められたが，これが熱帯林減少の一因となっている。
トロンベタス・・・代表的なボーキサイト鉱山。ブラジルは世界４位のボーキサイト産出国。
レシフェ・サルバドル・・・ともにブラジル北東部，大西洋に面する都市。ブラジルがポルトガルに植民地支配される初期の段階で入植が進み，比較的古い歴史を持つ。付近にはサトウキビのプランテーション。
(21　　　　　　　　　)・・・連邦首都。高原上に計画的に建設された政治都市。ジェット機が翼を広げたような形状の街路区画を有し，美しい市街地は世界遺産となっている。
セラード・・・ブラジル高原北部の荒れ地。灌木と草原が広がる。サバナ気候(Aw)。
カンポ・・・ブラジル高原中部の熱帯草原。サバナ気候(Aw)。
なお，カンポとセラードを合わせて「カンポセラード」と称することが一般的で，首都のブラジリアへの移転に伴い，農地としての開発も進められている。
ミナスジェライス州・・・鉄鉱資源に恵まれ，鉄鋼業を中心とした工業地域となっている。
ベロオリゾンテ・・・ミナスジェライス州。国内人口３位。鉄鋼業。
(22　　　　　　　　　)・・・ミナスジェライス州。ベロオリゾンテ近郊の鉄山。
イパチンガ・・・ミナスジェライス州。日本との合弁によってウジミナス製鉄所が建設された。
ビトリア・・・イタビラで産出される鉄鉱石の積み出し港。日本やイタリアの協力による製鉄所が位置。
(23　　　　　　　　　)・・・国内人口２位。旧首都であり，世界三大美港にも数えられる美しい港湾を持つ。２～３月に開催されるカーニバルで有名。沿岸部はコパカバーナのビーチが広がる。
サンパウロ州・・・ブラジル高原南部に位置する。肥沃な土壌であるテラローシャが広がり，コーヒーの栽培がさかん。
(24　　　　　　　　　)・・・南半球人口１位の都市。コーヒー豆の集散地。人口は1000万人に達する。
サントス・・・サンパウロの外港。
(25　　　　　　　　　)ダム・・・ブラジル・パラグアイ国境パラナ川に建設されたダム。膨大な発電量を誇る。付近にイグアスの滝。ブラジルは水力発電の割合が高く，また電力はパラグアイの代表的な輸出品目である。


トロンベタス
アマゾン川
ベレン
マナオス
パラ州
カラジャス
セルバ
レシフェ
セラード
サルバドル
ベロオリゾンテ
ブラジリア
ミナスジェライス州
カンポ
イパチンガ
ビトリア
サンパウロ州
イタビラ
イグアスの滝
イタイプダム
リオデジャネイロ
サンパウロ
サントス

第 15 章　オセアニア

オーストラリア

日本と比して人口は５分の１程度であるが，面積は20倍に及び，人口密度は100分の１の３人／km^{2}強となる。国土の約60％がステップ気候（BS）あるいは砂漠気候（BW）に含まれる乾燥大陸。年降水量500mmと250mmの等降水量線が重要なので，地図帳などで確認しておこう。

＜東部＞

古期造山帯であるグレートディヴァイディング山脈が東岸に沿って走る。沿岸部では北から，サバナ気候→温帯冬季少雨気候→温暖湿潤気候→西岸海洋性気候と変化。山脈の西麓は降水量が少なく，乾燥地域となる。ステップ気候や砂漠気候。

クインズランド州・・・北東部。コーラル海に面する海岸部の広い範囲は，リゾート地として開発されている。サトウキビ栽培や牧牛がさかん。州都ブリズベン。
（１　　　　　　　　　）（大堡礁）・・・オーストラリア北東部，陸地からやや離れた浅い海域に分布する広大なサンゴ礁。
ケアンズ・・・日本から直行路線があるリゾート地。海岸保養都市。グレートバリアリーフ観光の拠点。
タウンズビル・・・グレートバリアリーフに面する。北東海岸に分布するサバナ気候（Aw）区に位置する。
ブリズベン・・・クインズランド州都。人口200万人を超える。亜熱帯に近い温暖湿潤気候（Cfa）。
ゴールドコースト・・・ブリズベンに隣接する保養都市。リゾート開発が進み，新たに転居してくる者が多い。

マウントアイザ・・・クインズランド州内陸部の銅山。鉛・亜鉛も産する。
ウェイパ・・・ヨーク岬半島に位置するボーキサイト鉱山。
モウラ・・・クインズランド州の炭田。日本資本によって開発され，ここからわが国へと輸出される石炭の量は極めて大きい。
（2　　　　　　　　）山脈・・・オーストラリア大陸東岸に沿う山脈。古期造山帯でなだらかな山容。石炭資源が豊富。東側斜面は多雨，西側斜面は少雨。
ニューサウスウェールズ州・・・クインズランド州の南に隣接。州都シドニー。
（3　　　　　　　　）・・・ニューサウスウェールズ州都。人口450万人に達する国内人口最大都市。ボタニー湾に面する港湾都市として発展し，世界三大美港に数えられることも。国内の商工業の中心地。2000年夏季オリンピック開催。温暖湿潤気候(Cfa)。
ボタニー湾・・・シドニーが面する湾。イギリスの植民地時代にはこの地へと本国から囚人が送られてきた。
ニューカッスル・・・シドニー近郊の石炭積み出し港のある都市。
ブロークンヒル・・・ニューサウスウェールズ州内陸部の鉱山。鉛・亜鉛を産する。

＜南部＞

ヴィクトリア州とサウスオーストラリア州を中心とした地域。西岸海洋性気候や地中海性気候などヨーロッパ的な気候がみられ，都市の街並みもヨーロッパ的。マリー川流域は国内有数の小麦農業地帯である。

キャンベラ・・・計画的に建設された首都。人口規模は小さい。放射環状路型の街路区画を有する。
ヴィクトリア州・・・南東部。酪農がさかん。州都メルボルン。
（4　　　　　　　　）・・・ヴィクトリア州都。大陸のほぼ最南部に位置しているので地図で場所を確認しておくといい。人口は450万人に達し国内2位。

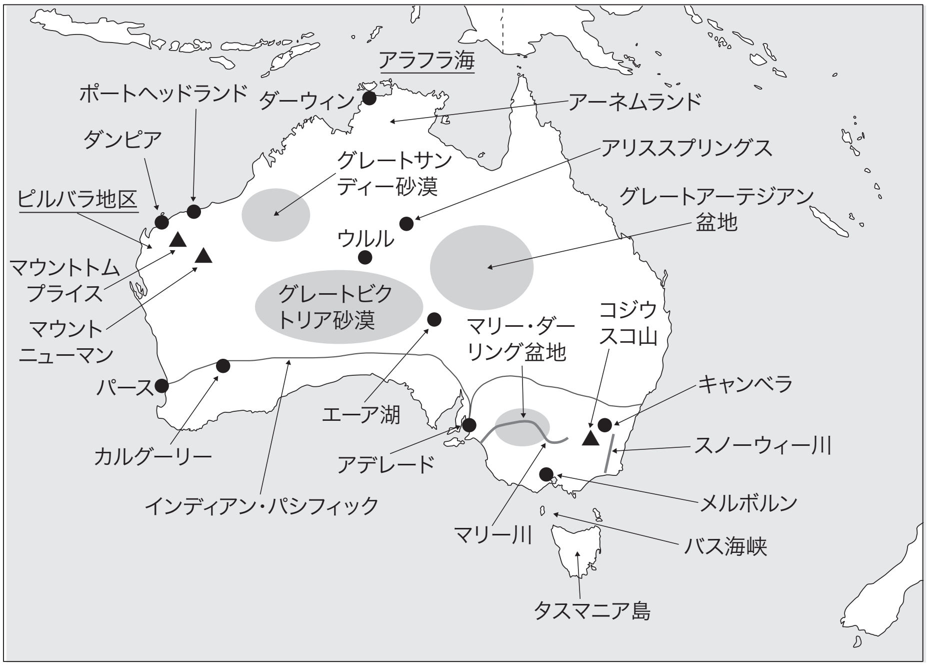
コジウスコ山・・・オーストラリアアルプス山脈に位置する大陸最高峰。標高は2000m程度に過ぎない。
バス海峡・・・オーストラリア大陸とタスマニア島の間の海峡。南緯40度の緯線が通過している。バスはこの地域を探検したイギリス人の名前(ジョージ・バス)に由来。
タスマニア州・・・タスマニア島を中心とする州。州都ホバート。
タスマニア島・・・オーストラリア大陸の南に浮かぶ島。先住民族タスマニア人は現在では絶滅している。
サウスオーストラリア州・・・中南部。州都アデレード。
(5　　　　　　　　)・・・サウスオーストラリア州の州都。地中海性気候(Cs)。赤道を挟んで東京とほぼ線対称の位置(南緯35度・東経140度)にある。
マリー・ダーリング盆地・・・マリー川中流に広がる盆地。灌漑によって企業的な小麦地帯となっている。
(6　　　　　　　　)川・・・外来河川であるが，スノーウィーマウンテンズ計画による灌漑によって，その流域では小麦がさかんに栽培されている。
スノーウィー川・・・オーストラリアアルプス山脈に水源を発し，大陸の湿潤地域を流れる河川。スノーウィーマウンテンズ計画によって山脈を貫くトンネルが建設され，河川水は西側のマリー川へと導水されている。

＜内陸部・西部＞

乾燥気候が広がる。より乾燥の度合の高い大陸中央部で砂漠気候(BW)，沿岸に近い地域でステップ気候(BS)。

(7　　　　　　　　)盆地・・・大鑽井(だいさんせい)盆地とも。グレートディヴァイディング山脈の西方の内陸部に位置する半乾燥の盆地。年降水量は500mm程度もしくはそれ未満だが，被圧地下水(不透水層に挟まれた帯水層中に地下水が含まれ，地形全体が傾斜していると，この地下水は圧力を受けていることになる。井戸を掘り抜くと，この被圧地下水は自噴する)を利用して，大規模に毛羊種のメリノ種が放牧されている。企業的牧畜地帯となる。
エーア湖・・・グレートアーテジアン盆地南部の内陸湖。
グレートビクトリア砂漠・・・大陸南部に位置する砂漠。
ウェスタンオーストラリア州・・・乾燥の度合が高い地域であるが，とくに鉄鉱石や金鉱などの資源に恵まれている。
(8　　　　　　　　)・・・ウェスタンオーストラリア州都。大陸西岸の港湾都市。金鉱の集散地として栄えた。外港はフリマントル。
インディアン・パシフィック・・・太平洋岸シドニーとインド洋岸パースとを結ぶ大陸横断鉄道。ナラーバー平原を通過する際，この鉄道は世界最長の直線区間となる。
(9　　　　　　　　)・・・ウェスタンオーストラリア州に位置する金鉱山。19世紀中頃にゴールドラッシュが起こった。金鉱を独占しようとするイギリス系住民により白豪主義が徹底され，中国などアジアからの移民制限，先住民アボリジニーの迫害などが行われた。
(10　　　　　　　　)地区・・・大陸北西部の巨大な鉄鉱床地域。
マウントニューマン(マウントホエールバック)・・・代表的な鉄山。
ポートヘッドランド・・・マウントニューマンと鉄道でつながる鉄鉱石の積み出し港。
マウントトムプライス・・・代表的な鉄山。

ダンピア・・・マウントトムプライスと鉄道でつながる鉄鉱石の積み出し港。
グレートサンディー砂漠・・・大陸西部に位置する砂漠。
ノーザンテリトリー(北部準州)・・・内陸部では乾燥の度合が激しく，北部ではサバナ気候がみられる。行政の中心はダーウィン。
アラフラ海・・・オーストラリア大陸とニューギニア島の間に広がる海域。水深は浅い。インド洋の一部であり，夏季(南半球なので1月頃)サイクロンが発生する。
(11　　　　　　　　)・・・ノーザンテリトリー州都。サバナ気候(Aw)。
アーネムランド・・・ボーキサイト(ゴブ)やウラン鉱(レンジャー)など資源が豊富。
アリススプリングス・・・大陸中央部，ウルル観光の拠点都市。砂漠気候(BW)。
(12　　　　　　　　)(エアーズロック)・・・一枚岩からなる巨大な山塊。時間(太陽の位置)によって色を微妙に変える。先住民アボリジニーの聖地であり，土地は彼らに返還され，保全や管理がなされている。世界遺産。

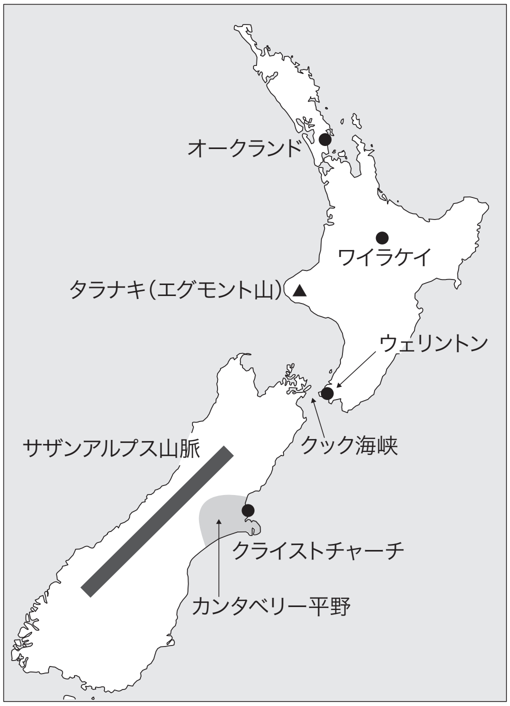


ニュージーランド

プレート境界に沿って国土が連なる。北島には火山，南島には脊梁(せきりょう)山脈。暖流(東オーストラリア海流)や偏西風の影響によって年間を通じ変化の少ない気候がみられ，気温年較差は高緯度のわりには小さい。西岸海洋性気候(Cfb)。

(13　　　　　　　　)・・・人口最大都市。旧首都。周辺では酪農が行われている。
ワイラケイ・・・地熱発電所。
タラナキ(エグモント)山・・・北島に位置する成層火山。タラナキはマオリ語。
(14　　　　　　　　)・・・首都。ほぼ南緯40度でクック海峡に面する。
クック海峡・・・北島と南島の間の海峡。クックとはかつてこの地域を探検したイギリス人の名前。
サザンアルプス山脈・・・南島の脊梁山脈。最高峰はクック山。

カンタベリー平野・・・南島東部の平原。穀倉地帯で小麦の栽培がさかん。農業区分としては混合農業地帯に区分され，やや降水量が少ないので羊の飼育が中心(毛肉兼用種のコリデール種)。
(15　　　　　　　　)・・・カンタベリー平野の中心都市。2011年の地震によって被害を受ける。
タスマン海・・・オーストラリアとニュージーランドの間の海域。タスマンとはかつてこの地域を探検したオランダ人の名前。
トンガ海溝・ケルマデック海溝・・・ニュージーランドの北に連なる海溝。



太平洋の島々

おおまかに，日付変更線以西・赤道以北のミクロネシア，日付変更線以西・赤道以南のメラネシア，日付変更線以東のポリネシアに分類されると考えよう。例外も多いが，ナウル(赤道以南であるがミクロネシアに含まれる)と，ニュージーランド(日付変更線以西であるがポリネシア)は確実に知っておこう。

＜ミクロネシア(小さな島々)＞

マリアナ諸島・・・アメリカ合衆国領。サイパン島やグアム島など火山性の島々。
マリアナ海溝・・・マリアナ諸島に沿う海溝。太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界。
チャレンジャー海淵・・・マリアナ海溝南部のとくに水深の深い場所。世界最深の深度約10000mの地点が存在。
(16　　　　　　　　)・・・リン鉱石(鳥のフンが積もって石化したグアノに含まれる)の産出がさかんだったが，現在は枯渇。

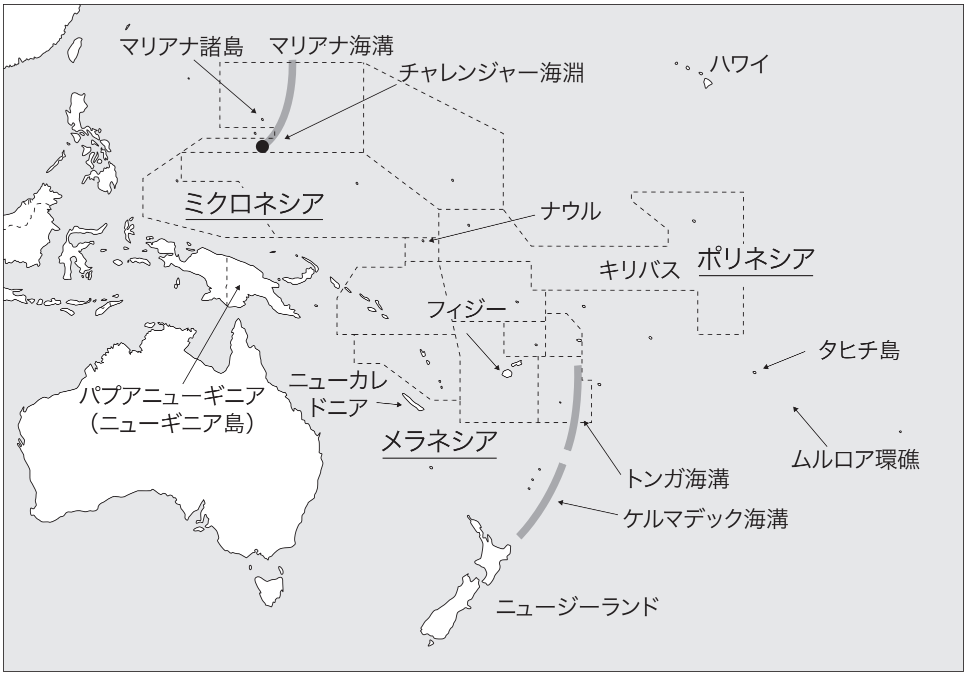
キリバス・・・東半球と西半球にまたがって国土が広がり（日付変更線は経度180度の経線を越えて東側に張り出している），世界で最も早く太陽が昇る国。

＜メラネシア（黒い島々）＞

（17　　　　　　　　　）島・・・グリーンランドに次ぐ面積世界２位の島。標高5000m近くに達する高山も。
パプアニューギニア・・・ニューギニア島の東部を占める国。西部はインドネシア（イリアンジャヤ地方）。
（18　　　　　　　　　）・・・フランスの海外県。ニッケルを産する。「天国に一番近い島」とよばれ，美しいサンゴ礁の海岸を持つ。
（19　　　　　　　　　）・・・サトウキビの栽培が行われる。メラネシア系の先住民とサトウキビ栽培のために流入したインド人の子孫との間で対立が生じる。

＜ポリネシア（多くの島々）＞

ニュージーランド・・・先住民のマオリはポリネシア系。
ハワイ・・・アメリカ合衆国50番目の州。人口に占める白人の割合は３分の１程度であり，日系人をはじめとするアジア系の方が多い。太平洋系，先住系の人々も居住。
（20　　　　　　　　　）島・・・現地名は「ラパ・ヌイ」。モアイで有名。チリ領。
タヒチ島・・・フランス領。画家ゴーギャンが移住し多くの絵画を残した。
（21　　　　　　　　　）環礁・・・フランス領。かつて核実験が行われた。



解　答

［1］東アジア・東南アジア（1）

1・ターチン(大慶)　2・アンシャン(鞍山)　3・黄河(ホワンホー)　4・ペキン(北京)
5・テンチン(天津)　6・シーアン(西安)　7・長江(チャンチアン)　8・シャンハイ(上海)
9・サンシャ(三峡)　10・スーチョワン(四川)　11・チョンチン(重慶)
12・シェンチェン(深圳)　13・ホンコン(香港)　14・マカオ(澳門)
15・コワンシー(広西)チョワン族　16・内モンゴル　17・ゴビ
18・シンチアン(新疆)ウイグル　19・テンシャン(天山)　20・タクラマカン
21・チベット(西藏)　22・ラサ(拉薩)　23・ヒマラヤ　24・タイペイ(台北)

［2］東アジア・東南アジア（2）

1・ソウル　2・インチョン　3・パンムンジョム(板門店)　4・テベク　5・ポハン
6・プサン　7・チェジュ　8・ハノイ　9・ホーチミン　10・メコン　11・ビエンチャン
12・トンレサップ　13・アンコールワット　14・エーヤワディー　15・バンコク
16・チャオプラヤ

［3］東アジア・東南アジア（3）

1・マニラ　2・ミンダナオ　3・南沙(スプラトリー)　4・クアラルンプール
5・シンガポール　6・ジュロン　7・マラッカ　8・カリマンタン　9・スマトラ
10・ジャワ　11・ジャカルタ　12・バリ　13・バタム　14・ティモール

［4］南アジア

1・ダッカ　2・インダス　3・カシミール　4・カラチ　5・セイロン　6・モルディブ
7・アッサム　8・コルカタ　9・ガンジス　10・ヒンドスタン　11・デリー
12・ダモダル　13・ジャムシェドプル　14・デカン　15・チェンナイ　16・バンガロール
17・西ガーツ　18・ムンバイ

［5］西アジア・中央アジア

1・テヘラン　2・カスピ　3・ペルシャ　4・ホルムズ　5・リヤド　6・メッカ
7・紅　8・イラク　9・クウェート　10・アラブ首長国連邦　11・シリア
12・エルサレム　13・ヨルダン　14・ガザ　15・アンカラ　16・イスタンブール
17・カッパドキア　18・カザフスタン　19・ウズベキスタン　20・トルクメニスタン

［6］アフリカ

１・カイロ　２・ナイル　３・アスワンハイ　４・リビア　５・アルジェリア
６・モロッコ　７・スーダン　８・エチオピア　９・ソマリア　10・セネガル
11・コートジボワール　12・ガーナ　13・ラゴス　14・ニジェール　15・コンゴ
16・カッパー　17・ナイロビ　18・ホワイト　19・ルワンダ　20・マダガスカル
21・ドラケンスバーグ　22・ヨハネスバーグ　23・ケープタウン

［7］北西ヨーロッパ（1）

１・レイキャビク　２・スカンディナヴィア　３・ベルゲン　４・ナルヴィク
５・バルト　６・ストックホルム　７・ヘルシンキ　８・コペンハーゲン
９・グリーンランド　10・グラスゴー　11・マンチェスター　12・リーズ
13・バーミンガム　14・カーディフ　15・ロンドン　16・ドックランズ　17・レッチワース

［8］北西ヨーロッパ（2）

１・アムステルダム　２・ロッテルダム　３・ユーロポート　４・ブリュッセル
５・アントウェルペン　６・ハンブルク　７・ウォルフスブルク　８・ベルリン
９・ライン　10・ルール　11・フランクフルト　12・シュヴァルツヴァルト
13・ミュンヘン　14・ベルン　15・ジュネーブ　16・ウィーン　17・ダンケルク
18・セーヌ　19・パリ　20・ラデファンス　21・アルザス　22・ストラスブール
23・ブルターニュ　24・トゥールーズ　25・ローヌ　26・マルセイユ

［9］南ヨーロッパ

１・マドリード　２・カタルーニャ　３・バルセロナ　４・バスク　５・ジブラルタル
６・リスボン　７・トリノ　８・ミラノ　９・ポー　10・ヴェネツィア　11・ローマ
12・タラント　13・ギリシャ　14・キプロス

［10］東ヨーロッパ

１・ワルシャワ　２・アウシュヴィッツ　３・プラハ　４・エルベ　５・ブダペスト
６・プスタ　７・ブカレスト　８・カルパティア　９・ソフィア　10・スロベニア
11・クロアチア　12・ボスニア・ヘルツェゴビナ　13・セルビア　14・コソヴォ

[11] ロシアと周辺諸国

1・エストニア　2・ラトビア　3・リトアニア　4・ミンスク　5・キエフ
6・クリヴォイログ　7・ジョージア　8・アゼルバイジャン　9・モスクワ
10・サンクトペテルブルク　11・ヴォルガ　12・チェチェン　13・ウラル
14・チュメニ　15・シベリア　16・バイカル　17・イルクーツク　18・オイミャコン
19・ウラジオストク

[12] 北アメリカ（1）

1・ケベック　2・セントローレンス　3・モントリオール　4・オタワ　5・トロント
6・ウィニペグ　7・エドモントン　8・ヴァンクーヴァー　9・ヌナブト　10・ボストン
11・ニューヨーク　12・ピッツバーグ　13・ワシントンD.C.　14・デトロイト　15・シカゴ
16・アパラチア　17・アトランタ　18・ルイジアナ　19・ニューオーリンズ
20・マイアミ　21・テキサス　22・ヒューストン　23・リオグランデ

[13] 北アメリカ（2）

1・メサビ　2・ミシシッピ　3・セントルイス　4・カンザス　5・ソルトレークシティ
6・グランドキャニオン　7・ラスヴェガス　8・シアトル　9・カリフォルニア
10・サンフランシスコ　11・サンアンドレアス　12・ロサンゼルス　13・アンカレジ
14・ハワイ　15・マウナケア　16・メキシコシティ　17・マキラドーラ　18・モンテレー
19・パナマ　20・キューバ　21・ジャマイカ　22・ハイチ

[14] 南アメリカ

1・アンデス　2・ボゴタ　3・リャノ　4・マラカイボ　5・ガイアナ　6・スリナム
7・キト　8・ガラパゴス　9・リマ　10・イキトス　11・ラパス　12・アタカマ
13・サンティアゴ　14・ブエノスアイレス　15・ラプラタ　16・湿潤パンパ
17・乾燥パンパ　18・アマゾン　19・マナオス　20・カラジャス　21・ブラジリア
22・イタビラ　23・リオデジャネイロ　24・サンパウロ　25・イタイプ

[15] オセアニア

1・グレートバリアリーフ　2・グレートディヴァイディング　3・シドニー
4・メルボルン　5・アデレード　6・マリー　7・グレートアーテジアン　8・パース
9・カルグーリー　10・ピルバラ　11・ダーウィン　12・ウルル　13・オークランド
14・ウェリントン　15・クライストチャーチ　16・ナウル　17・ニューギニア
18・ニューカレドニア　19・フィジー　20・イースター　21・ムルロア